１） 基礎分野

〈基礎分野の考え方〉

『基礎分野』は、「専門基礎分野」、「専門分野」の基礎として位置づける。

人間理解に必要な知識と、科学的に物事を捉え分析する能力、人間の普遍性と多様性を理解する。また、人間と人間生活に深く関心を寄せる心と感性を育む。さらに、看護に必要な倫理観やICTを活用するための基礎的能力を養い、専門分野につなげる。

〈基礎分野の科目設定理由〉

1　科学的思考の基盤として、以下の5科目を設定した。

(1)「論理学」

物事を科学的に分析し、自ら表現する能力を養う。

(2)「教育学」

人の社会的存在として成長する過程を、教育的側面から考える。

(3)「生活の科学」

人間の身体と看護を物理学の視点から科学的に分析する。

(4)「情報科学Ⅰ・Ⅱ」

パソコンの基本操作と実践で活用するための基礎的能力を身につける。

2　人間と生活・社会の理解として、以下の9科目を設定した。

(1)「心理学」

人間の心理と行動のメカニズムを学び、人の心の動きを理解する。

(2)「人間関係論」

良好な人間関係を築くための基礎的知識とコミュニケーションスキルを養う。

(3)「生命倫理」

現代医療において生じる生命倫理の諸問題の知識を身につけ、自ら考える。

(4)「環境論」

人間生活をとりまく環境を理解する。

(5)「保健体育」、「音楽・美術（選択必修)」

自らの感性を磨き、学び成長する力を育む。

(6)「英語Ⅰ・Ⅱ」

英語を用いたコミュニケーションスキルを養う。

(7)「経済学」

経済の基本的な考え方を学ぶとともに、医療福祉や健康と経済の関係について理解する。

科学的思考の基盤

科目名	論理学				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　　前期
担当講師	人文社会系研究科修士。基礎文化研究を専攻し、論理的・実証的思考についての研究を活かし教授する。				
科目目標	論理的な文章の仕組みを理解し、論理的な文章を自分で組み立てられるようになる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	イントロダクション：クリティカル・シンキングとは何か	講義	外部講師
２	論証とは何か	講義	外部講師
３	論証を特定する	講義	外部講師
４	論証を評価する(1)	講義	外部講師
５	論証を評価する(2)	講義	外部講師
６	論証を評価する(3)	講義	外部講師
７	ワーク（1）論証を述べる＆評価する	講義・演習	外部講師
８	ワーク（1）のふりかえり	講義・演習	外部講師
９	小論文を書こう(1)	講義・演習	外部講師
１０	小論文を書こう(2)	講義・演習	外部講師
１１	論証を評価する(3)	講義・演習	外部講師
１２	論証を評価する(4)	講義・演習	外部講師
１３	小論文ワークのふりかえり	講義・演習	外部講師
１４	学期のまとめと試験対策	講義	外部講師
１５	試験（2時間）		

テキスト	なし
参考図書	野矢茂樹（2017）『大人のための国語ゼミ』、山川出版社 伊勢田哲治（2005）『哲学思考トレーニング』、ちくま新書 戸田山和久（2012）『新版 論文の教室　レポートから卒論まで』、NHK出版
評価方法	課題・筆記試験
備考	

科目名	生活の科学				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　　前期
担当講師	高校物理学の教員としての経験を活かし教授する。				
科目目標	我々の身の周りには科学技術の成果があふれており、科学的思考のセンスを養うことが重要である。このため、ボディメカニクスにかかわる力の話、熱、圧力、光等を題材として科学的センスを養い、生活の中での様々な事態に対処する基礎を身につける。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	「単位系」と「力の単位」 単位変換に役立つトルクの知識	講義	外部講師
２	仕事とエネルギー、安定・不安定	講義	外部講師
３	「力のつりあい」を応用する：牽引	講義	外部講師
４	作用・反作用	講義	外部講師
５	力学を人体に適応する (1) 体位変換の方法とその根拠	講義	外部講師
６	〃 (2) 褥瘡、仙骨に作用する力の大きさ	講義	外部講師
７	「摩擦」について	講義	外部講師
８	温度と罨法について	講義	外部講師
９	体熱の生産と喪失のバランス	講義	外部講師
１０	圧力の基礎知識、空気の圧力	講義	外部講師
１１	血圧に関する知識	講義	外部講師
１２	酸素ボンベ、真空管採血の原理	講義	外部講師
１３	点滴や輸血、経管栄養を行う際の液体の落下速度	講義	外部講師
１４	紫外線・赤外線、放射線のもつ特性と基礎知識	講義	外部講師
１５	試験（2時間）		

テキスト	完全版　「ベッドサイドを科学する―看護に生かす物理学」　　改訂第3版 平田雅子著　　学習研究社 1日20分10日でできる　看護計算ドリル　第2版
参考図書	「看護学生のための物理学」佐藤和艮著　医学書院 「看護に必要なやりなおし数学・物理」　時政孝行著　照林社
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	教育学				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	１年次　　後期
担当講師	大学教育学部准教授。専門は教育制度学で、教育を受ける権利を保障するための公教育のあり方について、国際比較や行政学などの知見を生かし教授活動を行っている。				
科目目標	本講義の目的は、教育をめぐる問題への考察を通じて、現代社会における人間形成の課題と可能性について理解を深める。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	現代社会の特徴と教育をめぐる問題	講義	外部講師
2	教育と学校の歴史	講義	外部講師
3	教育の制度	講義	外部講師
4	教師に求められる資質	講義	外部講師
5	健康と教育	講義	外部講師
6	特別支援教育の現状と課題	講義・GW	外部講師
7	これからの教育と人間形成の展望	発表・講義	外部講師
8	試験（1時間）		

テキスト	新体系　看護学全書　基礎科目　教育学　：　メヂカルフレンド社
参考図書	講義内で紹介する。
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	情報科学Ⅰ				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	２年次　　前期
担当講師	大学の情報教育センター講師。専門性を活かし教授活動を行っている。				
科目目標	１　情報社会に対応するためのパソコンの基礎知識を身につけるとともに アプリケーションソフトの活用を学ぶ。 ２　インターネットの基礎的知識を学ぶとともに情報セキュリティの重要性と 配慮などの基礎的知識を学ぶ。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	パソコンの基本操作、電子メールやブラウザの使い方	講義・演習	外部講師
2	セキュリティーの必要性、情報倫理、個人情報保護法、著作権と知的財産	講義	外部講師
3	Wordの基本操作（文字の入力、書式設定、ページ設定、範囲設定）	講義・演習	外部講師
4	Wordで図表の作成（画像・図形の挿入、 テキストボックス）	講義・演習	外部講師
5	Excelの基本操作（書式の設定、表の作成）	講義・演習	外部講師
6	Excelの操作（グラフの作成、関数）	講義・演習	外部講師
7	Excelの操作（関数）	講義・演習	外部講師
8	試験（1時間）		

テキスト	コメディカル教育のための　情報リテラシーとコンピュータの基礎：共立出版
参考図書	
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	情報科学Ⅱ				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	２年次　　前期
担当講師	大学の情報教育センター講師。専門性を活かし教授活動を行っている。				
科目目標	１　研究技法のひとつとして、統計学の基礎を学ぶ。 ２　プレゼンテーションソフトを用いて、効果的に発表できる能力を身につける。 ３　医療分野で利用されている電子カルテについて学ぶ。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	統計の基礎、度数分布表の作成	講義・演習	外部講師
2	平均、中央値、標準偏差	講義・演習	外部講師
3	正規分布、確率変数、確率密度	講義・演習	外部講師
4	プレゼンテーションの基本操作（基本操作、企画） スライドの作成、イラストの挿入、 アニメーションの設定など	講義・演習	外部講師
5	プレゼンテーションの資料作成	講義・演習	外部講師
6	発表	講義・演習	外部講師
7	電子カルテの機能について	講義・演習	外部講師
8	試験（1時間）		

テキスト	コメディカル教育のための　情報リテラシーとコンピュータの基礎：共立出版
参考図書	
評価方法	筆記試験
備考	

人間と生活、社会の理解

科目名	心理学				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　　前期
担当講師	大学院博士課程　保健医療学専攻　臨床心理学分野に在学し、学修経験を活かし教授する。				
科目目標	１　人間の心理と行動のメカニズムを学び、人の心の動きを推察する意義を理解する。 ２　自己理解・他者理解など人間理解や自己成長に役立て、日常生活・看護に活かせる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	講義ガイダンス　心理学とは	講義	外部講師
２	感覚と知覚	講義	外部講師
３	記憶	講義	外部講師
４	思考・言語・知能	講義	外部講師
５	学習	講義	外部講師
６	感情	講義	外部講師
７	動機づけ	講義	外部講師
８	性格とパーソナリティ	講義	外部講師
９	社会と集団	講義	外部講師
１０	発達(1)	講義	外部講師
１１	発達(2)	講義	外部講師
１２	医療・看護と心理	講義	外部講師
１３	カウンセリング理論	講義	外部講師
１４	カウンセリング演習	演習	外部講師
１５	試験（2時間）		

テキスト	系統看護学講座　基礎分野　：　「心理学」　　医学書院
参考図書	
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	人間関係論				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　　前期
担当講師	臨床心理士・公認心理士。心療内科やクリニックで心理臨床業務に携わっている。				
科目目標	１　基本的な臨床心理学の学習を通して、良好な対人関係を築く上で必要な自己理解を深めるとともに、実技を通して看護職に必要なコミュニケーションスキルを身につけ、グループワークを通して協働の姿勢を学ぶ。 ２　看護の対象としての家族の関係性及びコミュニケーションの様態を理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	人間関係とストレス	講義	外部講師
２	ストレスコーピング	講義	外部講師
３	自分の言動の癖を知る：交流分析とエゴグラム：小レポート（1）	講義	外部講師
４	自分の思考の癖を知る：認知療法	講義	外部講師
５	家族を知る：家族構造と援助資源のアセスメント	講義	外部講師
６	コミュニケーションとサポート：小レポート（2）	講義	外部講師
７	支援方法1：マイクロカウンセリング	講義	外部講師
８	支援方法2：ブリーフセラピー	講義	外部講師
９	ソーシャルスキルトレーニング	講義	外部講師
１０	ソーシャルスキルトレーニング：小レポート（3）	演習	外部講師
１１	多人数のアイディアをまとめる：KJ法	演習	外部講師
１２	課題作成	GW	外部講師
１３	〃	GW	外部講師
１４	課題発表	発表	外部講師
１５	試験（2時間）		

テキスト	なし。毎回授業の際に資料を配付する。
参考図書	なし。各回テーマに沿って参考資料を紹介する。
評価方法	レポート・グループワーク課題・筆記試験
備考	

科目名	生命倫理				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　　前期
担当講師	人文社会系研究科修士。基礎文化研究を専攻し、論理的・実証的思考についての研究を活かし教授する。				
科目目標	現代医療において生じる生命倫理の諸問題に関する社会的、法的、哲学的な背景知識を身につけ、自ら問題を考えられるようにする。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	イントロダクション：生命倫理とは何か	講義	外部講師
２	人工妊娠中絶・出生前診断(1)	講義	外部講師
３	人工妊娠中絶・出生前診断(2)	講義	外部講師
４	脳死・臓器移植(1)	講義	外部講師
５	脳死・臓器移植(2)	講義	外部講師
６	安楽死・尊厳死(1)	講義	外部講師
７	安楽死・尊厳死(2)	講義	外部講師
８	不妊治療・生殖補助医療(1)	講義	外部講師
９	不妊治療・生殖補助医療(2)	講義	外部講師
１０	再生医療・遺伝子操作(1)	講義	外部講師
１１	再生医療・遺伝子操作(2)	講義	外部講師
１２	インフォームド・コンセントと患者・被験者の人権(1)	講義	外部講師
１３	インフォームド・コンセントと患者・被験者の人権(2)	講義	外部講師
１４	学期のまとめと試験対策	講義	外部講師
１５	試験（2時間）		

テキスト	
参考図書	黒崎剛、野村俊明編（2014）『生命倫理の教科書』、ミネルヴァ書房
評価方法	課題・筆記試験・出席
備考	

科目名	環境論				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　　前期
担当講師	環境カウンセラー。エネルギー、環境教育、地球環境問題等が専門で、幅広く活躍している。				
科目目標	環境問題について学ぶ。また、環境問題について自分で判断できる能力を養う。				
基本的な考え方	・環境とは、自分を取り囲む周りのものすべてである。 ・地球の資源（水・酸素含む）は有限であり、ヒトが地球の資源を大量に消費し大量に破棄することで、環境問題が起きている。 ・大局的・全域的・地球全体としてだけでなく、局所的・地域的・身の回りに起きていることとして環境問題を考える。 ・環境問題は、「周囲」だけでなく、人体にも影響する。 ・人間の活動を適正に制御し、環境保全型の行動に代えていき、環境問題に対応する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	地球と環境問題	講義	外部講師
２	食と環境問題	講義	外部講師
３	衣と環境問題、ごみ問題	講義	外部講師
４	住まいと環境問題	講義	外部講師
５	大気・気象	講義	外部講師
６	地球温暖化(1)	講義	外部講師
７	エネルギー	講義	外部講師
８	水田農業の「安全・安心」と環境問題	講義	外部講師
９	生物多様性とは！環境保全対策	講義	外部講師
１０	水と環境問題	講義	外部講師
１１	生物を使った川の健康診断	野外活動	外部講師
１２	〃	野外活動	外部講師
１３	地球温暖化(2)	講義	外部講師
１４	持続可能な社会～SDG’s～、まとめ	講義	外部講師
１５	試験（2時間）		

テキスト	なし。必要時資料配布する。
参考図書	特に指定せず
評価方法	筆記試験
備考	必要に応じ、調査・体験。課題

科目名	保健体育				
単位数	１単位	時間	１６時間	履修学年	１年次　　前期
担当講師	高校の体育の実務経験が豊富にあり、経験を踏まえ教授する。				
科目目標	１　運動に親しみ、体力の向上と健康増進につとめる。 ２　生涯にわたって積極的に運動に親しむ資質や能力を養う。 ３　運動を通して仲間との交流を深め、他人と協調し、思いやる心をはぐくむ。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1　ストレッチ	実技	外部講師
2	2　団体競技 ・バレーボール	実技	外部講師
3	〃 ・バレーボール	実技	外部講師
4	〃 ・バレーボール	実技	外部講師
5	〃 ・バスケットボール	実技	外部講師
6	〃 ・バスケットボール	実技	外部講師
7	〃 ・バドミントン、卓球	実技	外部講師
8	〃 ・バドミントン、卓球	実技	外部講師

テキスト	なし
参考図書	ステップアップ高校スポーツ：大修館書店
評価方法	いかに授業に参加し、活動したかを基本にする。 技術、協調性、積極性等が評価基準になる。 出欠席状況、授業への参加状況
備考	

科目名	音楽（選択必修）				
単位数	１単位	時間	１６時間	履修学年	２年次　　前期
担当講師	短期大学のピアノ非常勤講師など、実務経験を踏まえ活動している				
科目目標	１　さまざまな音楽をとおして感性を育む。また、音楽による心身に及ぼす影響を理解する。 ２　歌をとおして仲間との協調性を養うとともに自己表現の能力を養う。また、歌の成果を社会貢献に役立てる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	校　歌 音楽鑑賞（クラシック音楽、映画音楽、ミュージカル音楽など）	実技 DVD視聴	外部講師
2	〃	DVD視聴 実技	外部講師
3	さまざまな音楽の道具を知る。	講義・実技	外部講師
4	歌　　唱	実技	外部講師
5	〃	実技	外部講師
6	〃	実技	外部講師
7	〃	実技	外部講師
8	発表	校外 発表	外部講師

テキスト	なし
参考図書	
評価方法	実技・レポート
備考	

科目名	美術（選択必修）				
単位数	１単位	時間	１６時間	履修学年	２年次　　前期
担当講師	美術教育・美術鑑賞学習等の専門家として活躍し、その経験を活かして教授する。				
科目目標	1　美術の幅広い知識と造形的な技能を学びながら創造的な表現力と鑑賞力を伸ばし、豊かな感性を育てる。 2　美術の表現と鑑賞を通して、生活環境や趣味嗜好における美術との関わりについて理解を深め、専門分野における活用を考える。				
方　法	演習方法 表現と鑑賞に関わる実技を行う。作品や資料、制作のプロセス、ふり返りなどをスケッチブックにまとめ、自分のポートフォリオを作成しつつ造形的に思考し、制作表現や鑑賞に取り組む。				
学習内容	学習の前半は、線を活かした描画表現の特質と技能を学び、自己理解を深めながら自分のオリジナル・キャラクターを作成する。 学習の後半は、さまざまな色彩理論を学び、造形的なコミュニケショーン能力を高めながら社会性のあるポスターを制作する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	線の造形遊びから自分の表現を試みよう	実技	外部講師
2	自分の似顔絵：誰でも描ける自画像とは	実技	外部講師
3	「私」のオリジナル・キャラクターをデザインしてみよう	実技	外部講師
4	色彩学の基本と配食のスキルを学ぶ	実技	外部講師
5	「私」のオリジナル・キャラクターを活用する	実技	外部講師
6	絵画作品の色彩分析と鑑賞	実技	外部講師
7	視覚伝達：ポスター制作	実技	外部講師
8	作品発表と評価	発表	外部講師

テキスト	テキストの指定はないが、必要な資料は授業時に適宜配布する。
参考図書	1　小河原智子『ビジネスマンの似顔絵活用超入門』（経法ビジネス新書，2016年） 2　小河原智子（監修）『小河原智子の似顔絵入門』（主婦の友，2016年） 3　PUKUMUKU『キャラクターデザイン』（玄光社，2013年） 4　日本食彩研究所監修『デザインの色彩』（日本色研事業株式会社，2018年） 5　アラン・ド・ボトン＆ジョン・アームストロング『美術は魂に語りかける』（河出書房新社，2019）
評価方法	作品・ポートフォリオ
備考	

科目名	英語Ⅰ				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	２年次　　前期
担当講師	英会話スクール経営。言語教育哲学博士。実務経験を活かし幅広く教授活動を行っている。				
科目目標	患者に対する日常英会話と、専門用語を身につける。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	1　一般英語　　／自己紹介	講義	外部講師
２	(1) 単語/文法/リスニング/コミュニケーションスキル	講義	外部講師
３	(2) 単語/文法/リスニング/コミュニケーションスキル	講義	外部講師
４	(3) 単語/発音/リスニング/コミュニケーションスキル	講義	外部講師
５	(4) 単語/発音/リスニング/コミュニケーションスキル	講義	外部講師
６	(5) 単語/文法/発音/リスニング/コミュニケーションスキル	講義	外部講師
７	2　コミュニケーションスキル	講義	外部講師
８	(1) 身体部分、病名の名称/文法/リスニング/コミュニケーションスキル	講義	外部講師
９	(2) 身体部分、病名の名称/文法/リスニング/コミュニケーションスキル	講義	外部講師
１０	(3) 薬の名称/単語/発音/リスニング/コミュニケーションスキル	講義	外部講師
１１	(4) 病気の症状/単語/コミュニケーションスキル	講義	外部講師
１２	(5) 栄養について/単語/コミュニケーションスキル	講義	外部講師
１３	(6) 患者ケア/単語/文法/コミュニケーションスキル	講義	外部講師
１４	(7) まとめ/復習/コミュニケーションスキル	講義	外部講師
１５	3　試験（2時間）		

テキスト	Communication　Spotlight　3rd　Edition　:Starter:ABAX　ETC　Publishing
参考図書	必要に応じ、授業中に指示する。
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	英語Ⅱ				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	３年次　　前期
担当講師	高校の英語教師としての経験が豊富にあり、経験を踏まえて教授する。				
科目目標	看護の現場において、外国人との簡単な意思の疎通が行える英語の運用 能力を身につけることをねらいとする。具体的には、簡単な英文の聞き取り、 発音練習、英会話の育成、看護に必要な医療用語などを修得する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	Chapter１（単語、会話、英文解釈、リスニング、英作文）	講義	外部講師
２	〃	講義	外部講師
３	Chapter2（単語、会話、英文解釈、リスニング、英作文）	講義	外部講師
４	Chapter3（単語、会話、英文解釈、リスニング、英作文）	講義	外部講師
５	Chapter4（単語、会話、英文解釈、リスニング、英作文）	講義	外部講師
６	Chapter5（単語、会話、英文解釈、リスニング、英作文）	講義	外部講師
７	Chapter6（単語、会話、英文解釈、リスニング、英作文）	講義	外部講師
８	Chapter7（単語、会話、英文解釈、リスニング、英作文）	講義	外部講師
９	Chapter8（単語、会話、英文解釈、リスニング、英作文）	講義	外部講師
１０	Chapter9（単語、会話、英文解釈、リスニング、英作文）	講義	外部講師
１１	Chapter10（単語、会話、英文解釈、リスニング、英作文）	講義	外部講師
１２	Chapter11（単語、会話、英文解釈、リスニング、英作文） Review　Test2	講義	外部講師
１３	Chapter12（単語、会話、英文解釈、リスニング、英作文）	講義	外部講師
１４	Chapter13（単語、会話、英文解釈、リスニング、英作文）	講義	外部講師
１５	試験（2時間）		

テキスト	English　for　Medicine　－医療・看護のためのやさしい総合英語－　　金星堂
参考図書	必要に応じ、授業中に指示する。
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	経済学				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	３年次　　前期
担当講師	大学准教授。民間企業での実務経験を踏まえ、経済アナリストとして活躍し、数々の研究に取り組み、その専門性を活かし教授活動を行っている。				
科目目標	私たちは常に経済の一部であり、経済と無縁で生きることはできない。したがって、一人一人が経済を理解し経済問題に関して自分の意見を持つのは当然のこと。本科目では、経済学の基本的な考え方を学び、身の回りで起きる事象、日本経済を取り巻く状況、医療福祉や健康と経済の関係について、経済学の視点から分析し自分の意見を述べられるようになることを目指す。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	経済とは、経済学とは	講義	外部講師
2	経済学の基盤となる考え方	講義	外部講師
3	市場経済の仕組み	講義	外部講師
4	市場の調整機能と医療福祉関連市場の特徴	講義	外部講師
5	豊かさの測定：GDP	講義	外部講師
6	経済成長の測り方	講義	外部講師
7	経済成長と健康	講義	外部講師
8	試験（1時間）		

テキスト	特に指定しない
参考図書	マンキュー入門経済学（N・グレゴリー・マンキュー著、東洋経済新報社、第3版、2019年）
評価方法	リフレクションシート・筆記試験
備考	

２） 専門基礎分野

〈専門基礎分野の考え方〉

『専門基礎分野』は、専門分野の基礎として位置づける。

専門基礎分野では、人体の構造と機能を学び、人間の生活動作と関連づけられるようにする。また、看護の対象となる人が、健康や生活を障害されている原因と治療を理解する。さらに、健康な生活を支える社会と医療の仕組みや健康支援方法を学び看護に役だてる。

〈専門基礎分野の科目設定理由〉

1　人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進について、以下の 16 科目を設定した。

(1)「解剖生理学Ⅰ・Ⅱ」

人間の身体の構造と機能を理解する。

(2)「生化学」

人体の生命現象を引き起こす物質とその化学反応について理解する。

(3)「栄養学」

人間の生命と健康を保つための栄養を理解する。健康が障害されたときの回復を補助する食事療法を学び、生体の回復過程を理解する。

(4)「病理学」

疾病の成り立ちと生体の構造と機能の変化を概観し、「疾病と治療」の科目につなげていく。

(5)「微生物学」

微生物の種類と特徴を学び、生体への影響を理解する。また、感染症の基礎的知識を学び、感染予防の意識を高める。

(6)「薬理学」

薬物の作用と人体への影響を学び、健康回復を補助する薬理学の基礎的知識を学ぶ。

(7)「疾病と治療Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ」

生体の機能を系統的に分類し、疾病と治療について理解する。

(8)「リハビリテーション療法」

障害をかかえる人々へのリハビリテーション療法を学ぶことで看護に役立てる。

2　健康支援と社会保障制度について、以下の 6 科目を設定した。

(1)「医療概論」

現代の保健医療の概要と諸問題を理解し、看護の役割と医療従事者としての心構えを身につける。

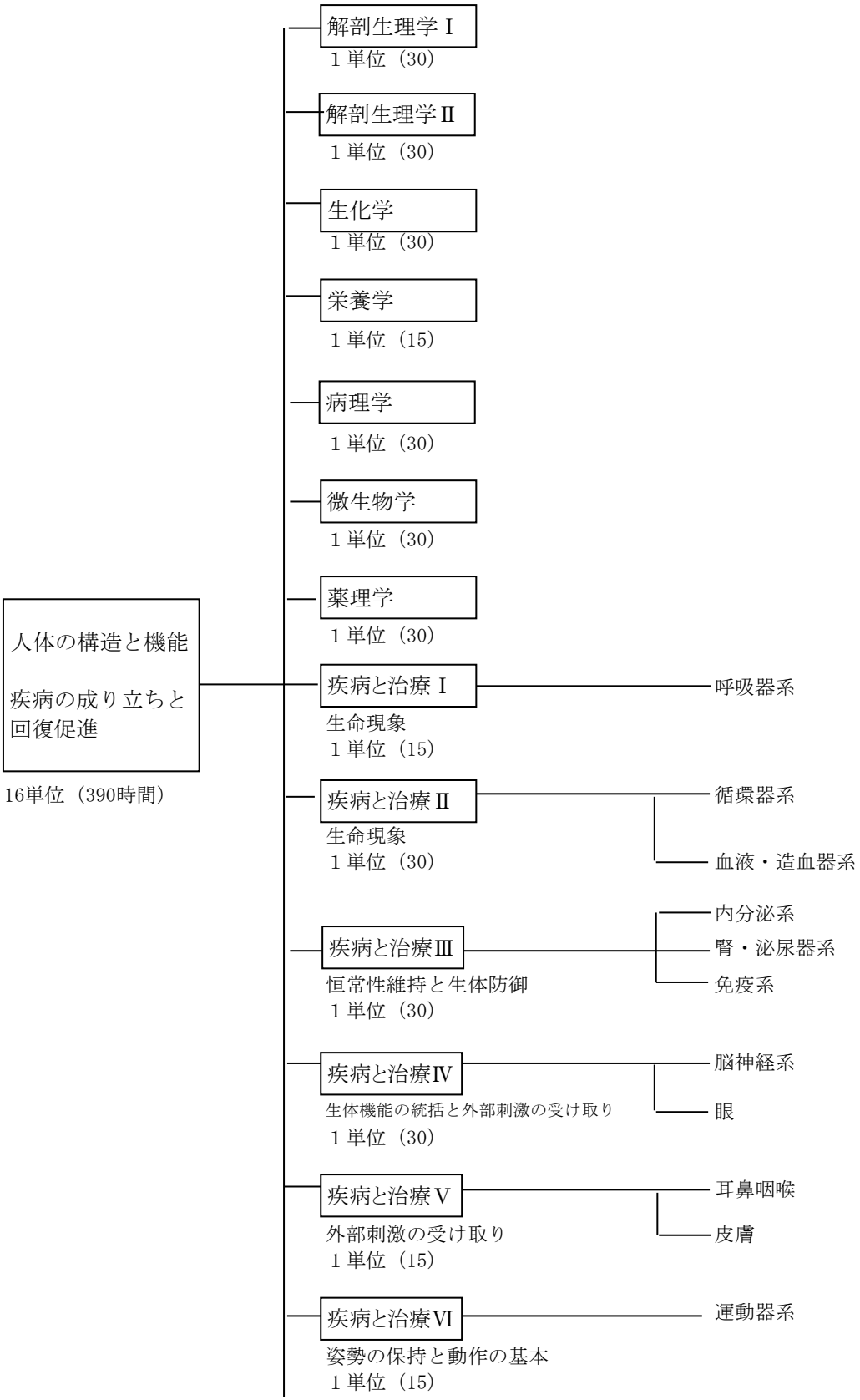
(2)「運動と健康」

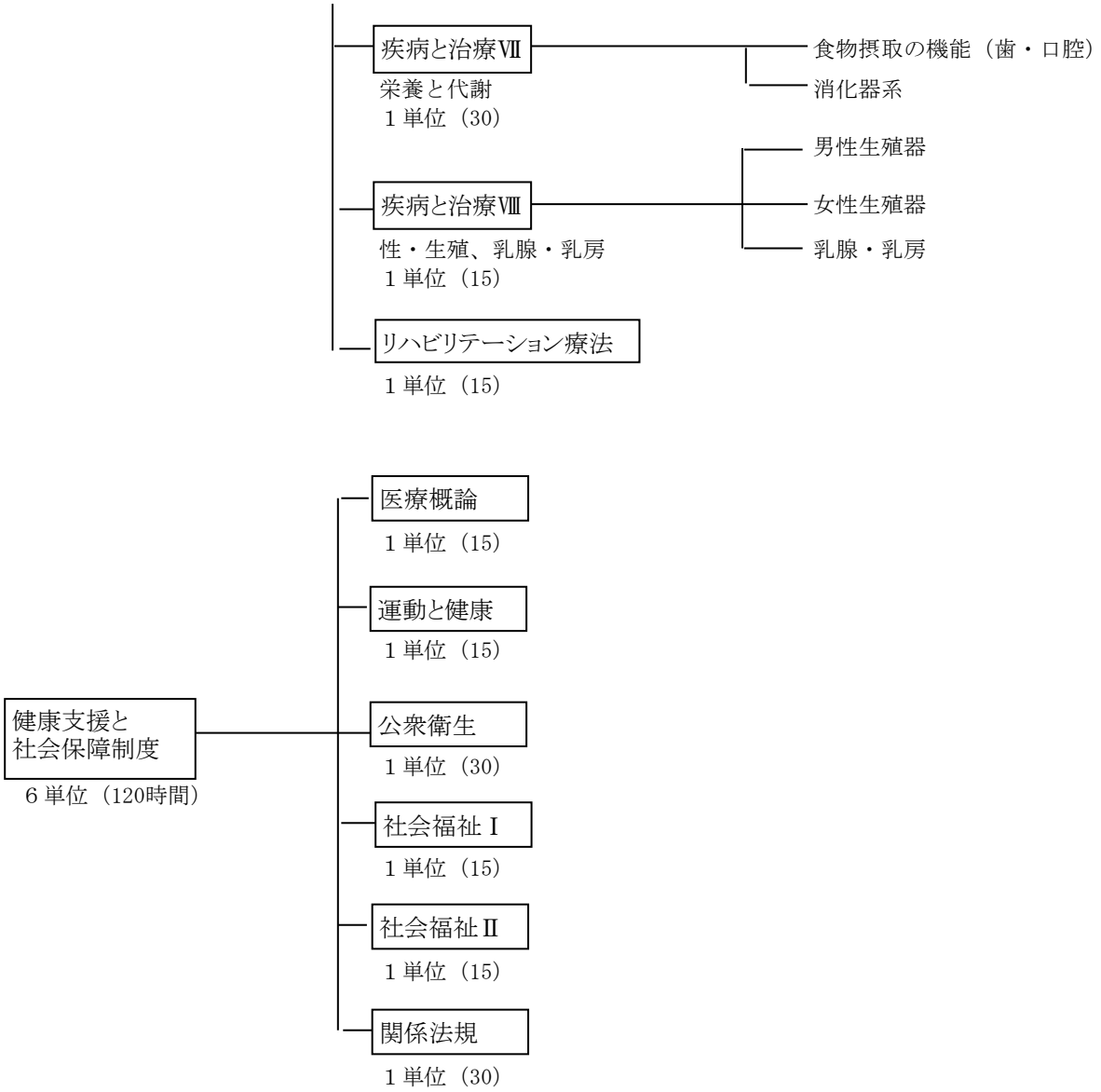
健康・体力に関する基礎知識・運動の効果や実践方法を学び看護に役立てる。

(3)「公衆衛生」、「社会福祉Ⅰ・Ⅱ」、「関係法規」

人々が地域で健康に暮らしていくために必要な社会保障制度を学び看護に役立てる。関係法規では、看護活動を保障する制度について理解する。

専門基礎分野構成


人体の構造と機能
疾病の成り立ちと回復促進
16単位（390時間）
解剖生理学Ⅰ
1単位（30）
解剖生理学Ⅱ
1単位（30）
生化学
1単位（30）
栄養学
1単位（15）
病理学
1単位（30）
微生物学
1単位（30）
薬理学
1単位（30）
疾病と治療Ⅰ
生命現象
1単位（15）
呼吸器系
疾病と治療Ⅱ
生命現象
1単位（30）
循環器系
血液・造血器系
疾病と治療Ⅲ
恒常性維持と生体防御
1単位（30）
内分泌系
腎・泌尿器系
免疫系
疾病と治療Ⅳ
生体機能の統括と外部刺激の受け取り
1単位（30）
脳神経系
眼
疾病と治療Ⅴ
外部刺激の受け取り
1単位（15）
耳鼻咽喉
皮膚
疾病と治療Ⅵ
姿勢の保持と動作の基本
1単位（15）
運動器系


疾病と治療Ⅶ
栄養と代謝
1単位（30）
食物摂取の機能（歯・口腔）
消化器系
疾病と治療Ⅷ
性・生殖、乳腺・乳房
1単位（15）
男性生殖器
女性生殖器
乳腺・乳房
リハビリテーション療法
1単位（15）
健康支援と
社会保障制度
6単位（120時間）
医療概論
1単位（15）
運動と健康
1単位（15）
公衆衛生
1単位（30）
社会福祉Ⅰ
1単位（15）
社会福祉Ⅱ
1単位（15）
関係法規
1単位（30）

人体の構造と機能　　疾病の成り立ちと回復促進

科目名	解剖生理学Ⅰ				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　　前期
担当講師	基礎医学研究センター助教。基礎医学研究に携わり、専門性を活かし教授活動を行っている。				
科目目標	人体の構造と機能を概観し、疾病と治療及び、看護につなげる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	看護の土台となる解剖生理学	講義	外部講師
２	細胞と組織	講義	外部講師
３	皮膚と膜	講義	外部講師
４	骨格系	講義	外部講師
５	筋系	講義	外部講師
６	循環器系	講義	外部講師
７	血液・免疫系	講義	外部講師
８	呼吸器系	講義	外部講師
９	消化器系	講義	外部講師
１０	泌尿器系	講義	外部講師
１１	神経系	講義	外部講師
１２	感覚器系	講義	外部講師
１３	生殖器系	講義	外部講師
１４	内分泌系	講義	外部講師
１５	試験（2時間）		

テキスト	系統看護学講座　人体の構造と機能１　『解剖生理学』：医学書院
参考図書	「看護形態機能学」　菱沼典子：日本看護協会出版会
評価方法	筆記試験
備考	教科外：解剖見学

科目名	解剖生理学Ⅱ				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　　前期
担当講師	基礎医学研究センター講師。基礎医学研究に携わり、専門性を活かした講義を行っている。				
科目目標	人体の構造と機能を概観し、疾病と治療及び、看護につなげる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	生理学の基礎	講義	外部講師
２	体液と血液	講義	外部講師
３	血液循環のしくみ	講義	外部講師
４	呼吸のしくみ	講義	外部講師
５	体液調節と尿生成のしくみ	講義	外部講師
６	栄養の消化と吸収のしくみ(1)	講義	外部講師
７	栄養の消化と吸収のしくみ(2)	講義	外部講師
８	運動のしくみ	講義	外部講師
９	筋収縮のしくみ	講義	外部講師
１０	情報伝達・処理のしくみ	講義	外部講師
１１	情報受容のしくみ(1)（体性感覚）	講義	外部講師
１２	情報受容のしくみ(2)（特殊感覚）	講義	外部講師
１３	恒常性維持のしくみ(1)（内分泌系）	講義	外部講師
１４	恒常性維持のしくみ(2)（自律神経系）	講義	外部講師
１５	試験（2時間）		

テキスト	系統看護学講座　人体の構造と機能１　『解剖生理学』：医学書院
参考図書	「看護形態機能学」　菱沼典子：日本看護協会出版会
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	生化学				
単位数	1単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　　前期
担当講師	臨床検査技師。病院の検査室で活動している。				
科目目標	１　人体を科学的側面から理解する。 ２　体内で消化されたから代謝していくプロセスについの生化学的知識を学ぶ。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	生体を構成する物質とその代謝	講義	臨床検査技師
２	代謝の基礎と酵素・補酵素	講義	臨床検査技師
３	糖質の構造と機能	講義	臨床検査技師
４	糖代謝	講義	臨床検査技師
５	脂質の構造と機能	講義	臨床検査技師
６	脂質代謝	講義	臨床検査技師
７	タンパク質の構造と機能	講義	臨床検査技師
８	タンパク質代謝	講義	臨床検査技師
９	ポルフィリン代謝と異物代謝	講義	臨床検査技師
１０	遺伝子と核酸	講義	臨床検査技師
１１	遺伝子の複製・修復・組換え	講義	臨床検査技師
１２	転写	講義	臨床検査技師
１３	翻訳と翻訳後修飾	講義	臨床検査技師
１４	細胞のシグナル伝達とがん	講義	臨床検査技師
１５	試験（2時間）		

テキスト	系統看護学講座　人体の構造と機能２　『生化学』：医学書院
参考図書	
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	栄養学			
単位数	時間	１５時間	履修学年	１年次　　前期
担当講師	管理栄養士。病院の管理栄養士として栄養指導も含めて活動している。			
科目目標	１　人間の生命と健康を保つための栄養について学ぶ。 ２　健康障害に対して行われる食事療法について学び、生体の回復過程を理解する。			

回数	授業計画	学習方法	講師
1	栄養素の種類と働き	講義	管理栄養士
2	食物の消化と栄養素の吸収・代謝	講義	管理栄養士
3	エネルギー代謝、食事と食品	講義	管理栄養士
4	栄養ケアマネジメント、栄養状態の評価・判定	講義	管理栄養士
5	ライフステージと栄養	講義	管理栄養士
6	臨床栄養 1　栄養補給法、病院食、経腸栄養製品 2　疾患・症例別食事療法の実際 循環器疾患患者、消化器疾患患者、栄養・代謝疾患患者 腎疾患・血液疾患患者、アレルギー疾患患者	講義	管理栄養士
7	〃 3　場面別の栄誉管理 (1) 治療を要する小児の栄養管理 (2) 高齢者の在宅療養における栄養管理 (3) がん患者の食事療法	講義	管理栄養士
8	試験（1時間）		
テキスト	系統看護学講座　人体の構造と機能３　『栄養学』：医学書院		
参考図書			
評価方法	筆記試験		
備考			

科目名	病理学				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　　前期
担当講師	医師。病院長などを歴任し長く医療に携わっている。				
科目目標	疾病の原因や発生を学び、人体の形態と機能及び代謝の変化を理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	病理学で学ぶこと　　細胞・組織の障害と修復	講義	医師
２	循環障害　　1　循環系の概要、充血とうっ血、出血	講義	医師
３	〃　　2　血栓症、塞栓症、虚血と梗塞	講義	医師
４	〃　　3　側副循環による傷害、ショック、高血圧症、ＤＩＣ	講義	医師
５	炎症と免疫、移植と再生医療 1　炎症とその分類、免疫と免疫不全	講義	医師
６	〃 2　アレルギーと自己免疫疾患、医療と再生医療	講義	医師
７	感染症 1　感染と宿主の防御機構、主な病原体と感染症	講義	医師
８	〃 2　主な病原体と感染症、感染症の治療と予防	講義	医師
９	代謝障害	講義	医師
１０	老化と死	講義	医師
１１	先天異常と遺伝子異常	講義	医師
１２	腫瘍 1　腫瘍の定義と分類、悪性腫瘍の広がりと影響	講義	医師
１３	〃 2　腫瘍の発生病理、腫瘍の診断と治療	講義	医師
１４	病理診断の実際	講義	医師
１５	試験（2時間）		

テキスト	系統看護学講座　疾病の成り立ちと回復の促進１　『病理学』：医学書院
参考図書	
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	微生物学				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　後期
担当講師	臨床検査技師。病院の検査室で病理検査も含めて携わっている。				
科目目標	１　微生物の種類と特徴について学び、生体への影響を理解する。 ２　感染予防についての原則を学び、感染対策への意識向上へつなげる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	微生物と微生物学	講義	臨床検査技師
２	細菌・真菌・原虫、ウイルスの性質	〃	臨床検査技師
３	〃	〃	臨床検査技師
４	感染と感染症	〃	臨床検査技師
５	感染に対する生体防御機構	〃	臨床検査技師
６	感染源・感染経路からみた感染症 経口・経気道・接触・経皮・母児感染	〃	臨床検査技師
７	滅菌と消毒	〃	臨床検査技師
８	感染症の検査と診断	〃	臨床検査技師
９	感染症の治療（化学療法）　抗菌薬、抗ウイルス薬	〃	臨床検査技師
１０	病原細菌と細菌感染症	〃	臨床検査技師
１１	病原真菌と真菌感染症	〃	臨床検査技師
１２	病原原虫と原虫感染症	〃	臨床検査技師
１３	主なウイルスとウイルス感染症　ＤＮＡウイルス 水泡・帯状疱疹ウイルス　等	〃	臨床検査技師
１４	主なウイルスとウイルス感染症　ＲＮＡウイルス ＨＩＶ、麻疹・風疹ウイルス、肝炎ウイルス、 デング・インフルエンザウイルス　等	〃	臨床検査技師
１５	試験（2時間）		

テキスト	系統看護学講座　疾病の成り立ちと回復の促進４　『微生物学』：医学書院
参考図書	
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	薬理学				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　後期
担当講師	大学薬学部助教等。専門性を活かして教授する。				
科目目標	１　薬物の作用機序を学び、人体への影響を理解する。 ２　薬物の取り扱いに関する基本的知識を取得し、看護の役割を考える。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	薬理学を学ぶにあたって、薬理学の基礎知識 １　薬理学とはなにか、使用目的 ２　薬物の吸収・分布・代謝・排泄	講義	外部講師
２	薬理学の基礎知識 １　薬物の相互作用、人への影響因子、 薬物の有益性と危険性 ２　薬と法律　　３　新薬の開発	講義	外部講師
３	抗感染症薬 抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬	講義	外部講師
４	抗がん薬 がん治療に関する基礎事項、抗ガン薬各論	講義	外部講師
５	免疫治療薬、抗アレルギー・抗炎症薬	講義	外部講師
６	末梢神経系に作用する薬物 １　交感神経作用薬　　２　副交感神経作用薬 ３　筋弛緩薬、局所麻酔薬	講義	外部講師
７	中枢神経系に作用する薬物 １　全身麻酔、催眠薬 ２　抗不安薬、抗精神薬、抗うつ薬	講義	外部講師
８	中枢神経系に作用する薬物 ３　パーキンソン症候群治療薬　　４　抗てんかん薬 ５　麻薬性鎮痛薬　　６　片頭痛治療薬	講義	外部講師
９	循環器系に作用する薬物 １　降圧薬　　２　狭心症作用薬　　３　不全作用薬 ４　抗不整脈薬　　５　利尿薬	講義	外部講師
１０	循環器系に作用する薬物 １　脂質異常症治療薬 ２　血液凝固系・血液系に作用する薬物	講義	外部講師
１１	呼吸器・消化器・生殖系に作用する薬物	講義	外部講師
１２	物質代謝に作用する薬物 １　ホルモンとホルモン拮抗薬 ２　視床下部、下垂体ホルモン ３　治療薬としてのビタミン	講義	外部講師
１３	皮膚科用薬・眼科用薬・漢方薬	講義	外部講師
１４	救急薬、消毒薬、看護業務に必要な薬の知識	講義	外部講師
１５	試験（2時間）		

テキスト	系統看護学講座　疾病の成り立ちと回復の促進３　『薬理学』：医学書院
参考図書	
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	疾病と治療Ⅰ 生命現象（呼吸器系）				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	１年次　後期
担当講師	医師（呼吸器専門医）				
科目目標	１　呼吸器の形態と機能を学び、生命が維持されている状態を理解する。 ２　呼吸機能障害と症状の表れを理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	呼吸の仕組み（呼吸器系の構造と機能）	講義	医師
2	呼吸器疾患の症状・検査・治療	講義	医師
3	感染症（かぜ症候群、インフルエンザ、肺炎、結核等） 間質性肺疾患（間質性肺炎、サルコイドーシス　等）	講義	医師
4	気道疾患（気管支喘息、気管支拡張症、慢性閉塞性肺疾患）、肺血栓塞栓症	講義	医師
5	呼吸不全、睡眠時無呼吸症候群、過換気症候群	講義	医師
6	腫瘍（肺がん）	講義	医師
7	胸膜・縦隔縦・横隔膜の疾患（気胸、腫瘍　等）	講義	医師
8	試験（1時間）		

テキスト	系統看護学講座　成人看護学２　呼吸器：医学書院
参考図書	看護形態機能学　菱沼典子　：日本看護協会出版会
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	疾病と治療Ⅱ 生命現象（循環器系、血液・造血器系）				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　後期
担当講師	医師（循環器内科専門医、血液内科専門医）				
科目目標	１　循環器系の形態と機能を学び、生命が維持されている状態を理解する。 ２　循環器障害と症状の表れを理解する。 ３　血液の機能と機能障害を学び、症状の表れを理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	1　循環器系 (1) 循環器の構造と機能	講義	医師
２	(2) 循環器系の障害と症状・検査・治療 心臓カテーテル、エコー、ペースメーカー、バイパス術	講義	医師
３	(3) 虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）	講義	医師
４	(4) 心不全	講義	医師
５	(5) 血圧異常	講義	医師
６	(6) 不整脈	講義	医師
７	(7) 弁膜症、心膜炎、心筋症	講義	医師
８	(8) 先天性疾患	講義	医師
９	(9) 動脈系疾患、静脈系疾患	講義	医師
１０	2　血液・造血器系 (1) 血液の成分と機能、造血のしくみ	講義	医師
１１	(2) 造血器系の障害と症状・検査	講義	医師
１２	(3) 造血器の疾患と治療（赤血球の異常・白血病）	講義	医師
１３	(4) 造血器の疾患と治療（悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）	講義	医師
１４	(5) 出血性の疾患と治療（血小板減少性紫斑病、血友病、DIC）	講義	医師
１５	試験（2時間）		

テキスト	系統看護学講座　成人看護学３　循環器：医学書院 系統看護学講座　成人看護学４　血液・造血器：医学書院
参考図書	
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	疾病と治療Ⅲ 恒常性維持と生体防御（内分泌系、腎・泌尿器系・免疫系）				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　後期
担当講師	医師（内分泌、腎・泌尿器専門医、アレルギー・膠原病専門医）				
科目目標	１　生体の恒常性を保つメカニズムを学び、各系統の機能と連携を理解する。 ２　恒常性が維持できない状態と症状の表れを理解する。 ３　生体が外的から自らを守るための仕組みを学ぶ。 ４　防御機能が障害された生体の反応を理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	1　内分泌系 (1) 内分泌系の生理	講義	医師
２	(2) 内分泌系の検査と治療	講義	医師
３	(3) 内分泌系の疾患 巨人症、クッシング病、下垂体機能低下症	講義	医師
４	(4) 視床下部・下垂体後葉系疾患（尿崩症） 甲状腺疾患（バセドウ病・橋本病）	講義	医師
５	(5) 代謝疾患（糖尿病）	講義	医師
６	(6) 代謝疾患（脂質異常症、肥満症、尿酸代謝異常）	講義	医師
７	2　腎・泌尿器系 (1) 腎泌尿器の構造と機能	講義	医師
８	(2) 腎泌尿器の症状・検査・治療	講義	医師
９	(3) 腎臓の疾患 腎盂腎炎、糖尿病性腎症、ネフローゼ症候群	講義	医師
１０	(4) 腎臓の疾患（腎不全）	講義	医師
１１	(5) 尿路・性器の感染症 膀胱炎、尿管結石、尿路・性器の腫瘍、前立腺炎	講義	医師
１２	3　免疫系 (1) 免疫の仕組みとアレルギー	講義	医師
１３	(2) 膠原病（関節リウマチ、全身性エリテマトーデス）	講義	医師
１４	(3) シェーグレン症候群、ベーチェット病 全身性硬化症(強皮症)	講義	医師
１５	試験（2時間）		

テキスト	系統看護学講座　成人看護学６　内分泌・代謝 系統看護学講座　成人看護学８　腎・泌尿器 系統看護学講座　成人看護学11　アレルギー　膠原病　感染症：医学書院
参考図書	
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	疾病と治療Ⅳ 生体機能の統括と外部刺激の受け取り（脳神経系、眼）				
単位数	1単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　　後期
担当講師	医師（脳神経外科専門医、神経内科専門医、眼科専門医）				
科目目標	１　生体機能の統括としての脳の機能を学ぶ。 ２　生体機能の統括の障害を学び、症状の表れを理解する。 ３　人が外部刺激を受け取る器官と機能を学ぶ。 ４　外部刺激を受け取る機能障害を学び、症状の表れを理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1　脳神経系 (1) 脳神経系の機能と構造	講義	医師
2	(2) 主な症状と病態生理	講義	医師
3	(3) 検査・診断と治療処置	講義	医師
4	(4) 脳疾患（脳血管障害（くも膜下出血、脳出血））	講義	医師
5	(5) 脳疾患（脳血管障害（TIA、脳梗塞））	講義	医師
6	(6) 脳疾患（脳腫瘍）	講義	医師
7	(7) 脳疾患（頭部外傷）	講義	医師
8	(8) 脊髄疾患（脊髄炎、頸椎症、脊髄腫瘍）	講義	医師
9	(9) ①末梢神経障害 ニューロパチィー、単神経障害、顔面神経麻痺 ②神経・筋疾患 重症筋無力症、進行性筋ジストロフィー 筋萎縮性側索硬化症	講義	医師
10	(10) ①脱髄・変性疾患（多発性硬化症、パーキンソン病） ②てんかん　③認知症	講義	医師
11	2　眼 (1) 物を見る仕組み（眼・眼周囲の解剖生理）	講義	医師
12	(2) 眼・眼周囲の障害と主な症状	講義	医師
13	(3) 主な疾患と治療 白内障、緑内障、網膜はく離、糖尿病性網膜症	講義	医師
14	(4) 主な疾患と治療（ベーチェット病、角膜炎・結膜炎）	講義	医師
15	試験（2時間）		

テキスト	系統看護学講座　成人看護学７　脳・神経：医学書院 系統看護学講座　成人看護学13　眼：医学書院
参考図書	看護形態機能学　菱沼典子　：日本看護協会出版会
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	疾病と治療Ⅴ 外部刺激の受け取り（耳鼻咽喉、皮膚）				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	１年次　後期
担当講師	医師（耳鼻咽喉科専門医、皮膚科専門医）				
科目目標	１　人が外部刺激を受け取る器官と機能を学ぶ。 ２　外部刺激を受け取る機能障害を学び、症状の表れを理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1　耳鼻咽喉 (1) 臭いを嗅ぐ仕組み（鼻・鼻周囲の解剖） 主な疾患と症状・検査・治療 ①鼻出血　②副鼻腔炎　③鼻炎	講義	医師
2	(2) 音を聞く仕組み・身体の平衡を保つ仕組み 耳・耳周囲の解剖生理	講義	医師
3	(3) 主な疾患と症状・検査・治療 ①メニエール病　②難聴　③腫瘍　④中耳炎	講義	医師
4	(4) 発声の仕組み・生体防御としての仕組み 咽頭・喉頭の解剖生理 (5) 主な疾患と症状・検査・治療 ①舌癌　②喉頭がん	講義	医師
5	2　皮膚 (1) 物に触れ、認識する仕組み・生体を保護する仕組み 皮膚の解剖生理	講義	医師
6	(2) 主な疾患と症状・検査・治療 ①アトピー性皮膚炎　②白癬　③疥癬	講義	医師
7	(3) 主な疾患と症状・検査・治療 ①熱傷　②悪性黒色腫	講義	医師
8	試験（1時間）		

テキスト	系統看護学講座　成人看護学14　耳鼻咽喉：医学書院 系統看護学講座　成人看護学12　皮膚：医学書院
参考図書	看護形態機能学　菱沼典子　：日本看護協会出版会
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	疾病と治療Ⅵ 姿勢の保持と動作の基本（運動器系）				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	１年次　　後期
担当講師	医師（運動器専門医）				
科目目標	１　人体を支える骨と骨格筋の関連を学び、人間の姿勢と動作の基本を理解する。 ２　姿勢と動作が保持できない状態を理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1　運動器の構造と機能（骨、関節、神経と筋肉、腱と靭帯）	講義	医師
2	2　症状とその病態生理 疼痛、形態の異常、関節運動の異常、神経の障害など	講義	医師
3	3　主な検査（筋生検、造影、膝関節鏡など） 治療（ギプス固定、牽引、人工関節置換術など）	講義	医師
4	4　外傷性（外因性）の運動器疾患 骨折、脱臼、神経の損傷、筋・腱・靭帯などの損傷	講義	医師
5	5　〃	講義	医師
6	6　内因性（非外傷性）の運動器疾患 骨髄炎、変形性膝関節症、関節リウマチ、痛風	講義	医師
7	7　〃 1）骨腫瘍、代謝性骨疾患 2）脊椎の疾患（腰椎椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、骨粗鬆症 脊髄腫瘍、脊椎の姿勢異常など）	講義	医師
8	試験（1時間）		

テキスト	系統看護学講座　成人看護学10　運動器：医学書院
参考図書	看護形態機能学　菱沼典子　：日本看護協会出版会
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	疾病と治療Ⅶ 栄養と代謝（歯・口腔、消化器系）				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　後期
担当講師	医師（消化器外科系専門医）				
科目目標	１　食に関する器官と、食物摂取に関するメカニズムを理解する。 ２　栄養の吸収と代謝のメカニズムを理解する。 ３　排便に関するメカニズムを理解する。 ４　食や栄養の吸収と排便機能が障害された場合の症状の表れを理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	1　歯・口腔 (1) 口腔内の構造と咀嚼	講義	歯科医師
２	(2) 主な疾患・症状・検査・治療 ①齲蝕　②歯槽膿漏　③口腔内腫瘍 ④口蓋裂・口唇裂	講義	歯科医師
３	2　消化器系 (1) 嚥下のメカニズム	講義	医師
４	(2) 嚥下の障害 ①食道閉鎖症　②食道がん　③食道アカラシア ④麻痺	講義	医師
５	(3) 消化・吸収のメカニズム	講義	医師
６	(4) 主な疾患・症状・検査・治療 胃炎、胃・十二指腸潰瘍	講義	医師
７	(5) 主な疾患・症状・検査・治療（癌）	講義	医師
８	(6) 肝臓・膵臓の機能	講義	医師
９	(7) 主な疾患と症状・検査・治療（肝炎、肝硬変、肝癌）	講義	医師
１０	(8) 主な疾患と症状・検査・治療 胆嚢炎、胆管炎、胆石症	講義	医師
１１	(9) 主な疾患と症状・検査・治療（膵炎、膵臓癌）	講義	医師
１２	(10) 小腸・大腸・肛門の機能	講義	医師
１３	(11) 主な疾患と症状・検査・治療 腸炎、腹膜炎、虫垂炎、ヘルニア	講義	医師
１４	(12) 主な疾患と症状・検査・治療 腸閉塞、大腸癌、潰瘍性大腸炎、痔疾患、 クローン病	講義	医師
１５	試験（2時間）		

テキスト	系統看護学講座　成人看護学15　歯・口腔：医学書院 系統看護学講座　成人看護学５　消化器：医学書院
参考図書	看護形態機能学　菱沼典子　：日本看護協会出版会
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	疾病と治療Ⅷ 性・生殖（男性生殖器、女性生殖器、乳腺・乳房）				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	１年次　　後期
担当講師	医師（腎・泌尿器科専門医、外科医、産婦人科医）				
科目目標	１　生殖器官の構造と生殖に関するメカニズムを学び、障害による症状の表れを理解する。 ２　乳房の構造と障害を学び、形態の変化と症状の表れを理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1　男性生殖器 (1) 機能と構造、男性生殖器の障害と症状	講義	医師
2	(2) 主な疾患・検査・治療 前立腺肥大症、前立腺がん、無精子症、睾丸腫瘍	講義	医師
3	2　女性生殖器 (1) 機能と構造、女性生殖器の障害と症状	講義	医師
4	(2) 主な疾患・検査・治療 子宮発育不全、子宮筋腫、子宮がん、卵管炎	講義	医師
5	(3) 主な疾患・検査・治療 卵巣腫瘍、卵巣がん、更年期障害、性感染症	講義	医師
6	3　乳房・乳腺 (1) 乳腺・乳房の構造と機能	講義	医師
7	(2) 主な疾患・症状・治療・検査 乳腺炎、乳がん	講義	医師
8	試験（1時間）		

テキスト	系統看護学講座　成人看護学８　腎・泌尿器：医学書院 系統看護学講座　成人看護学９　女性生殖器：医学書院
参考図書	看護形態機能学　菱沼典子　：日本看護協会出版会
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	リハビリテーション療法				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	１年次　後期
担当講師	病院のPT、OT、STが、その専門性を活かして教授する。				
科目目標	障害をかかえる人々へのリハビリテーション療法を学ぶことで看護に役立てる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	リハビリテーションの定義・対象と制度 疾病・障害・生活機能の分類、リハビリテーションの分野	講義	作業療法士
2	脳血管障害のリハビリテーション 1　運動障害 麻痺の評価、廃用症候群の予防、機能回復訓練、	講義	理学療法士
3	2　高次機能障害	講義	作業療法士
4	3　演習 ・麻痺のある患者の車椅子移乗、廃用症候群予防 ・自助具の工夫、ADL	演習	作業療法士
5	嚥下機能障害 嚥下評価、嚥下訓練　〈演習（とろみ剤使用）〉	講義	言語聴覚士
6	運動障害とリハビリテーション 評価：　MMT、ROM 関節可動域訓練、自動運動、他動運動 補助具の使用方法（歩行器、松葉づえ、ピックアップなど）	講義・演習	理学療法士
7	循環・呼吸障害のリハビリテーション	講義・演示	理学療法士
8	試験（1時間）		

テキスト	系統看護学講座　別巻　リハビリテーションと看護　：　医学書院
参考図書	
評価方法	筆記試験
備考	

健康支援と社会保障制度

科目名	医療概論				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	１年次　　前期
担当講師	医師。医学博士。病院長などを歴任し長く医療に携わっており、医療における諸問題に精通している。				
科目目標	現代の保健医療の概要と諸問題を理解し、看護の役割と医療従事者としての心構えを身につける。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1　医療と看護の原点ー病と癒し (1) 命について考える　　(2) 健康のとらえ方 (3) 病の体験　　(4) 癒しの行為と癒しの知	講義	医師
2	2　医療の歩みと医療観の変遷 (1) 現代医学の起源 (2) 医療観の移りかわり (3) チーム医療とマネジメント	講義	医師
3	3　私たちの生活と医療 (1) もし私たちが病気やけがをしたら (2) 私たちの生活と保健・福祉行政 (3) 疾病の一次予防と健康増進	講義	医師
4	〃 (4) 少子高齢化社会と地域包括ケア (5) 障害者のノーマライゼーションとインクルージョン (6) 心の健康と精神医療	講義	医師
5	4　科学技術の進歩と現代医療の最前線 (1) 科学技術の進歩と社会・生活の変化 (2) 現代医療と先端医療技術の最前線	講義	医師
6	5　現代医療の新たな課題 (1) 薬剤の副作用と手術合併症 (2) 先端医療技術がもたらした倫理上の葛藤 (3) 生命倫理学と臨床倫理学の展開 (4) 医療と法制度	講義	医師
7	6　医療を見つめ直す新たな視点 7　保健・医療・介護・福祉の近未来像 (1) 病院・施設でのケアから生活の場におけるケアへ (2) 近未来の保健・医療・介護・福祉を担う専門職像	講義	医師
8	試験		

テキスト	系統看護学講座　総合医療論　健康支援と社会保障制度①　：　医学書院
参考図書	
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	運動と健康				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	１年次　　後期
担当講師	大学の理学療法学科の講師等。専門性を活かして教授する。				
科目目標	健康・体力に関する基礎知識・運動の効果や実践方法を学び、看護に活かす。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	健康の概念と運動・体力	講義	外部講師
2	身体活動（生活活動と運動）の健康効果とリスク 運動継続のための行動変容技法 市町村・企業における健康づくりの事例	講義	外部講師
3	スポーツと傷・障害予防	講義	外部講師
4	健康とスポーツ 1 運動体験：自分の体力を知る「体力測定」 運動体験：目的に応じた筋力トレーニング　など （基礎代謝・運動機能向上）	実技	外部講師
5	健康とスポーツ 2	実技	外部講師
6	健康とスポーツ 3	実技	外部講師
7	健康とスポーツ 4	実技	外部講師
8	試験		

テキスト	なし。必要時資料配付する。
参考図書	
評価方法	筆記試験・実技・参加状況
備考	

科目名	公衆衛生				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	２年次　　前期
担当講師	行政の保健師として公衆衛生活動に従事し、地域住民の健康の保持増進活動に携わってきた。また、教育機関にも在籍し、公衆衛生活動を追求し、公衆衛生に関する統計情報や保健活動の実際など豊富な知識・経験を有している。				
科目目標	１　公衆衛生の理念を理解し、われわれの健康を保持増進する組織的な活動を学ぶ。 ２　健康の概念を明確にし、人々の健康に関する看護の役割を考える。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	公衆衛生を学ぶにあたって、公衆衛生のエッセンス	講義	看護職
２	公衆衛生の活動対象	講義	看護職
３	公衆衛生のしくみ	講義	看護職
４	環境と健康	講義	看護職
５	国際保健、疫学	講義	看護職
６	母子保健	講義	看護職
７	成人保健	講義	看護職
８	高齢者保健	講義	看護職
９	精神保健	講義	看護職
１０	歯科保健、難病支援・障害支援	講義	看護職
１１	感染症対策	講義	看護職
１２	学校と健康（学校保健）	講義	看護職
１３	職場と健康（産業保健）	講義	看護職
１４	健康危機管理・災害保健	講義	看護職
１５	試験（2時間）		

テキスト	系統看護学講座　健康支援と社会保障制度［２］　『公衆衛生』：医学書院 国民衛生の動向
参考図書	国民の福祉の動向
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	社会福祉Ⅰ				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	２年次　　前期
担当講師	大学の医療福祉・マネジメント学科所属の教員がその専門性を活かし教授する。				
科目目標	社会福祉の概要と、われわれの生活問題に対応する社会的政策を学ぶ。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	社会保障・福祉制度	講義	外部講師
2	現代社会の変化・動向	講義	外部講師
3	医療保障制度	講義	外部講師
4	保険制度	講義	外部講師
5	所得保障	講義	外部講師
6	公的扶助	講義	外部講師
7	児童家庭福祉	講義	外部講師
8	試験（1時間）		

テキスト	系統看護学講座　健康支援と社会保障制度［３］　『社会福祉』
参考図書	
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	社会福祉Ⅱ				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	２年次　　前期
担当講師	大学の医療福祉・マネジメント学科所属の教員がその専門性を活かし教授する。				
科目目標	社会福祉の概要と、われわれの生活問題に対応する社会的政策を学ぶ。				

学習方法	授業計画	学習方法	講師
1	障害者福祉	講義	外部講師
2	〃	講義	外部講師
3	社会福祉実践（援助技術）	講義	外部講師
4	〃　　（連携含む）	講義	外部講師
5	高齢者福祉（介護保険含む）	講義	外部講師
6	〃	講義	外部講師
7	社会福祉の歴史	講義	外部講師
8	試験（1時間）		

テキスト	系統看護学講座　健康支援と社会保障制度［３］　『社会福祉』：医学書院
参考図書	
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	関係法規				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	３年次　前期
担当講師	行政の保健師として永年活動してきたなかで、法律に関して豊富な知識と経験を有している。				
科目目標	１　われわれの生活と健康を保障する法的制度を学ぶ。 ２　保健医療福祉の法的側面を学び、看護の活動を保障する制度を理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	法の概念 1 法の概念　　2 衛生法　　3 厚生行政のしくみ	講義	外部講師
２	看護法　　保健師助産師看護師法	講義	外部講師
３	〃　　看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義	外部講師
４	医療法	講義	外部講師
５	医療関係資格法、保健医療福祉資格法	講義	外部講師
６	医療を支える法	講義	外部講師
７	保健衛生法　1 共通保健法　　2 分野別保健法	講義	外部講師
８	〃　　3 感染症に関する法　　4 食品に関する法	講義	外部講師
９	薬務法　　1 薬事一般に関する法律 2 麻薬・毒物　など	講義	外部講師
１０	環境衛生法　　1 営業　　2 環境整備	講義	外部講師
１１	社会保険法　　1 費用保障　　2 年金　など	講義	外部講師
１２	福祉法　　1 福祉の基盤 2 児童・高齢・障害分野	講義	外部講師
１３	労働法と社会基盤整備	講義	外部講師
１４	環境法	講義	外部講師
１５	試験（2時間）		

テキスト	系統看護学講座　健康支援と社会保障制度〔４〕　看護関係法令：医学書院 国民衛生の動向 日本の移植事情：日本臓器移植ネットワーク
参考図書	国民の福祉の動向
評価方法	筆記試験
備考	

３） 専門分野

〈専門基野の考え方〉

専門分野は、看護学として位置づける。

1 『基礎看護学』は、看護学の土台となるため、指定規則単位数 11 単位のところ 14 単位とする。1 年次に看護の基礎となる知識・技術・態度を習得し、他の領域で学習を深めていく。

2 『地域･在宅看護論』は､地域包括ケアシステムの根幹をなす科目として位置づける。看護の対象である地域で暮らす人々を理解し、地域での様々な場での看護の基礎を学習する。また、地域の暮らしを支える多職種や多職種との連携・協働を学ぶことで、看護の役割を理解する。そして、地域で暮らす人々は、各ライフステージにある対象であるため、成人看護学・老年看護学・小児看護学・母性看護学・精神看護学で学習を深める。

3 『精神看護学』は、全領域に共通する「心」を理解し、各ライフステージに応じた看護について学習する。また、精神疾患により生活障害を抱える人々の看護と関わり方の学習を深める。

4 『成人看護学』は、疾患の看護・機能障害の看護について、専門基礎分野の「解剖生理学Ⅰ・Ⅱ」「疾病と治療」をふまえ学習するため指定規則単位数 6 単位のところ 7 単位とする。そのうえで、成人期ならではの生活上の問題や回復過程に応じた看護を理解できるようにする。

5 『老年看護学』は、老年期にある人の理解に重点をおく。老年期にある人の心身の変化と機能障害の特徴を理解したうえで QOL 向上の看護を理解する。そして、住み慣れた地域や自宅で日常生活を送ることについての学習を深める。

6 『小児看護学』は、小児各期の成長発達について理解する。そして、健やかに成長・発達するための看護や支援についての学習を深める。

7 『母性看護学』は、看護の対象である人間を母性の側面から捉え、人間の性（セクシュアリティ）・生殖に焦点を当てた対象の理解と看護を理解する。

8 『看護の統合と実践』は、各領域での学習を踏まえ、より実践の現場に近い状態で学習していく。また、看護研究の基礎的知識を学ぶことで、学び続ける意識を高める。そのため、指定規則単位数 4 単位のところ 5 単位とする。

基礎看護学

1　位置づけ

基礎看護学は、専門分野の土台であり、すべての看護の基礎となる知識・技術・態度を習得する。看護の各専門領域の基盤である看護の概念・理論・看護技術を学び、今後自らの看護観を深めるための看護の本質を身に付ける上で重要な位置づけである。

看護の対象となる人間に関心を寄せ、看護の意義や役割を考えられるように、看護学概論と看護コミュニケーションを基盤とし、1 年次早期より系統的に科目を配置する。学習内容として、看護の対象の様々な状況に応じた看護が実践できるよう、的確なアセスメント力と看護実践能力を強化する。特に、各科目の演習内容を強化するとともに、看護技術演習の科目では、日常生活援助技術の到達度を評価することで、科学的根拠に基づいた看護実践能力の向上を目指す。

2　科目の設定理由

科目は 14 科目である。以下の概要で設定する。

(1) 看護学概論

看護とは何かを探求し続けるための基本的な考え方を身に付けるため、看護の対象の理解、看護専門職の役割と機能、看護倫理、看護教育などに関する基本的知識の習得のほか、援助関係構築のための基礎を学ぶ内容とする。

(2) 看護コミュニケーション

看護コミュニケーションの特徴と、医療におけるコミュニケーションの重要性について学ぶ科目とする。また、コミュニケーション障害がある人の特徴と、効果的な対応を学ぶために演習を行い、確実に基本技術を身に付けることができるよう、科目として設定する。

(3) 日常生活援助技術Ⅰ

この科目は「感染、環境、安全管理」で構成し、安全で快適な生活環境の基本的技術を学ぶ。感染では、感染成立の条件や感染予防の基礎を学び、看護師があらゆる場所で正しい感染予防策を実践することの重要性を理解する内容として設定する。環境は人間の生活、健康状態、成長発達などに影響するため、対象を取り巻く環境について理解し、快適な日常生活を支援するための知識と技術を習得する科目として設定する。安全管理では、ヒューマンエラーによる事故の発生要因を理解し、事故防止策の基本を学ぶ内容として設定する。

(4) 日常生活援助技術Ⅱ

この科目は「安楽確保、活動・休息」で構成する。安楽確保では、安楽の意義を理解し、日常生活において安楽な活動や体位が保持できるような援助技術を学ぶ。また、活動・休息への援助に必要なアセスメントの視点・方法を理解し、個々の対象に応じた日常生活活動の援助技術を学ぶ。さらには、日常生活における睡眠の意義やメカニズムを理解し、日常生活における睡眠への援助方法を学ぶ。以上、看護における安楽

の意義を理解し、人の姿勢や体位、睡眠の援助技術を学ぶ科目として設定する。

(5) 日常生活援助技術Ⅲ

個人の習慣を尊重し、身だしなみを整えるという生活行動を支援するための清潔や衣生活の知識、技術を習得する科目として設定する。

(6) 日常生活援助技術Ⅳ

この科目は「食生活と栄養摂取、排泄」で構成する。生活活動の基本である食生活と排泄の支援、そしてそのバランスを整えるための知識、技術を習得する科目として設定する。

(7) 臨床看護技術

この科目は「経過別看護、主要症状別看護、指導技術」で構成する。経過別看護では、臨床看護の特徴や健康障害の経過を理解し、看護の役割について学ぶ。主要症状別看護では、主要症状にある患者の症状をアセスメントし、必要な援助ができる技術を学ぶ。指導技術では、看護におけるセルフケア教育の意義や目的を理解し、指導計画の立案方法について学ぶ。以上、臨床看護の特徴を捉え、健康障害の経過に合わせた看護の役割と技術について学習する科目として設定する。

(8) 診療に伴う技術Ⅰ

この科目は「検査、放射線療法、医療機器」で構成する。さまざまな健康状態にある人間に対してより良い健康を目指すために治療や検査が行われるため、検査・治療を受ける対象を支援するための知識、技術を理解する科目として設定する。

(9) 診療に伴う技術Ⅱ

この科目は「与薬、輸血、創傷処置」で構成する。与薬では、薬物療法における看護師の役割を理解し、援助の実際を学ぶ。輸血では、輸血療法の基礎知識と看護師の役割を理解し、安全かつ正確な管理方法を学ぶ。創傷処置では、創傷の種類および治癒過程を理解し、創傷処置の方法について学ぶ。以上、診療に伴う技術として、日常生活援助技術科目の学習内容を土台に、安全・安楽、感染予防に留意しながら「与薬、輸血、創傷処置」の学習を積み上げる科目として設定する。

(10) ヘルスアセスメント

この科目は、人を全人的に捉え、ヘルスアセスメントを行う重要性と、その技術の習得を目的とする科目である。ヘルスアセスメントの意義を理解し、人の健康状態を総合的にアセスメントし、健康の情報収集の技術（フィジカルアセスメント）の実践を学ぶ内容とする。フィジカルアセスメントの判断では、「身体面の正常範囲と正常範囲の逸脱」を判断できるよう、また生命兆候（バイタルサイン）を観察する技術を学び、継続的に身体の状態を把握することができる能力を身に付ける科目として設定する。

(11) 看護理論

対象のより良い健康を目指すためには対象を全人的に捉えることが必要である。看護理論は、看護の本質について導き、対象者である人間、人間の健康のとらえ方をふまえた看護の方法について言及していて、熟知することで科学的・理論的に看護を実践することが出来る。多様な人間を対象として看護するために必要な知識であると考え科目として設定する。

(12) 看護過程

目的や機能を持った看護を実践するための方法論である看護過程を学び、科学的根拠に基づいた看護を展開するための方法、および看護実践の一連の過程を記録する看護記録の意義を理解するための科目として設定する。

(13) 基礎看護学演習Ⅰ

対象に応じた日常生活援助を実施するための知識、技術の習得状況を評価し、自己の課題を見出すための科目として設定する。

(14) 基礎看護学演習Ⅱ

対象を生活者としてとらえ、看護過程の展開を実施するために必要な知識、技術の習得状況を評価し、自己の課題を見出すための科目として設定する。

3　目的

人間のライフサイクルにおける健康の意義と、看護の役割を理解し、看護の基礎となる知識・技術・態度を学び、看護の専門性を追求する基礎的能力を育成する。

4　目標

(1) 看護の概念および本質、看護の機能と役割を理解する。

(2) 看護の対象を理解し、人間関係を深め、発展させる能力を習得する。

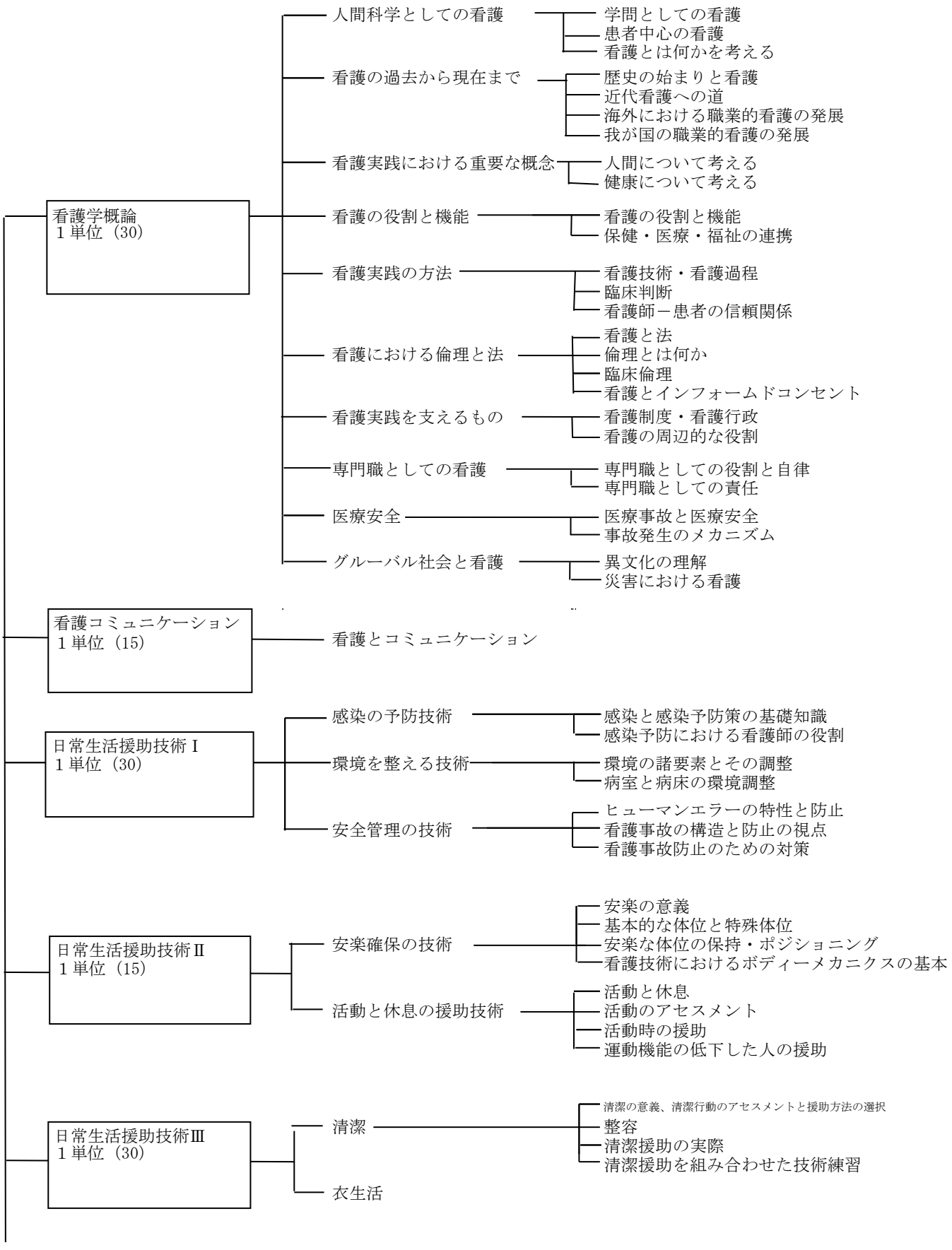
(3) 看護の対象を生活者として捉え、日常生活過程の調整と健康の維持・回復促進のための技術を習得する。

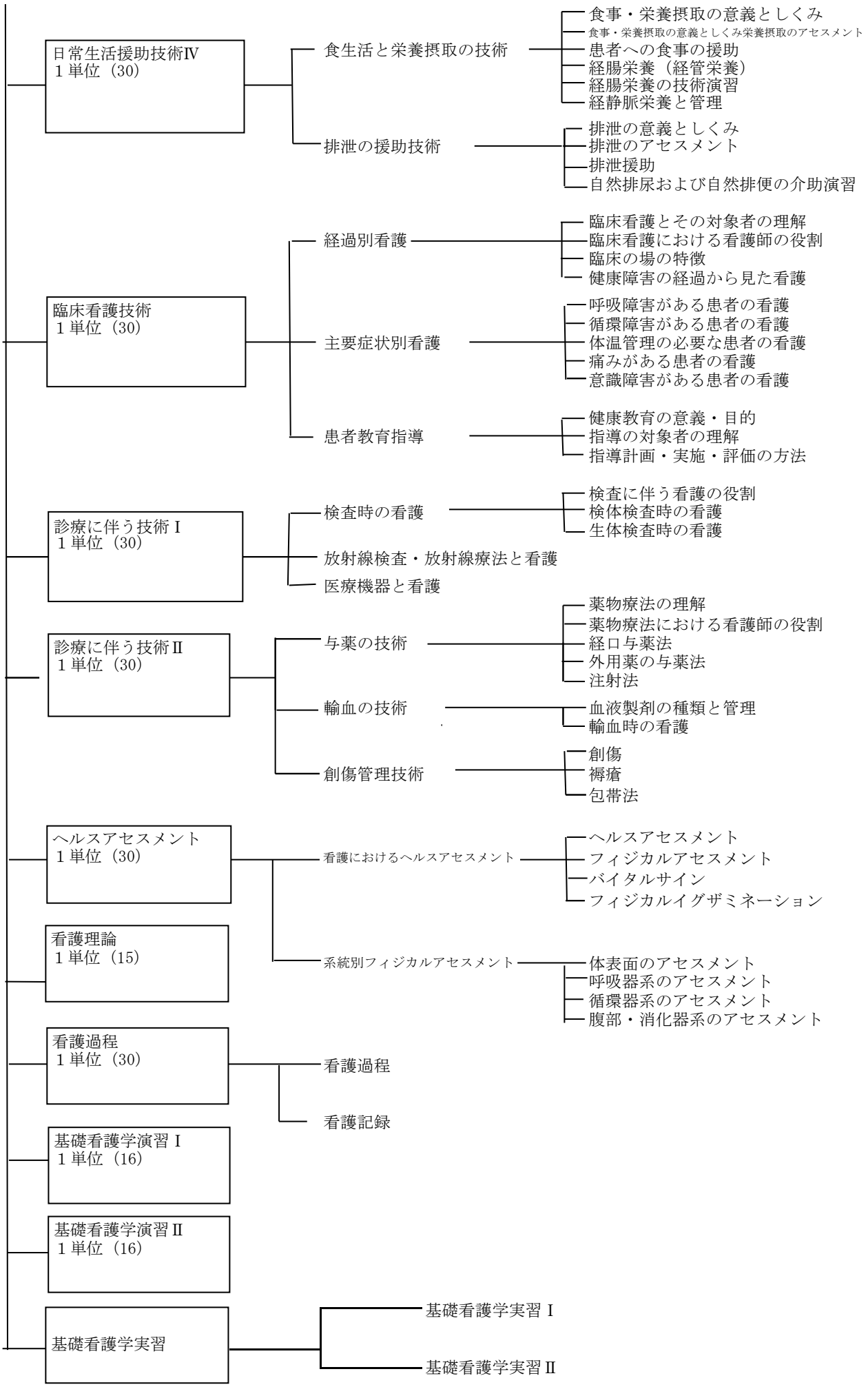
(4) 科学的根拠に基づき、安全・安楽な援助を実践するための技術を習得する。

(5) 健康障害の過程や主要症状に対する援助の基本と、治療・処置に伴う診療の補助技術を理解する。

(6) 科学的・論理的思考を用いて、看護過程を展開する方法を理解する。

Ⅴ　科目構成


看護学概論
１単位（30）
人間科学としての看護
学問としての看護
患者中心の看護
看護とは何かを考える
看護の過去から現在まで
歴史の始まりと看護
近代看護への道
海外における職業的看護の発展
我が国の職業的看護の発展
看護実践における重要な概念
人間について考える
健康について考える
看護の役割と機能
看護の役割と機能
保健・医療・福祉の連携
看護実践の方法
看護技術・看護過程
臨床判断
看護師－患者の信頼関係
看護における倫理と法
看護と法
倫理とは何か
臨床倫理
看護とインフォームドコンセント
看護実践を支えるもの
看護制度・看護行政
看護の周辺的な役割
専門職としての看護
専門職としての役割と自律
専門職としての責任
医療安全
医療事故と医療安全
事故発生のメカニズム
グルーバル社会と看護
異文化の理解
災害における看護
看護コミュニケーション
１単位（15）
看護とコミュニケーション
日常生活援助技術Ⅰ
１単位（30）
感染の予防技術
感染と感染予防策の基礎知識
感染予防における看護師の役割
環境を整える技術
環境の諸要素とその調整
病室と病床の環境調整
安全管理の技術
ヒューマンエラーの特性と防止
看護事故の構造と防止の視点
看護事故防止のための対策
日常生活援助技術Ⅱ
１単位（15）
安楽確保の技術
安楽の意義
基本的な体位と特殊体位
安楽な体位の保持・ポジショニング
看護技術におけるボディーメカニクスの基本
活動と休息の援助技術
活動と休息
活動のアセスメント
活動時の援助
運動機能の低下した人の援助
日常生活援助技術Ⅲ
１単位（30）
清潔
清潔の意義、清潔行動のアセスメントと援助方法の選択
整容
清潔援助の実際
清潔援助を組み合わせた技術練習
衣生活


日常生活援助技術Ⅳ
1単位（30）
食生活と栄養摂取の技術
食事・栄養摂取の意義としくみ
食事・栄養摂取の意義としくみ栄養摂取のアセスメント
患者への食事の援助
経腸栄養（経管栄養）
経腸栄養の技術演習
経静脈栄養と管理
排泄の援助技術
排泄の意義としくみ
排泄のアセスメント
排泄援助
自然排尿および自然排便の介助演習
臨床看護技術
1単位（30）
経過別看護
臨床看護とその対象者の理解
臨床看護における看護師の役割
臨床の場の特徴
健康障害の経過から見た看護
主要症状別看護
呼吸障害がある患者の看護
循環障害がある患者の看護
体温管理の必要な患者の看護
痛みがある患者の看護
意識障害がある患者の看護
患者教育指導
健康教育の意義・目的
指導の対象者の理解
指導計画・実施・評価の方法
診療に伴う技術Ⅰ
1単位（30）
検査時の看護
検査に伴う看護の役割
検体検査時の看護
生体検査時の看護
放射線検査・放射線療法と看護
医療機器と看護
診療に伴う技術Ⅱ
1単位（30）
与薬の技術
薬物療法の理解
薬物療法における看護師の役割
経口与薬法
外用薬の与薬法
注射法
輸血の技術
血液製剤の種類と管理
輸血時の看護
創傷管理技術
創傷
褥瘡
包帯法
ヘルスアセスメント
1単位（30）
看護におけるヘルスアセスメント
ヘルスアセスメント
フィジカルアセスメント
バイタルサイン
フィジカルイグザミネーション
看護理論
1単位（15）
系統別フィジカルアセスメント
体表面のアセスメント
呼吸器系のアセスメント
循環器系のアセスメント
腹部・消化器系のアセスメント
看護過程
1単位（30）
看護過程
看護記録
基礎看護学演習Ⅰ
1単位（16）
基礎看護学演習Ⅱ
1単位（16）
基礎看護学実習
基礎看護学実習Ⅰ
基礎看護学実習Ⅱ

科目名	看護学概論				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　　前期
担当講師	病院等多様な場で看護実践の経験を持つ看護教員が教授する。				
科目目標	はじめて看護学を学ぶ学生が、看護とは何かを探求し続けるための基本的な考え方を身に付ける。 看護の対象の理解、看護専門職の役割と機能、看護倫理、看護教育などに関する基本的知識を習得する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	人間科学としての看護学1 (1) 学問としての看護	講義	専任教員
2	人間科学としての看護学2 (1) 患者中心の看護とは (2) 看護とは何かを考える	講義	専任教員
3	看護の過去から現在まで1 (1) 歴史の始まりと看護 (2) 近代看護への道	講義	専任教員
4	看護の過去から現在まで2 (1) 海外における職業的看護の発展 (2) わが国の職業的看護の発展	講義	専任教員
5	看護実践における重要な概念1 人間について考える	講義	専任教員
6	看護実践における重要な概念2 健康について考える	講義	専任教員
7	看護の役割と機能 1　看護の役割と機能 2　保健・医療・福祉の連携	講義	専任教員
8	看護実践の方法 1　看護技術・看護過程 2　臨床判断 3　看護師-患者の信頼関係	講義	専任教員
9	看護における倫理と法1 (1) 看護と法 (2) 倫理とは何か	講義	専任教員
１０	看護における倫理と法2 (1) 臨床倫理 (2) 看護とインフォームドコンセント	講義	専任教員
１１	看護実践の支えるもの 1　看護制度・看護行政 2　看護の周辺的な役割	講義	専任教員
１２	専門職としての看護 1　専門職としての役割と自律 2　専門職としての責任	講義	専任教員
１３	医療安全 1　医療事故と医療安全 2　事故発生のメカニズム	講義	専任教員
１４	グローバル社会と看護 1　異文化の理解 2　災害における看護	講義	専任教員
１５	試験（2時間）		

テキスト	新体系　看護学全書　基礎看護学①　看護学概論：メヂカルフレンド社
参考図書	看護学概論　看護追及へのアプローチ：医歯薬出版株式会社 「看護の基本となるもの」Ｖ.ヘンダーソン：日本看護協会出版会 「看護覚え書」Ｆ.ナイチンゲール：現代社 看護者の基本的責務：日本看護協会出版会 系統看護学講座　専門Ｉ　看護学概論　基礎看護学①：医学書院
評価方法	筆記試験・課題
備考	

科目名	看護コミュニケーション				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	１年次　　前期
担当講師	大学等でコミュニケーションを専門とする講師が教授する。 病院などで看護師として実務経験のある教員が教授する。				
科目目標	１　コミュニケーションの特徴と、医療におけるコミュニケーションの重要性が理解できる。 ２　コミュニケーションの基本的方法を実践することができる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1　看護とコミュニケーション	講義	専任教員
2	2　コミュニケーションのプロセスに影響する要因	講義	専任教員
3	3　医療における信頼関係とコミュニケーション (1) 看護師－患者関係	講義	専任教員
4	(2) チーム医療	講義	専任教員
5	4　機器を使用したコミュニケーション	講義	専任教員
6	5　コミュニケーションに障害がある人への対応 (1) 言語機能障害のある人　(2) 聴覚機能障害のある人 (3) 認知機能低下のある人	講義	専任教員
7	6　コミュニケーションの技術演習	演習	専任教員
8	試験（1時間）		

テキスト	新体系　看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ：メヂカルフレンド社
参考図書	看護がみえる　基礎看護技術　VOL.1：メディックメディア
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	日常生活援助技術Ⅰ				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　　前期
担当講師	病院などで看護師として実務経験のある教員が教授する。				
科目目標	１　感染と感染予防の知識と技術が理解できる。 ２　安全で快適な環境に整えるための知識と技術を理解することができる。 ３　看護事故とその防止対策の基礎知識が理解できる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	1　感染の予防技術 (1) 感染と感染予防策の基礎知識 (2) 感染予防における看護師の役割	講義	専任教員
２	(3) 感染源への対策（洗浄・滅菌・消毒法）	講義	専任教員
３	(4) 感染経路への対策 （手洗い、個人防護用具、滅菌物、隔離法・拡散防止）	講義	専任教員
４	(5) 感染予防の技術演習 ①スタンダードプリコーションに基づく手洗い ②個人防護用具の選択・着脱（滅菌・未滅菌） ③無菌操作　④使用した器具の感染防止の取り扱い ⑤感染性廃棄物の取り扱い	講義 演示 演習	専任教員
５			
６	2　環境を整える技術 (1) 環境の諸要素とその調整	講義	専任教員
７	(2) 音と光の測定	講義・GW	専任教員
８	(3) 病室と病床の環境調整 ①病室の環境調整とアセスメント ②病室で用いられる主なベッド、寝具	講義・演示	専任教員
９	③ベッドメーキング演習	演示・演習	専任教員
１０	〃	演習	
１１	④快適な療養環境の調整（ベッドリメイク含）	演習	専任教員
１２	⑤リネンチェンジ演習	演示・演習	専任教員
１３	〃	演習	
１４	3　安全管理の技術 (1) ヒューマンエラーの特性と防止 (2) 看護事故の構造と防止の視点 (3) 看護事故防止のための対策 ①患者の誤認防止 ②組織としての事故防止対策	講義	専任教員
１５	試験（2時間）		

テキスト	新体系　看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ：メヂカルフレンド社 新体系　看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ：メヂカルフレンド社 看護がみえる　基礎看護技術　VOL.1：メディックメディア
参考図書	看護診断ハンドブック：医学書院
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	日常生活援助技術Ⅱ				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	１年次　　前期
担当講師	病院などで看護師として実務経験のある教員が教授する。				
科目目標	１　看護における安楽の意義と援助が理解できる。 ２　活動・休息の意義と必要性を理解できる。 ３　安全安楽に配慮し、体位調整や移動援助技術が実施できる。 ４　睡眠の意義・生理と援助技術が理解できる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1　安楽確保の技術 (1) 安楽の意義 (2) 基本的な体位（立位・座位・臥位）と特殊体位 (3) 安楽な体位の保持・ポジショニング (4) 看護技術におけるボディーメカニクスの基本	講義	専任教員
2	2　活動と休息の援助技術 (1) 活動と休息 (2) 活動のアセスメント (3) 座位保持・起立動作の援助 (4) 歩行の援助	講義	専任教員
3	(5) 運動機能の低下した人の援助 ①体位変換（水平移動・上方移動・仰臥位から側臥位） ②車椅子・ストレッチャーの移乗・移送の援助 ③車椅子・ストレッチャーの援助時の安全性	講義・演示	専任教員
4	(6) 体位変換・ポジショニングの技術演習	演習	専任教員
5	(7) 移動（車椅子・ストレッチャー）の技術演習		
6	(8) 活動における安全性 ①ベッド上からの転落の防止 ②車椅子への移動時の安全性 ③移動の危険防止	講義・GW	専任教員
7	(9) 睡眠への援助 ①睡眠の意義・生理　②睡眠の障害とアセスメント ③睡眠の援助 ④リラクセーションの援助	講義	専任教員
8	試験（1時間）		

テキスト	新体系　看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ：メヂカルフレンド社 新体系　看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ：メヂカルフレンド社 看護がみえる　基礎看護技術　VOL.1：メディックメディア
参考図書	看護診断ハンドブック：医学書院
評価方法	筆記試験・課題・演習
備考	

科目名	日常生活援助技術Ⅲ				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　　前期
担当講師	病院などで看護師として実務経験のある教員が教授する。				
科目目標	個人の習慣を尊重し、身だしなみを整える清潔援助の基本技術が理解できる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	1　清潔の意義、清潔行動のアセスメントと援助方法の選択	講義	専任教員
２	2　整容 3　衣生活	講義	専任教員
３	(1) 点滴、ﾄﾞﾚｰﾝ等を留置していない患者の寝衣交換演習	演示・演習	専任教員
４	4　清潔援助の実際 (1) 入浴、シャワー浴の介助（機械浴も含む）	講義・ＤＶＤ	専任教員
５	(2) 清拭	講義・演示	専任教員
６	(3) 清拭演習	演習	専任教員
７	〃	演習	専任教員
８	(4) 陰部の保清演習	講義・演習	専任教員
９	(5) 手浴・足浴演習	講義・演習	専任教員
１０	(6) 洗髪演習	講義・演習	専任教員
１１	〃	演習	専任教員
１２	(7) 口腔ケア演習	講義・演習	専任教員
１３	(8) 清潔援助を組み合わせた技術演習	演習	専任教員
１４	〃	演習	専任教員
１５	試験（2時間）		

テキスト	新体系　看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ：メヂカルフレンド社 看護がみえる　基礎看護技術　VOL.1：メディックメディア
参考図書	看護診断ハンドブック：医学書院
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	日常生活援助技術Ⅳ				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　　後期
担当講師	病院などで看護師として実務経験のある教員が教授する。				
科目目標	１　食生活と栄養摂取の知識と技術が理解できる。 ２　排泄の意義および患者の尊厳を踏まえた援助の基本が理解できる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	１　食生活と栄養摂取の技術 (1) 食事・栄養摂取の意義としくみ (2) 食事・栄養摂取のアセスメント	講義	専任教員
２	(3) 患者への食事の援助 ①医療施設で提供される食事 ②治療食と食生活の指導	講義	専任教員
３	③経口摂取できる患者の食事介助演習	演習	専任教員
４	(4) 経腸栄養（経管栄養） ①経鼻胃チューブの挿入・注入 ②経管栄養法による流動食の注入	講義・演示	専任教員
５	(5) 経腸栄養の技術演習 ①経鼻胃チューブの挿入・注入	演習	専任教員
６	②経管栄養法による流動食の注入		
７	(6) 経静脈栄養と管理 ①中心静脈栄養　②末梢静脈栄養	講義	専任教員
８	２　排泄の援助技術 (1) 排泄の意義としくみ　(2) 排泄のアセスメント	講義	専任教員
９	(3) 排泄援助 ①トイレを使用した排泄の援助（車いすトイレも含む） ②ポータブルトイレを使用した排泄の援助	講義	専任教員
１０	(4) 自然排尿および自然排便の介助演習 ①床上排泄援助（便器、尿器）　②おむつ交換	演示・演習	専任教員
１１	(5) 排泄障害のある患者の援助 ①排便障害　②排尿障害　③排泄に関する処置	講義	専任教員
１２	(6) 一時的導尿演習	演示・演習	専任教員
１３	〃	演習	専任教員
１４	(7) 膀胱留置カテーテルの挿入・管理	講義・演習	専任教員
１５	試験（2時間）		

テキスト	新体系　看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ：メヂカルフレンド社 看護がみえる　基礎看護技術　VOL.1：メディックメディア
参考図書	看護診断ハンドブック：医学書院
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	臨床看護技術				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　後期
担当講師	病院などで看護師として実務経験のある教員が教授する。				
科目目標	１　健康障害の経過に応じた患者の特徴とその看護が理解できる。 ２　主要症状のある患者の特徴を理解し、必要な援助技術を理解できる。 ３　看護における患者教育や患者指導について理解できる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	1　経過別看護 (1) 臨床看護とその対象者の理解 (2) 臨床看護における看護師の役割 (3) 臨床の場の特徴	講義	専任教員
２	(4) 健康障害の経過から見た看護 ①性期の経過にある患者の看護 ②回復期の経過にある患者の看護	講義	専任教員
３	③慢性期の経過にある患者の看護 ④終末期の経過にある患者の看護	講義・DVD	専任教員
４	⑤臨終時の看護	講義・DVD	専任教員
５	2　主要症状別看護 (1) 呼吸障害がある患者の看護 ①呼吸困難、咳嗽、喀痰の観察とアセスメント ②日常生活への援助	講義	専任教員
６	③治療処置に伴う援助 ・ネブライザーを用いた気道内加湿　・酸素吸入療法 ・口腔内・鼻腔内吸引	講義・ICT	専任教員
７	④酸素吸入療法の技術演習	演習	専任教員 外部講師
８	⑤口腔内・鼻腔内吸引の技術演習		
９	(2) 循環障害がある患者の看護 ①循環障害の症状とアセスメント ②浮腫のある患者の観察と援助	講義	専任教員
１０	(3) 体温管理の必要な患者の看護 ①体温調節の意義　②体温管理のアセスメントと援助 ③罨法の援助（温罨法・冷罨法）	講義・演示	専任教員
１１	(4) 痛みがある患者の看護 ①痛みの理解・分類・メカニズム ②痛みを持つ患者の観察とアセスメント ③痛みへの援助（薬物療法・痛みの緩和ケア）	講義・DVD	専任教員
１２	(5) 意識障害がある患者の看護 ①意識障害の観察とアセスメント ②意識障害がある患者への援助	講義	専任教員
１３	3　患者教育指導 (1) 看護における健康教育の意義・目的 (2) 指導の対象者の理解 (3) 指導計画・実施・評価の方法	講義・GW	専任教員
１４	(4) 指導計画の作成、発表	GW・発表	専任教員
１５	試験（2時間）		

テキスト	新体系　看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ：メヂカルフレンド社 新体系　看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ：メヂカルフレンド社 新体系　看護学全書　基礎看護学④　臨床看護総論　：メヂカルフレンド社 看護がみえる　基礎看護技術　VOL.1：メディックメディア 看護がみえる　臨床看護技術　VOL.2：メディックメディア 看護がみえる　フィジカルアセスメント　VOL.3：メディックメディア 看護がみえる　看護過程の展開　vol.４：メディックメディア
参考図書	看護診断ハンドブック：医学書院
評価方法	筆記試験＋課題・演習
備考	

科目名	診療に伴う技術Ⅰ				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　後期
担当講師	病院などで看護師として実務経験のある教員が教授する。 病院で実務している放射線技師と臨床工学士が教授する。				
科目目標	１　検査の意義をふまえて検査に応じた看護の方法を理解できる。 ２　放射線医学の基礎的知識と検査、治療、看護について理解できる。 ３　医療機器の基礎的知識と操作・管理が理解できる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1　検査時の看護 (1) 検査に伴う看護の役割 (2) 検体検査時の看護 ①検体（尿・血液等）の取り扱い　②排泄物の検査	講義・演示	専任教員
2	③穿刺液の検査 検査の介助	講義・DVD	専任教員
3	④血液検査 血液検査とは	講義	専任教員
4	静脈血採血、血液培養検査、動脈血採血	講義・演示	専任教員
5	静脈血採血の演習	演習	専任教員
6			
7	(3) 生体検査（X線検査、MRI、造影、内視鏡・超音波など）	講義	専任教員
8	2　放射線検査・放射線療法と看護 (1) 放射線の基礎知識 (2) 放射線の被ばく防止策の実施	講義・演示	放射線技師
9	(3) 放射線の検査	〃	放射線技師
１０	(4) 放射線の治療	〃	放射線技師
１１	3　医療機器と看護 (1) 医療機器についての基礎知識	講義	臨床工学士
１２	(2) 測定用医療機器の操作・管理 （心電図モニター、観血式血圧計、パルスオキシメーターなど）	〃	臨床工学士
１３	(3) 治療用医療機器の操作・管理 （人工呼吸器、除細動器、ペースメーカー、 輸液ポンプ・シリンジポンプなど）	〃	臨床工学士
１４	(4) 医療機器の操作・管理演習	演示・演習	臨床工学士
１５	試験（2時間）		

テキスト	新体系　看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ：メヂカルフレンド社 新体系　看護学全書　基礎看護学④　臨床看護総論：メヂカルフレンド社 看護がみえる　臨床看護技術　VOL.2：メディックメディア
参考図書	
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	診療に伴う技術Ⅱ				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　　後期
担当講師	病院などで看護師として実務経験のある教員が教授する。 病院で実務している、皮膚・排泄ケア認定看護師が教授する。				
科目目標	１　薬物療法の意義と目的を理解し、与薬の基本技術が実施できる。 ２　輸血の目的・方法・留意点が理解できる。 ３　創傷の種類・観察・治癒過程・処置の方法が理解できる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	１　与薬の技術 (1) 薬物療法の理解　(2) 薬物療法における看護師の役割	講義	専任教員
２	(3) 経口与薬法	講義・ICT	専任教員
３	(4) 外用薬の与薬法 ①口腔内与薬法　②直腸内与薬法 ③皮膚用製剤　④点眼・点入法　⑤吸入法	講義・ICT	専任教員
４	(5) 注射法における看護師の役割 (6) 血管外注射法（皮内注射、皮下注射、筋肉内注射） (7) 注射時に必要な器具と取り扱い	講義・演示	専任教員
５	(8) 注射薬の準備（アンプル・バイアル）	演習	専任教員
６	(9) 注射法の技術演習	演習	専任教員
７	①皮下注射　②筋肉内注射		
８	(10)血管内注射法（静脈注射、点滴静脈注射、中心静脈注射）	講義・ICT	専任教員
９	(11)点滴静脈内注射薬の準備 (12)側管注法（三方活栓の仕組みと方法） (13)滴下速度の調整	演習	専任教員
１０	２　輸血の技術 (1) 血液製剤の種類と管理　(2) 輸血時の看護	講義・ICT	専任教員
１１	３　創傷管理技術 (1) 創傷 ①創傷の管理　②創傷の観察と処置	講義	看護職
１２	(2) 褥瘡 ①褥瘡の発生の仕組み・好発部位 ②褥瘡の予防	講義	看護職
１３	③褥瘡の評価　④褥瘡の処置	講義	看護職
１４	(3) 包帯法	講義・演習	専任教員
１５	試験（2時間）		

テキスト	新体系　看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ：メヂカルフレンド社 新体系　看護学全書　基礎看護学④　臨床看護総論：メヂカルフレンド社 看護がみえる　基礎看護技術　VOL.1：メディックメディア 看護がみえる　臨床看護技術　VOL.2：メディックメディア
参考図書	
評価方法	筆記試験・課題・演習
備考	

科目名	ヘルスアセスメント				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　　後期
担当講師	病院などで看護師として実務経験のある教員が教授する。 病院で実務している特定行為看護師が教授する。				
科目目標	１　ヘルスアセスメントの意義・目的・方法が理解できる。 ２　フィジカルイグザミネーションの基本技術が理解できる。 ３　系統別フィジカルアセスメントが理解できる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1　看護におけるヘルスアセスメント (1) 看護における観察の理解 (2) 観察をするために必要な技術の理解 (3) ヘルスアセスメントの目的・方法 (4) フィジカルアセスメントの目的と基本技術 (5) バイタルサインの基礎知識 （バイタルサインの目的、観察項目、観察結果の活用、記録）	講義	専任教員
2	(6) バイタルサインのアセスメント (7) バイタルサインの観察方法 (8) バイタルサインの観察時の器具の理解	講義・演示	専任教員
3	(9) バイタルサイン測定の実際	講義・演習	専任教員
4 5	(10) バイタルサイン測定の技術演習	演習	専任教員
6	(11) 健康に関するデータベース ①スクリーニングの理解（身体的・心理的・社会的側面） ②問診の基本技術 ③データベース（個人基礎情報）	講義	専任教員
7	(12) フィジカルイグザミネーションの基本 ①身体審査の技術（視診・触診・聴診・打診） ②身体計測	講義 ICT 演示	専任教員
8	2　系統別フィジカルアセスメント (1) 体表面のアセスメント	講義	専任教員
9	(2) 呼吸器系のアセスメント	講義	専任教員
１０	(3) 循環器系のアセスメント	講義	専任教員
１１	(4) 腹部・消化器系のアセスメント	講義	専任教員
１２	(5)フィジカルイグザミネーションの基本技術 ①体表面　②腹部・消化器系	演示・演習	専任教員
１３ １４	(6)フィジカルイグザミネーションの基本技術 ①呼吸器系　②循環器系	演示・演習	専任教員
１５	試験（2時間）		

テキスト	新体系　看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ：メヂカルフレンド社 看護がみえる　フィジカルアセスメント　VOL.3：メディックメディア
参考図書	看護診断ハンドブック：医学書院
評価方法	筆記試験・課題・演習
備考	

科目名	看護理論				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	１年次　　後期
担当講師	大学で看護理論を専門とする講師が教授する。				
科目目標	主な看護理論を学び、看護の基盤となる主要概念を理解し、看護への適応について理解できる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1　看護理論とは、看護理論の基本概念	講義	外部講師
2	2　主な看護理論の考え方と看護への活用 (ヘンダーソン・オレム・ロイ・ペプロウ)	講義	外部講師
3		講義	外部講師
4		講義	外部講師
5		講義	外部講師
6	3　事例課題	ＧＷ	外部講師
7	〃	ＧＷ	外部講師
8	試験（1時間）		

テキスト	看護学の概念と理論　　編集　野嶋佐由美：日本看護協会出版会　（2021年）
参考図書	新体系　看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ：メヂカルフレンド社 看護がみえる　看護過程の展開　　vol.４：メディックメディア
評価方法	筆記試験・課題
備考	

科目名	看護過程				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　後期
担当講師	病院などで看護師として実務経験のある教員が教授する。				
科目目標	1　科学的思考に基づいた問題解決過程として看護過程の意義と方法を理解する。 2　看護記録における機能と役割が理解できる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1　看護過程の基となる考え方と理論 (1) 看護過程とは ①看護過程とは何か　②看護過程と問題解決法 ③看護過程と看護理論の関係 (2) 看護過程の変遷　(3) 看護診断	講義	専任教員
2	(4) 看護過程とクリティカルシンキング (5) 看護過程とリフレクション		
3	2　看護過程の構成要素 (1) アセスメント ①情報収集	講義	専任教員
4	②看護上の問題を明確化	講義	専任教員
5	(2) 看護上の問題の特定（看護診断）	講義	専任教員
6	(3) 看護計画 ①看護目標の設定　②看護計画の立案 (4) 実施 (5) 評価	講義	専任教員
7	3　事例を用いての看護過程演習 (1) 事例紹介	講義・GW	専任教員 複数名
8	(2) アセスメント	講義・GW	専任教員 複数名
9	〃	講義・GW	専任教員 複数名
１０	(3) 看護上の問題の特定	講義・GW	専任教員 複数名
１１	(4) 看護目標　(5) 看護計画	講義・GW	専任教員 複数名
１２	(6) GW発表	発表	専任教員 複数名
１３	4　看護記録 (1) 看護記録に関する法的規定 (2) 看護記録の目的と意義	講義	専任教員
１４	(3) 看護記録の構成要素　(4) 看護記録の記載基準 (5) 看護記録および診療情報の取り扱い (6) 看護学生の医療情報管理	講義	専任教員
１５	試験（2時間）		

テキスト	新体系　看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ：メヂカルフレンド社 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　編集　江川　隆子：ヌーヴェルヒロカワ 看護がみえる　看護過程の展開　vol.４：メディックメディア 看護診断ハンドブック：医学書院
参考図書	
評価方法	筆記試験・課題
備考	但し、看護過程の展開の課題に関しては再評価あり

科目名	基礎看護学演習Ⅰ				
単位数	１単位	時間	１６時間	履修学年	１年次　　後期
担当講師	病院などで看護師として実務経験のある教員が教授する。				
科目目標	対象に安全で安楽な日常生活援助を実施することができる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1　事例に基づく日常生活の援助技術 (1) オリエンテーション（事例紹介）	講義	専任教員
2	(2) 対象の変化と看護の必要性の検討	講義・演習	専任教員
3	(3) 援助計画の立案	講義・演習	専任教員
4	(4) 技術練習、援助計画の修正	演習	専任教員 複数名
5	〃	演習	専任教員 複数名
6	(5) 日常生活の援助技術演習	演習	専任教員 複数名
7	〃	演習	専任教員 複数名
8	(6) 担当教員との振り返り	演習	専任教員 複数名

テキスト	
参考図書	
評価方法	課題・参加状況・演習内容
備考	

科目名	基礎看護学演習Ⅱ				
単位数	１単位	時間	１６時間	履修学年	２年次　　前期
担当講師	病院などで看護師として実務経験のある教員が教授する。				
科目目標	対象に必要な看護を検討し日常生活援助を実施することができる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1　看護過程の展開に基づく日常生活の援助技術 (1) オリエンテーション　(2) 事例の振り返り・援助の検討	講義	専任教員
2	(3) 援助計画の立案	講義	専任教員
3	(4) 技術練習、援助計画の修正	演習	専任教員 複数名
4	〃	演習	専任教員 複数名
5	〃	演習	専任教員 複数名
6	(5) 技術チェック演習	演習	専任教員 複数名
7	〃	演習	専任教員 複数名
8	(6) 担当教員との振り返り	演習	専任教員 複数名

テキスト	
参考図書	
評価方法	課題・参加状況・演習内容
備考	

地域・在宅看護論

1　位置づけ

地域・在宅看護論の対象は、すべてのライフサイクルの人々やその家族であり、地域で暮らしている「生活者」として捉える。地域で暮らす人々とその家族の健康と生活を支える視点を養い、住み慣れた地域で、その人らしい暮らしが営めるように支援するための基盤となる概念を理解する。

多様な「生活」「健康」「価値観」があることを理解し、看護が提供される場・対象に応じて求められる幅広い知識、的確な判断力、それを実践する基礎的能力を学ぶ。

また地域の暮らしを支えるしくみを理解し、個人及び家族を支援するための看護の役割と関係職種との連携や協働の重要性を学ぶ。そのため社会の動向に目を向ける広い視野と、切れ目のない継続看護の実践、退院調整・退院支援につながる学習内容とする。

そしてあらゆる場においても、個人の権利を尊重する態度を養い、その人らしい生活を支え、健康の維持や回復をもたらす在宅看護の実際を理解する。

以上、地域・在宅看護論では、基礎分野・専門基礎分野・専門分野における学習を活用し、複合的・統合的な科目として位置づける。

2　科目の設定理由

教科は、概論と方法論で構成した。内容は以下の視点で抽出した。

(1) 地域・在宅看護概論は、地域看護の概念枠組み、地域看護の行われる看護活動の場についての理解を前提として、その一分野である在宅看護を展開する上で必要な知識を理解する内容とする。看護の対象を地域で暮らす生活者と捉えることができるように、生活環境、そこで暮らす人々、看護活動の場の多様性を学ぶ。また自分の住み慣れた地域や暮らしを想起しながら、地域の特性・地域ニーズについて考えられる学習内容を設定する。

(2) 地域・在宅看護方法論は 5 科目で、在宅看護活動に必要な知識・技術・態度が習得できるように構成した。内容は以下の通りである。

①地域・在宅看護方法論Ⅰ（地域包括ケアシステムを構成する関係機関や制度）

人々の健康と暮らしを支えるためのしくみを学び、地域での生活を続けるための継続的な支援を理解する内容とする。そのための様々な職種や場のつながりを理解し、看護の専門性や役割について考えられる学習内容を設定する。

②地域・在宅看護方法論Ⅱ（日常生活を支える支援）

既習の看護技術を療養生活の場に適用させる方法を学ぶ。援助方法や物品の工夫、家族支援について理解できる学習内容を設定する。

③地域・在宅看護方法論Ⅲ（医療ケア）

生活の場で行われる治療や医療的ケアの方法と家族支援について理解できる学習内容を設定する。また各単元において事例を用い、健康障害別の看護を学ぶ。

④地域・在宅看護方法論Ⅳ（在宅看護過程の実際）

事例を用いて在宅療養者とその家族のアセスメントの視点を学ぶ。その上で強みを引き出す支援や社会資源の活用を理解する内容とする。

⑤地域・在宅看護方法論Ⅴ（訪問看護における臨床判断能力）

訪問場面における複合的・総合的な判断力や問題解決の基礎的能力を養う内容とする。既習の知識を統合し、対象の状態の変化に気づき、それに応じた看護実践を考える。状況を設定し、場面をイメージしながら情報や看護の意味づけを導き出す。

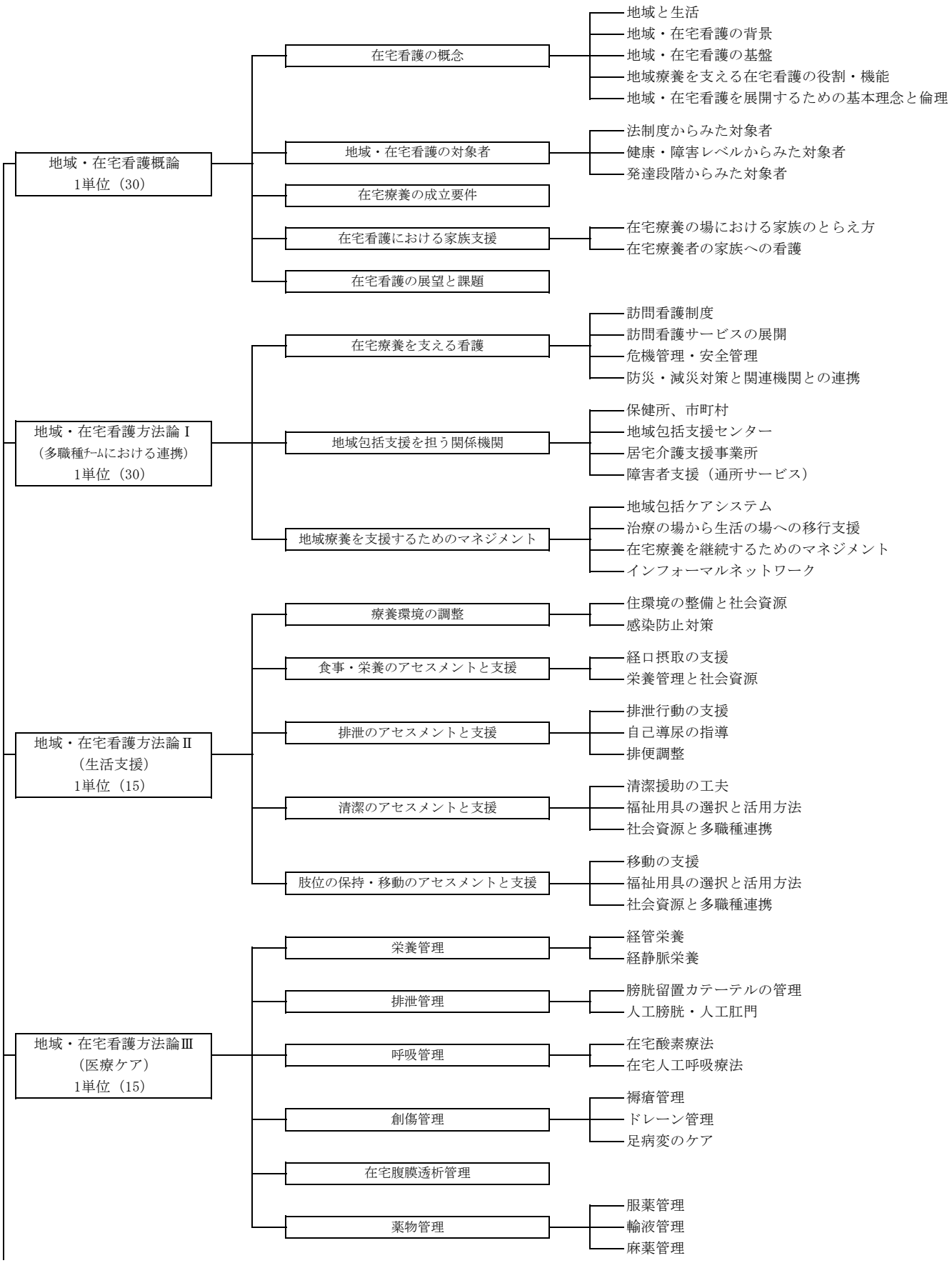
3　目的

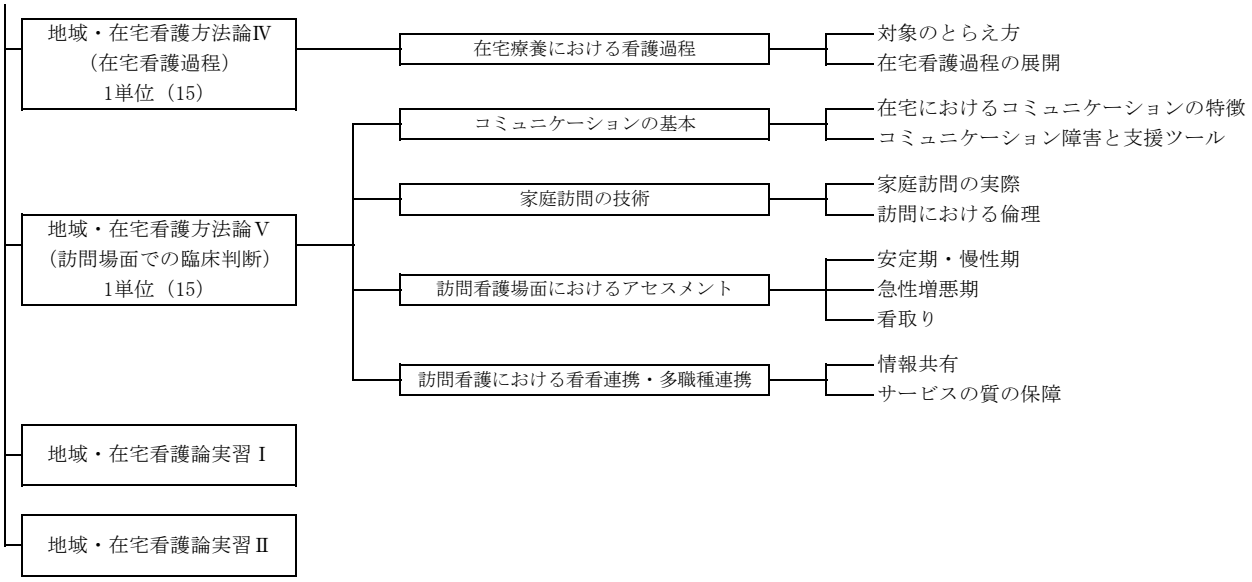
地域で暮らす人々とその家族を理解し、在宅における看護の基礎を習得する。

4　目標

(1) 地域や生活に目を向け、対象を生活者として捉える視点が理解できる。
(2) 地域看護の変遷、対象者を支える法律・制度について理解できる。
(3) 地域看護活動の場と役割、継続看護の必要性を理解できる。
(4) 在宅看護の対象とその対象の抱える健康問題について理解できる。
(5) 在宅看護における技術・態度が習得できる。
(6) その人らしい生活を継続するための、地域の支援体制や関係機関の連携・協働について理解できる。

Ⅴ 科目構成


地域・在宅看護概論
1単位（30）
在宅看護の概念
地域と生活
地域・在宅看護の背景
地域・在宅看護の基盤
地域療養を支える在宅看護の役割・機能
地域・在宅看護を展開するための基本理念と倫理
地域・在宅看護の対象者
法制度からみた対象者
健康・障害レベルからみた対象者
発達段階からみた対象者
在宅療養の成立要件
在宅看護における家族支援
在宅療養の場における家族のとらえ方
在宅療養者の家族への看護
在宅看護の展望と課題
地域・在宅看護方法論Ⅰ
（多職種ﾁｰﾑにおける連携）
1単位（30）
在宅療養を支える看護
訪問看護制度
訪問看護サービスの展開
危機管理・安全管理
防災・減災対策と関連機関との連携
地域包括支援を担う関係機関
保健所、市町村
地域包括支援センター
居宅介護支援事業所
障害者支援（通所サービス）
地域療養を支援するためのマネジメント
地域包括ケアシステム
治療の場から生活の場への移行支援
在宅療養を継続するためのマネジメント
インフォーマルネットワーク
地域・在宅看護方法論Ⅱ
（生活支援）
1単位（15）
療養環境の調整
住環境の整備と社会資源
感染防止対策
食事・栄養のアセスメントと支援
経口摂取の支援
栄養管理と社会資源
排泄のアセスメントと支援
排泄行動の支援
自己導尿の指導
排便調整
清潔のアセスメントと支援
清潔援助の工夫
福祉用具の選択と活用方法
社会資源と多職種連携
肢位の保持・移動のアセスメントと支援
移動の支援
福祉用具の選択と活用方法
社会資源と多職種連携
地域・在宅看護方法論Ⅲ
（医療ケア）
1単位（15）
栄養管理
経管栄養
経静脈栄養
排泄管理
膀胱留置カテーテルの管理
人工膀胱・人工肛門
呼吸管理
在宅酸素療法
在宅人工呼吸療法
創傷管理
褥瘡管理
ドレーン管理
足病変のケア
在宅腹膜透析管理
薬物管理
服薬管理
輸液管理
麻薬管理


地域・在宅看護方法論Ⅳ
（在宅看護過程）
1単位（15）
在宅療養における看護過程
対象のとらえ方
在宅看護過程の展開
地域・在宅看護方法論Ⅴ
（訪問場面での臨床判断）
1単位（15）
コミュニケーションの基本
在宅におけるコミュニケーションの特徴
コミュニケーション障害と支援ツール
家庭訪問の技術
家庭訪問の実際
訪問における倫理
訪問看護場面におけるアセスメント
安定期・慢性期
急性増悪期
看取り
訪問看護における看看連携・多職種連携
情報共有
サービスの質の保障
地域・在宅看護論実習Ⅰ
地域・在宅看護論実習Ⅱ

科目名	地域・在宅看護概論				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　　前期
担当講師	実務経験のある教員が、地域で暮らす人々や支援の概念について教授する。				
科目目標	1　暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。 2　地域・在宅看護論の対象と看護の概念を理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1　在宅看護の概念 (1) 地域と生活	講義・GW	専任教員
2	(2) 地域・在宅看護の背景	講義・GW	専任教員
3	(3) 地域・在宅看護の基盤	講義・GW	専任教員
4	(4) 地域療養を支える在宅看護の役割・機能	講義・GW	専任教員
5	(5) 地域・在宅看護を展開するための基本理念と倫理	講義・GW	専任教員
6	2　地域・在宅看護の対象者 (1) 法制度からみた対象者	講義・GW	専任教員
7	(2) 健康レベル・障害レベルからみた対象者	講義・GW	専任教員
8	(3) 発達段階からみた対象者	講義・GW	専任教員
9	3　在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件	講義・GW	専任教員
１０	4　在宅療養の場における家族のとらえ方 (1) 家族とは	講義・GW	専任教員
１１	(2) 家族形態に応じた看護	講義・GW	専任教員
１２	5　在宅療養者の家族への看護 (1) 家族の介護力のアセスメント	講義・GW	専任教員
１３	(2) 事例　療養者と家族へのケア	講義・GW	専任教員
１４	6　地域・在宅看護の展望と課題 私の地域図作成・発表	講義・GW	専任教員
１５	試験（2時間）		

テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア：メディカ出版 国民衛生の動向
参考図書	
評価方法	筆記試験・課題
備考	

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅰ（多職種チームにおける連携）				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	２年次　　前期
担当講師	行政機関や居宅介護支援事業所、障害者支援施設において実務経験のある看護職、福祉職の外部講師が、地域療養を支える包括的支援について教授する。				
科目目標	１　地域療養を支える制度や多職種連携・協働を理解する。 ２　看護が提供されている多様な場を理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	1　在宅療養を支える看護 （1）訪問看護制度（医療保険制度・介護保険制度）	講義	看護職
２	（2）在宅療養を支える訪問看護ステーション	講義	看護職
３	（3）訪問看護サービスの展開	講義	看護職
４	（4）在宅療養における危機管理・安全管理	講義	看護職
５	（5）防災・減災対策と関連機関との連携	講義	看護職
６	2　地域包括支援を担う関係機関 （1）行政機関（保健所）	講義	看護職
７	（2）行政機関（市区町村）	講義	看護職
８	（3）地域包括支援センター	講義	社会福祉士
９	（4）居宅介護支援事業所	講義	ケアマネジャー
１０	（5）障害者支援（通所サービス含む）	講義	社会福祉士
１１	3　地域療養を支援するためのマネジメント （1）地域包括ケアシステムづくり ①地域包括ケアの概念 ②自助/互助/共助/公助の意義と役割	講義	看護職
１２	（2）治療の場から生活の場への移行支援 （退院支援・退院調整）	講義	看護職
１３	（3）在宅療養を続けるためのマネジメント （自己決定支援、ケアマネジメント）	講義	看護職
１４	（4）インフォーマルネットワーク	講義	看護職または福祉職
１５	試験（2時間）		

テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア：メディカ出版 国民衛生の動向
参考図書	
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅱ（生活支援）					
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	２年次　　前期	
担当講師	実務経験のある教員が在宅療養の実際について教授する。					
科目目標	1　在宅療養を支える生活援助や家族支援を理解する。 2　療養生活に必要な社会資源を理解する。					
回数	授業計画				学習方法	講師
1	1　療養環境の調整 (1) 居住環境のアセスメント (2) 住環境の整備と社会資源 (3) 在宅における感染防止対策				講義・GW	専任教員
2	2　食事・栄養のアセスメントと支援 (1) 食事・栄養のアセスメント (2) 経口摂取の支援 (3) 栄養管理と社会資源				講義・GW	専任教員
3	3　排泄のアセスメントと支援 (1) 排泄のアセスメント (2) 自己導尿の指導 (3) 排便調整				講義・GW	専任教員
4	(4) 排泄援助の実際（グリセリン浣腸・座薬・摘便）				演習	専任教員
5	3　清潔のアセスメントと支援 (1) 清潔のアセスメント (2) 福祉用具の選択と活用方法 (3) 社会資源と多職種連携				講義・GW	専任教員
6	(4) 清潔援助の実際 (介護用品の作成・活用、家庭浴の介助)				演習	専任教員
7	4　肢位の保持・移動のアセスメントと支援 (1) 移動・移乗のアセスメント (2) 福祉用具の選択と活用方法 (3) 社会資源と多職種連携				講義・GW	専任教員
8	試験（1時間）					
テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア：メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術：メディカ出版					
参考図書						
評価方法	筆記試験					
備考						

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅲ（医療ケア）					
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	２年次　　前期	
担当講師	病院や訪問看護ステーションでの実務経験のある看護師が、在宅療養の実際について教授する。					
科目目標	事例を通して在宅療養で行われる医療ケアの技術や家族支援を理解する。					

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1　栄養管理 （1）経管栄養の管理 （2）経静脈栄養の管理	講義	看護職
2	2　排泄管理 （1）膀胱留置カテーテルの管理、膀胱洗浄 （2）人工膀胱・人工肛門の管理・・・事例：回復期	講義 演示	看護職
3	3　呼吸管理 （1）在宅酸素療法 （2）在宅人工呼吸療法・・・事例：難病	講義	看護職
4	（3）医療機器の管理と社会資源	演習	看護職
5	4　創傷管理 （1）褥瘡管理・処置 （2）ドレーン管理 （3）足病変のケア	講義	看護職
6	5　在宅腹膜透析管理　・・・事例：慢性期	講義	看護職
7	6　薬物管理 （1）服薬管理 （2）輸液管理（CVポート含む） （3）麻薬管理（疼痛管理）　・・・事例：終末期 （4）自己注射の指導	講義 演示	看護職
8	試験（1時間）		

テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア：メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術：メディカ出版
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅳ（在宅看護過程）				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	２年次　　後期
担当講師	実務経験のある教員が、在宅療養者や家族の支援について教授する。				
科目目標	1　在宅療養における看護過程の展開技術を理解する。 2　その人の強みに着目する視点を養う。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1　在宅療養における看護過程の特徴	講義・GW	専任教員
2	2　対象のとらえ方 (1) 情報収集とアセスメントのポイント ①ヘルスアセスメント ②病状・症状・障害のアセスメント	講義・GW	専任教員
3	③家族・介護状況のアセスメント ④生活・環境のアセスメント	講義・GW	専任教員
4	3　在宅看護過程の展開 (1) 望みを中心においた情報の整理	講義	専任教員
5	(2) 情報のアセスメント	講義	専任教員
6	(3) ネットワークやつながりが見える関連図	講義	専任教員
7	(4) 訪問看護計画の立案	講義・GW	専任教員
8	(5) 訪問看護の実施と評価方法（1時間）	講義	専任教員

テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア：メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術：メディカ出版
参考図書	
評価方法	課題・課題提出状況・筆記試験
備考	

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅴ（訪問場面での臨床判断）				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	３年次　　前期
担当講師	実務経験のある教員が、在宅療養者の観察や状況判断について教授する。				
科目目標	1　訪問看護活動におけるコミュニケーションの意義と方法を理解する。 2　訪問場面における臨床判断の基礎的能力を身につける。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1　コミュニケーションの基本 (1) 居宅におけるコミュニケーションの特徴 (2) コミュニケーション障害と支援ツール	講義・演習	専任教員
2	2　家庭訪問の技術 (1) 家庭訪問の目的と配慮 (2) 訪問における倫理	演習	専任教員
3	3　訪問看護におけるアセスメント (1) イントロダクション（事例の説明と進め方）	講義・GW ICT	専任教員
4	(2) 安定期・慢性期	演習 ICT	専任教員
5	(3) 急性増悪期	演習 ICT	専任教員
6	(4) 看取り	演習 ICT	専任教員
7	4　訪問看護における看看連携・多職種連携	講義・演習	専任教員
8	試験（1時間）		

テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア：メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術：メディカ出版
参考図書	
評価方法	課題・参加状況・筆記試験
備考	

精神看護学

1　位置づけ

精神看護学は従来の精神疾患だけでなく、時代の流れや現代社会・人との関係の中で起きている。いじめ、自殺、パーソナリティの問題や心身症、アディクション、虐待などの問題にも焦点を当て、幅広い心の健康問題を捉える必要がある。病院の中でも精神科領域だけでなく、小児から老年までがその対象となり、その人格形成・発達課題に深くかかわる領域である。

精神看護学では、ひとがひとに働きかけ、そこに関わる看護師が自分自身の感情・思考を知り、その上で有意義な患者―看護師関係を築き、対象に併せてその人らしさを発揮する生活を支えることを学習していく。さらに、日本の精神医療体制の現状を知り、各個人の精神障害に関する認識を見つめ、そこに潜む根強い偏見に対して、問題意識をもってノーマライゼーションについて考えていく。

2　科目の設定理由

(1) 精神看護学概論

精神看護が心の問題を抱えるあらゆる人々を癒し、サポートする中で、その成長を促す看護活動であることを理解するために設定した。精神を病むことにおける歴史的背景、法制度、人権擁護の考え方、心の健康と働きについて理解するための基礎理論、心理社会的な視点からの対象理解、生活の場と心の健康、ライフステージに応じた看護について学習することを目的としている。

(2) 障害・疾病の理解

障害・疾病の理解では、脳と心の関係は複雑ではあるが、精神疾患の基礎には何らかの脳の機能障害があると推測される。精神を司る脳の働きはどのようであるかについて理解し、その障害はどのように現れるかを DSM-5 や ICD-11 などの国際標準の診断基準体系に基づいて学習することを目的としている。

(3) 精神障害者の看護

精神機能の障害はどのように生活に影響を及ぼすのか、さらに社会生活において精神障害者やその家族が直面する困難さについても考える。その上で、精神疾患により生活障害を抱える人々への看護について学習することを目的としている。

(4) 精神看護学事例演習

心の健康を維持増進し回復するときに、どのような関わりが必要なのかについて、ロールプレイ（コミュニケーション技法)、プロセスレコードを用いて学習する。また、看護過程の展開を学び、対象が必要とする看護は何かを考える力を身に付けることを目的としている。

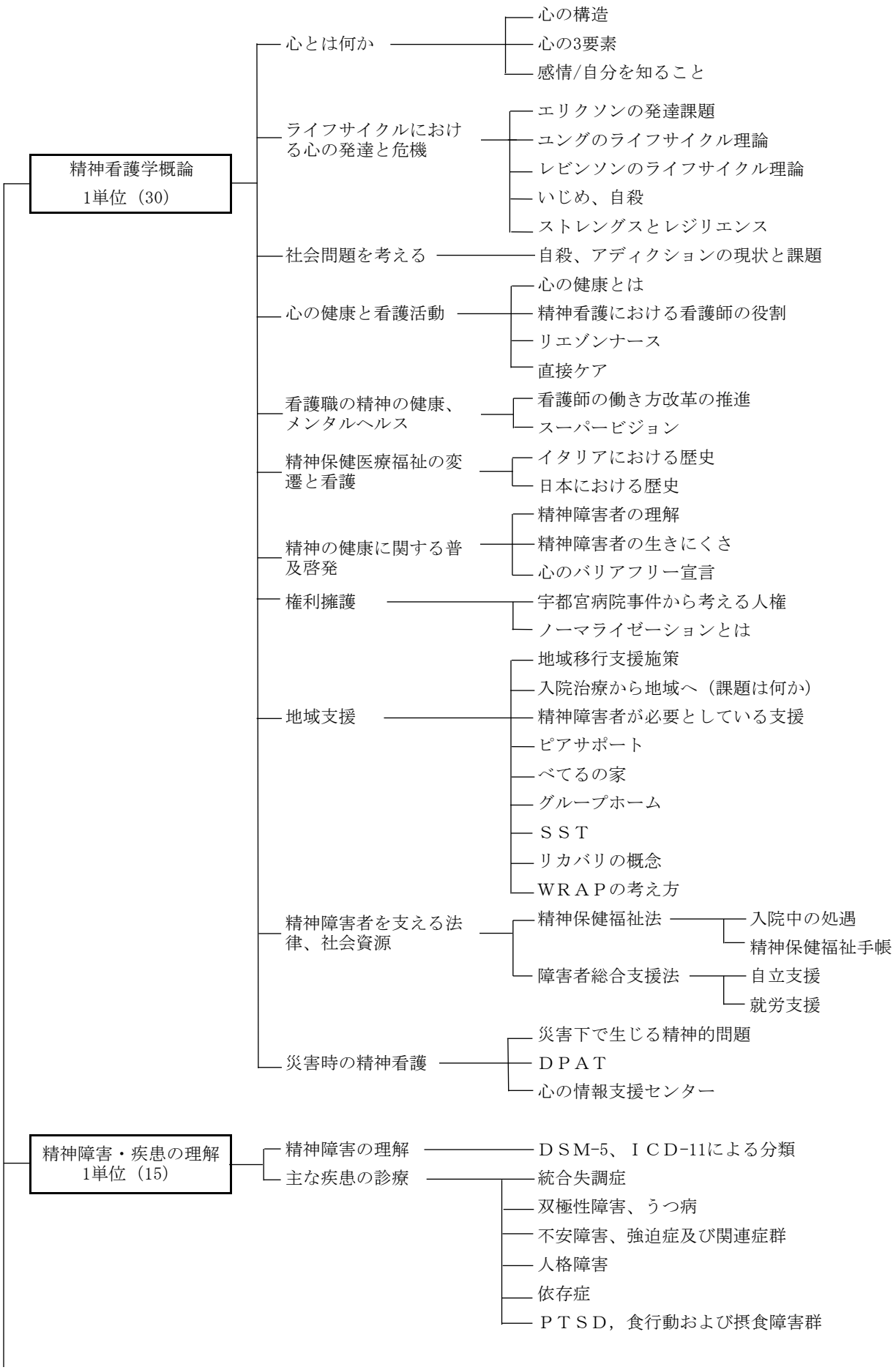
3　目的

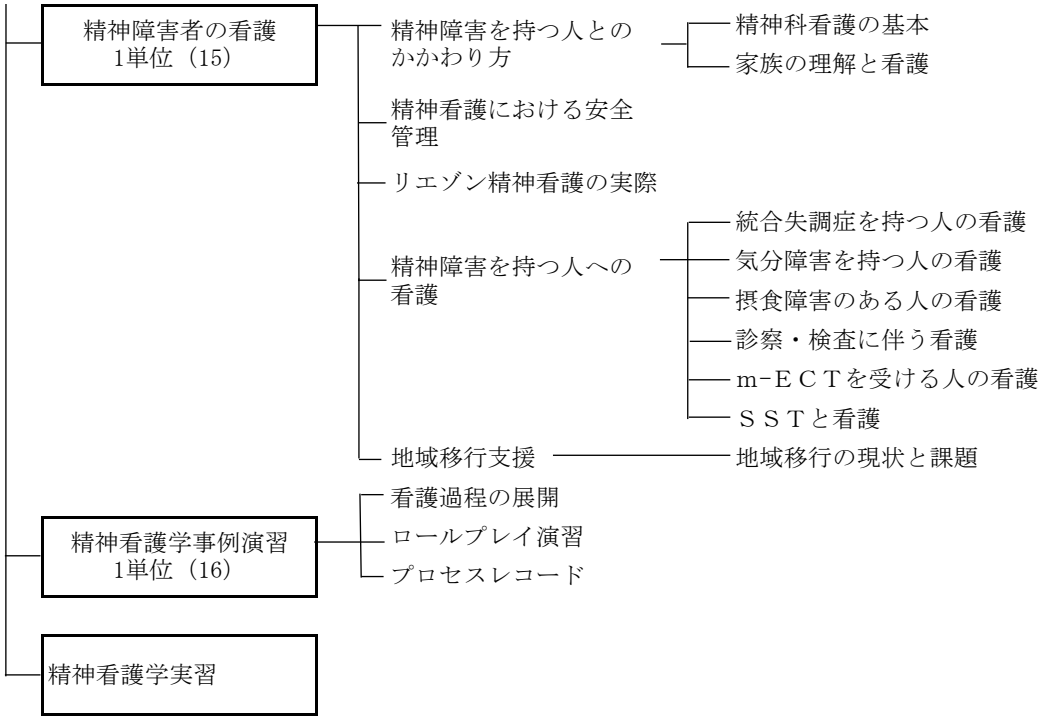
あらゆるライフサイクルの「心」に焦点を当て、そこから発生する心と身体の健康問題を理解し、その人らしい生活を支援できる能力を養う。

4　目標

(1) 発達課題達成の仕方や環境と相互作用に起因する心の健康について理解する。
(2) 精神の歴史から、精神障害者の処遇・治療を学び、現在精神障害者がおかれている状況を理解していくことで、生きにくさなどの問題点や今後のあり方について考えることができる。
(3) 精神保健・医療・福祉・法律を学び、地域の社会資源の活用と、そこで生活する当事者のサポート体制などを理解する。
(4) ケアの基盤となる治療的人間関係と自他理解について考えることができる。
(5) 精神の健康問題の表れかたと、生活への影響を学び、ケアの方法を理解する。
(6) 精神障害者との患者―看護師関係を築き看護過程の展開ができる。
(7) 精神保健福祉制度と地域移行支援の重要性と、地域生活におけるサポート及び看護活動について理解する。

Ⅴ　科目構成


精神看護学概論
1単位（30）
心とは何か
心の構造
心の3要素
感情/自分を知ること
ライフサイクルにおける心の発達と危機
エリクソンの発達課題
ユングのライフサイクル理論
レビンソンのライフサイクル理論
いじめ、自殺
ストレングスとレジリエンス
社会問題を考える
自殺、アディクションの現状と課題
心の健康と看護活動
心の健康とは
精神看護における看護師の役割
リエゾンナース
直接ケア
看護職の精神の健康、メンタルヘルス
看護師の働き方改革の推進
スーパービジョン
精神保健医療福祉の変遷と看護
イタリアにおける歴史
日本における歴史
精神の健康に関する普及啓発
精神障害者の理解
精神障害者の生きにくさ
心のバリアフリー宣言
権利擁護
宇都宮病院事件から考える人権
ノーマライゼーションとは
地域支援
地域移行支援施策
入院治療から地域へ（課題は何か）
精神障害者が必要としている支援
ピアサポート
べてるの家
グループホーム
ＳＳＴ
リカバリの概念
ＷＲＡＰの考え方
精神障害者を支える法律、社会資源
精神保健福祉法
入院中の処遇
精神保健福祉手帳
障害者総合支援法
自立支援
就労支援
災害時の精神看護
災害下で生じる精神的問題
ＤＰＡＴ
心の情報支援センター
精神障害・疾患の理解
1単位（15）
精神障害の理解
ＤＳＭ-5、ＩＣＤ-11による分類
主な疾患の診療
統合失調症
双極性障害、うつ病
不安障害、強迫症及び関連症群
人格障害
依存症
ＰＴＳＤ，食行動および摂食障害群


精神障害者の看護
1単位（15）
精神障害を持つ人との
かかわり方
精神科看護の基本
家族の理解と看護
精神看護における安全
管理
リエゾン精神看護の実際
精神障害を持つ人への
看護
統合失調症を持つ人の看護
気分障害を持つ人の看護
摂食障害のある人の看護
診察・検査に伴う看護
m-ＥＣＴを受ける人の看護
ＳＳＴと看護
地域移行支援
地域移行の現状と課題
精神看護学事例演習
1単位（16）
看護過程の展開
ロールプレイ演習
プロセスレコード
精神看護学実習

科目名	精神看護学概論				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　前期
担当講師	病院等で実務経験のある看護師の教員が教授する。				
科目目標	1.　『心』とは何か、心の成長発達と環境要因が精神に与える影響を考えることができる 2.　ライフサイクルにおける心の発達と危機を知り、人の持つストレングス、レジリエンスについて考えることができる 3.　日本における精神障害者の現状を理解し、共生社会へ向け必要な力や支援について理解する				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	心とは何か (1)心の構造　(2)心の3要素　(3)感情/自己を知る	講義	専任教員
2	ライフサイクルにおける心の発達と危機（１） ①ユング　②レビンソン　③エリクソン　他	講義	専任教員
3	ライフサイクルにおける心の発達と危機（２） ①いじめ、自殺　②ストレングス、レジリエンス	講義	専任教員
4	社会問題を考える 自殺、アディクションの現状と課題	講義	専任教員
5	心の健康と看護活動 (1) 心の健康とは　(2) 精神看護学における看護師の役割　(3) リエゾンナース　(4) 直接ケア	講義	専任教員
6	看護職の精神の健康、メンタルヘルス (1) 看護師の働き方改革の推進　(2) ｽｰﾊﾟｰﾋﾞｼﾞｮﾝ	講義	専任教員
7	精神保健医療福祉の変遷と看護 (1) イタリアにおける精神保健福祉の歴史 (2) 日本における精神保健福祉の歴史	講義	専任教員
8	精神の健康に関する普及啓発 (1) 精神障害者の理解　(2) 精神障害者の生きにくさ (3) 心のバリアフリー宣言	講義	専任教員
9	権利擁護 (1) 宇都宮病院事件から考える人権 (2) ノーマライゼーションとは	講義	専任教員
１０	地域支援（1） ①地域移行施策 ②入院治療から地域へ（課題は何か） ③精神障害者が必要としている支援は何か	講義	専任教員
１１	精神障害者を支える法律、社会資源（１） 精神保健福祉法～精神保健福祉手帳	講義	専任教員
１２	精神障害者を支える法律、社会資源（２） 障害者総合支援法～自立支援と就労支援	講義	専任教員
１３	地域支援（2） ①ピアサポート～べてるの家～ ②グループホーム/SST　③リカバリの概念/WRAP	DVD視聴+講義	専任教員
１４	災害時の精神看護 (1) 災害下で生じる精神的問題　(2) DPAT (3) 心の情報支援センター	講義	専任教員
１５	試験（2時間）		
テキスト	新体系看護学全書　精神看護学①　精神看護学概論／精神保健　メヂカルフレンド社		
参考図書			
評価方法	筆記試験		

科目名	精神障害・疾患の理解				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	２年次　前期
担当講師	病院で診療に携わる精神科医が教授する。				
科目目標	精神疾患・障害を理解するための基本的知識を獲得することができる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	精神障害の理解（DSM-5　ICD-11）	講義	医師
2	主な疾患の診療（１） 統合失調症	講義	医師
3	主な疾患の診療（２） 双極性障害、うつ病	講義	医師
4	主な疾患の診療（３） 不安障害、強迫症及び関連症群	講義	医師
5	主な疾患の診療（４） 人格障害	講義	医師
6	主な疾患の診療（５） 依存症	講義	医師
7	主な疾患の診療（６） PTSD、食行動及び摂食障害群	講義	医師
8	試験（１時間）		

テキスト	新体系看護学全書　精神看護学②　精神障害を持つ人の看護　メヂカルフレンド社
参考図書	
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	精神障害者の看護				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	２年次　後期
担当講師	病院において専門的看護に携わっている看護師が教授する。				
科目目標	精神障害を抱えた人の看護について基本的知識を獲得することができる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	精神障害を持つ人とのかかわり方 (1) 精神科看護の基本 (2) 家族の理解と看護	講義	看護職
2	精神科看護における安全管理	講義	看護職
3	リエゾン精神看護の実際	講義	看護職
4	精神障害を持つ人への看護（1） 統合失調症を持つ人の看護	講義	看護職
5	精神障害を持つ人への看護（2） 気分障害を持つ人の看護 摂食障害のある人の看護	講義	看護職
6	精神障害を持つ人への看護（3） 診察・検査に伴う看護 m-ECTを受ける人への看護 SSTと看護	講義	看護職
7	地域移行支援 地域移行の現状と課題	講義	看護職
8	試験（1時間）		

テキスト	新体系看護学全書　精神看護学②　精神障害を持つ人の看護　メヂカルフレンド社 看護実践のための根拠が分かる　精神看護技術　メヂカルフレンド社
参考図書	
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	精神看護学事例演習				
単位数	１単位	時間	１６時間	履修学年	２年次　後期
担当講師	病院等で実務経験のある看護師の教員が教授する。				
科目目標	１　紙上事例を用いて看護過程の展開について学ぶことができる。 ２　ロールプレイ演習を行うことで、精神障害を持つ人との関わりについて考え、実践することができる。 ３　プロセスレコードを記載し、リフレクションの意義について考えることができる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	統合失調症患者の看護過程の展開(1) 情報収集～アセスメント	講義・演習	専任教員
2	統合失調症患者の看護過程の展開(2) 情報収集～アセスメント	演習	専任教員
3	統合失調症患者の看護過程の展開(3) 問題の明確化～看護計画立案	演習	専任教員
4	ロールプレイ演習(1)	演習	専任教員
5	ロールプレイ演習(2)	演習	専任教員
6	ロールプレイ演習(3)	演習	専任教員
7	プロセスレコード	講義・演習	専任教員
8	プロセスレコードの発表	発表	専任教員

テキスト	新体系看護学全書　精神看護学②　精神障害を持つ人の看護　メヂカルフレンド社 看護実践のための根拠が分かる　精神看護技術　メヂカルフレンド社
参考図書	
評価方法	記録物・演習参加状況
備考	

成人看護学

1　成人看護学の位置づけ

成人看護学は、基礎看護学・地域・在宅看護論・精神看護学を土台にする。

成人期は、人間のライフサイクルにおいて一番長く、青年・壮年・向老期に分けられる。したがって、発達段階において小児看護学・老年看護学とかかわる。また、生殖的にも充実している時期であり、母性看護学とは密接にかかわる時期がある。特に、女性の身体的変化を捉えての対象理解は重要である。

身体的面では、小児期からの発達が継続し、成熟、やがて老年期に向かって衰退していく。精神面ではアイディンティティが確立され、その後も発達課題を達成しながら発達し続ける。そして社会的には、生産性が高くなると同時に役割や責任が変化し、ストレスも強く受ける。

これらのことから、成人期は、人間のライフサイクルの中では最も充実している時期といえる。しかし、家庭や職場・学校、地域において、種々のストレスをうけ、健康障害をきたす危険も高い。そこで、精神面の理解は、精神看護学の「精神（心）の健康の理解」を基にする。

成人看護学では、このような成人期の特徴を踏まえ、解剖生理学Ⅰ・Ⅱをもとに、健康障害による身体的変化及び日常生活行動への影響を理解し、基本的な看護を学ぶ。また看護の場は、医療施設に限らず、機能障害を持ちながら地域に生活する対象・家族にも及ぶ。したがって、在宅看護論ともかかわる。

また、成人期の健康上の問題は、これからの老年期のＱＯＬに影響を及ぼす。そこで、健康の維持・増進と疾病予防の観点から、人々の健康をまもる社会システムと保健医療福祉チームでの看護の役割を学ぶ。

2　科目の設定理由

教科は、成人看護学概論と成人看護学（機能障害に応じた看護）で構成した。
内容は、以下の視点で抽出した。

（1）成人看護学概論は、対象理解とし、成人看護の対象である成人を理解する。さらに、健康レベル別の対象の特徴と看護、成人の保健問題の動向を理解し、健康の維持増進、疾病予防のための看護の役割を考える。

（2）成人看護学（機能障害に応じた看護）は、生体の機能障害に伴う看護で構成し、その中で、健康障害の段階（経過）に伴う看護を学ぶ。

（3）成人期における健康レベルに応じた看護では、様々な治療を受ける成人期の対象を理解し、必要な看護援助を行うための知識・技術を学ぶために以下のように系統別に分類し構成した。

①周術期看護
②がん患者と家族の看護
③救急看護
④クリティカルケア看護

（2）機能障害に応じた看護では、成人期における、代表的な疾患とその治療について理解し、必要な看護援助の必要な看護援助を行うための知識・技術を学ぶため、以下のように系統別に分類し構成した。

①機能障害に応じた看護Ⅰ（呼吸機能障害、血液・造血器機能障害）
②機能障害に応じた看護Ⅱ（循環、消化吸収機能障害）
③機能障害に応じた看護Ⅲ（中枢神経系、運動器、感覚機能障害）
④機能障害に応じた看護Ⅳ（恒常性維持、免疫系、生殖器機能障害）

（3）成人看護における看護過程の展開では、事例をもとに成人期における発達段階・発達課題、生活者としての視点をもとに、身体的・社会的・心理的の 3 側面を考えながら、看護過程を用いた看護の展開が理解できるよう設定した。

3　目的

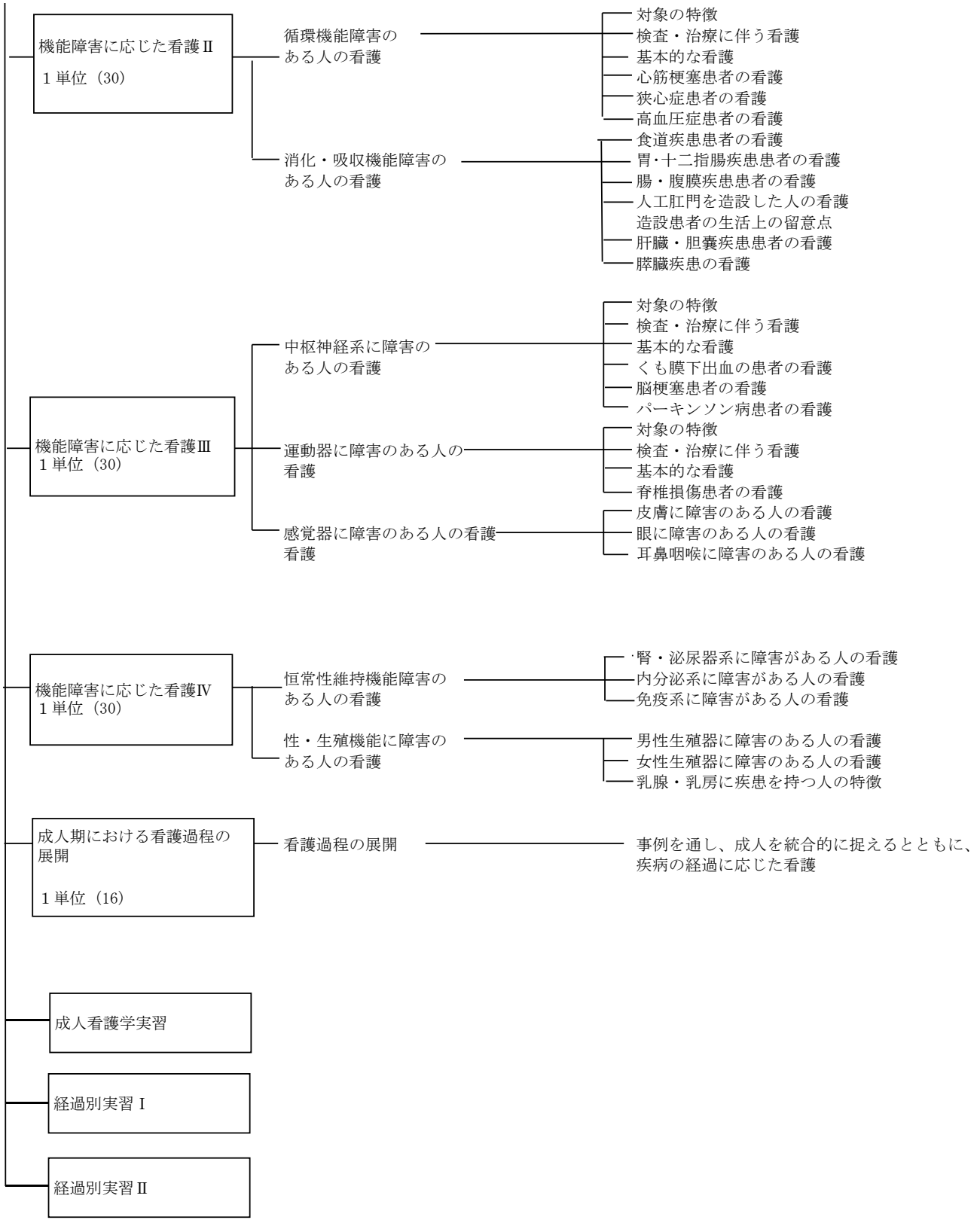
成人期の特徴を理解し、健康維持増進・疾病予防及び、健康上の諸問題を捉え、看護を実践する基礎的能力を習得する。

4　目標

（1）ライフサイクルにおける成人期の精神的・身体的・社会的特徴を理解する。
（2）成人各期における特徴と健康問題の特徴を理解し、成人看護の役割を考える。
（3）成人期にある人の健康の保持・増進及び、疾病予防に対する社会システムを理解する。
（4）成人期の健康障害における回復過程の特徴と看護を理解する。
（5）機能障害のある対象の特徴を理解し、機能回復のための看護を実践する基礎的能力を習得する。
（6）事例を通し、成人期のある人を総合的に捉えるとともに、健康障害の回復経過に応じた看護の展開を理解する。

Ⅴ　専門分野Ⅱ
成人看護学科目構成
13単位（435時間）
　授業科目　６単位（181時間）
　臨地実習　5単位（225時間）

- 成人看護学概論 １単位（30）
  - 対象理解
    - 成人看護の対象である成人とは
      - 「成人」の定義
      - 成人期にある人の理解
  - 成長・発達過程からみた成人の特徴
    - 青年期
    - 壮年期
    - 向老期
  - 成人を取り巻く社会環境と成人の生活
    - 社会の中で生活を営むということ
    - 働くことと生活
    - 家族との関係
    - 多様なライフサイクル
  - 成人保健
    - 成人の健康の動向と保健・医療・福祉施策
      - 保健統計からみた成人の健康の動向
      - 成人各期の特徴的な健康問題
      - 成人を対象とした保健・医療・福祉施策
  - 健康障害を持ち成人に関わる際の基本的な視点
    - 成人期のある穂とが健康障害を持つことの意味
    - 健康生活を支える人間関係の構築
    - 患者・家族の意思決定を支える
    - 健康の危機状況への適応
    - 健康行動へ行動変容:成人に対する健康学習支援
  - 成人の健康に応じた看護
    - 健康の保持・増進のための支援
    - 急性期:健康の危機状況への支援
    - 慢性期:健康生活の継続への支援
    - リハビリテーションを必要とする成人への看護:生活の再構築への支援
    - 終末期:人生最期を迎える人と家族に寄り添う
- 健康レベルに応じた看護 １単位（30）
  - 周術期看護
    - 手術前の看護
    - 手術中の看護
    - 手術後の看護
  - がん患者と家族の看護
    - がん看護とは
    - 化学療法を受ける患者の看護
    - 放射線療法を受ける患者の看護
    - がん治療を受ける成人期の患者への看護（発見～社会復帰への支援）
  - 救急看護・クリティカルケア看護
    - 救急看護・クリティカルケアとは
    - 救急患者の特徴
    - 救急看護の役割と実際
    - 重症集中治療と看護（ICU看護）
- 機能障害に応じた看護Ⅰ １単位（15）
  - 呼吸機能障害のある人の看護
    - 対象の特徴
    - 検査・治療に伴う看護
    - 基本的な看護
    - 肺癌患者の看護
    - 体位排痰法・スクィージングの方法
  - 血液・造血機能障害のある人の看護
    - 対象の特徴
    - 検査・治療に伴う看護
    - 基本的な看護
    - 化学療法をうける患者の看護
    - 白血病患者の看護


機能障害に応じた看護Ⅱ
１単位（30）
循環機能障害のある人の看護
対象の特徴
検査・治療に伴う看護
基本的な看護
心筋梗塞患者の看護
狭心症患者の看護
高血圧症患者の看護
消化・吸収機能障害のある人の看護
食道疾患患者の看護
胃･十二指腸疾患患者の看護
腸・腹膜疾患患者の看護
人工肛門を造設した人の看護
造設患者の生活上の留意点
肝臓・胆嚢疾患患者の看護
膵臓疾患の看護
機能障害に応じた看護Ⅲ
１単位（30）
中枢神経系に障害のある人の看護
対象の特徴
検査・治療に伴う看護
基本的な看護
くも膜下出血の患者の看護
脳梗塞患者の看護
パーキンソン病患者の看護
運動器に障害のある人の看護
対象の特徴
検査・治療に伴う看護
基本的な看護
脊椎損傷患者の看護
感覚器に障害のある人の看護
皮膚に障害のある人の看護
眼に障害のある人の看護
耳鼻咽喉に障害のある人の看護
機能障害に応じた看護Ⅳ
１単位（30）
恒常性維持機能障害のある人の看護
腎・泌尿器系に障害がある人の看護
内分泌系に障害がある人の看護
免疫系に障害がある人の看護
性・生殖機能に障害のある人の看護
男性生殖器に障害のある人の看護
女性生殖器に障害のある人の看護
乳腺・乳房に疾患を持つ人の特徴
成人期における看護過程の展開
１単位（16）
看護過程の展開
事例を通し、成人を統合的に捉えるとともに、疾病の経過に応じた看護
成人看護学実習
経過別実習Ⅰ
経過別実習Ⅱ

科目名	成人看護学概論				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　　前期
担当講師	病院などで看護師として実務経験のある教員が教授する。				
科目目標	１．ライフサイクルにおける成人期の精神的・身体的・社会的特徴を理解する。 ２．成人期における健康障害や回復過程の特徴を学び、基本的な看護を理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1 対象理解　成人看護の対象である成人とは (1) 「成人」の定義 (2) 成人期にある人の理解	講義	専任教員
2	成長・発達過程からみた成人の特徴 (1) 青年期 (2) 壮年期 (3) 向老期	講義/GW	専任教員
３・４	成人を取り巻く社会環境と成人の生活 社会の中で生活を営むということ 働くことと生活 家族との関係 多様なライフサイクル	講義	専任教員
５・６	成人保健…成人の健康の動向と保健・医療・福祉施策 保健統計からみた成人の健康の動向 成人各期の特徴的な健康問題 成人を対象とした保健・医療・福祉施策	講義	専任教員
7	健康障害をもつ成人に関わる際の基本的な視点 成人期にある人が健康障害を持つことの意味 健康生活を支える人間関係の構築 患者・家族の意思決定を支える	講義	専任教員
8	健康の危機状況への適応 健康行動へ行動変容:成人に対する健康学習支援	講義	専任教員
9	成人の健康に応じた看護：健康の保持・増進のための支援 急性期:健康の危機状況への支援	講義	専任教員
１０・１１	慢性期:健康生活の継続への支援	講義・GW	専任教員
１２	生活ストレスに関連する健康障害への支援	講義	専任教員
１３	リハビリテーションを必要とする成人への看護:生活の再構築への支援	講義	専任教員
１４	終末期:人生最期を迎える人と家族に寄り添う	講義	専任教員
１５	試験(2時間)		

テキスト	新体系看護学全書　成人看護学①成人看護学概論/成人保健　メジカルフレンド社 系統看護講座　別巻　臨床外科総論：医学書院
参考図書	国民衛生の動向
評価方法	筆記試験・課題
備考	

科目名	健康レベルに応じた看護				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	２年次　　前期
担当講師	病院などで看護師として実務経験のある教員が教授する。 各分野の認定看護師・専門看護師の資格を有する看護師が教授する。				
科目目標	成人期における健康レベルに応じた、基本的な看護を理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1周術期看護 (1) 手術前の看護 ①周術期とは	講義	専任教員
2	②手術前の看護 ③術前呼吸機能訓練（演習を含む）	講義・演習	専任教員
3	(2)　手術中の看護 ①手術室の環境管理（手術室見学を含む）	講義 施設見学	看護職
4	②手術中の安全管理	講義	看護職
5	③手術室における看護	講義	看護職
6	(3)　手術後の看護 ①手術後の全身管理 ②疼痛管理　　（末梢静脈確保演習を含む）	講義・演習	専任教員
7	③術後ベッド作成（演習を含む） ④手術後合併症予防	講義・演習	専任教員
8	⑤手術創とドレーン管理・無菌操作（演習を含む）	講義・演習	専任教員
9	2 がん患者と家族の看護 (1) がん看護とは(緩和ケアを含む)	講義	看護職
１０	(2) 化学療法を受ける患者の看護 (3) 放射線療法を受ける患者の看護	講義	看護職
１１	(4) がん治療を受ける成人期の患者への看護 (発見～社会復帰への支援)	講義	看護職
１２	3 救急看護・クリティカルケア看護 (1) 救急看護・クリティカルケアとは (2) 救急患者の特徴	講義	看護職
１３	(3) 救急看護の役割・実際 (気管内挿管チューブ固定法演習を含む)	講義・演習	看護職
１４	(4) 重症集中治療と看護（ＩＣＵ看護）	講義	看護職
１５	試験（2時間）		
テキスト	新体系看護学全書　成人看護学①　成人看護学概論/成人保健　：メヂカルフレンド社 系統看護学講座　別巻　臨床外科総論：医学書院 看護学テキスト　ＮｉＣＥ　成人看護学　成人看護技術：南江堂		
参考図書			
評価方法	筆記試験		
備考			

科目名	機能障害に応じた看護Ⅰ				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	２年次　　前期
担当講師	病院にて実務経験のある看護師が教授する。				
科目目標	生命現象及び生体防御機能に障害を持つ人の特徴と看護を理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1　呼吸機能障害のある人の看護 (1) 対象の特徴・呼吸困難・活動制限・死の恐怖など (2) 検査・治療に伴う看護：気管支鏡・胸腔ドレナージなど	講義	看護職
2	(3) 基本的な看護 ①安全な呼吸への援助 ②気道の浄化　（気管内吸引演示）	講義・演示	看護職
3	③呼吸筋の強化 ④肺切除の術前術後の看護	講義	看護職
4	(4) 肺がん患者の看護	講義	看護職
5	(5) 体位排痰法・スクウィージングの方法（演習を含む） 肺理学療法、排痰法、スクウィージング、体位ドレナージ	講義・演習	看護職
6	2　血液・造血機能障害を持つ人の看護 (1) 対象の特徴　出血・易感染・死の恐怖など (2) 検査・治療に伴う看護：輸血療法・骨髄穿刺・骨髄移植など	講義	看護職
7	(3) 基本的看護 ①化学療法を受ける人の看護 ②白血病	講義	看護職
8	試験（1時間）		
テキスト	系統看護学講座　成人看護学２　呼吸器：医学書院 系統看護学講座　成人看護学４　血液・造血器：医学書院		
参考図書	看護学テキスト　ＮｉＣＥ　成人看護学　慢性期看護：南江堂		
評価方法	筆記試験		
備考	演習・演示		

科目名	機能障害に応じた看護Ⅱ				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	２年次　　前期
担当講師	病院にて実務する看護師及び、専門看護師の資格を有する看護師が教授する。				
科目目標	１　生命現象及び生体防御機能に障害を持つ人の特徴と看護を理解する。 ２　生命活動の源に関する障害を持つ人の特徴と看護を理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1　循環機能障害のある人の看護 （1）対象の特徴 胸痛・呼吸困難・浮腫・活動制限・死の恐怖など	講義	看護職
2	（2）検査・治療に伴う看護 ①心電図・心臓カテーテル・薬物療法	講義	看護職
3	②心電図12誘導・心電図モニター（演示を含む）	講義・演示	看護職
4	（3）基本的な看護　急性・慢性の経過の看護 ①心臓手術の術前術後の看護	講義	看護職
5	②心筋梗塞　③狭心症	講義	看護職
6	④心不全　⑤高血圧症	講義	看護職
7	2　消化吸収機能障害のある人の看護 （1）食道疾患患者の看護 ①食道がん　②胃食道逆流症	講義	看護職
8	（2）胃・十二指腸疾患患者の看護 ①胃・十二指腸潰瘍　②胃がん	講義	看護職
9	（3）腸・腹膜疾患患者の看護 ①潰瘍性大腸炎　②クローン病 ③イレウス　④大腸がん	講義	看護職
１０	（4）人工肛門を造設患者の生活上の留意点	講義	看護職
１１・１２	人工肛門の管理　（演習を含む）	講義・演習	看護職
１３	（5）肝臓・胆嚢疾患患者の看護 ①　肝臓がん　②胆嚢炎・胆石症	講義	看護職
１４	（6）膵臓疾患患者の看護 ①膵炎　②膵臓がん	講義	看護職
１５	試験（2時間）		
テキスト	系統看護学講座　成人看護学３　循環器：医学書院 系統看護学講座　成人看護学５　消化器：医学書院		
参考図書	看護学テキスト　ＮｉＣＥ　成人看護学　成人看護技術：南江堂		
評価方法	筆記試験		
備考			

科目名	機能障害に応じた看護Ⅲ				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	２年次　　前期
担当講師	病院にて実務する看護師が教授する。				
科目目標	生体を統括し、外部刺激を認識・行動するための機能に障害を持つ人の特徴と 看護を理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1 中枢神経系に障害を持つ人の看護 (1)対象の特徴　(2)意識障害　(3)運動障害 ①生活行動障害 ②ボディイメージの障害など	講義	看護職
2	(4) 検査・治療に伴う看護髄液検査・脳室ドレナージなど	講義	看護職
3	(5) 基本的な看護 ①発症時の急性症状 ②機能回復と残存機能維持	講義	看護職
4	③くも膜下出血	講義	看護職
5	④脳梗塞	講義	看護職
6	⑤ パーキンソン病	講義	看護職
7	2 運動器に障害を持つ人の看護 (1)対象の特徴 疼痛・生活行動障害・ボディイメージの障害など	講義	看護職
8	(2)検査・治療に伴う看護（計測・固定・牽引）	講義	看護職
9	(3)基本的な看護	講義	看護職
１０	(4)脊椎損傷の看護	講義	看護職
１１	3 感覚器に障害を持つ人の看護 (1)皮膚に障害のある人の看護 ①対象の特徴　②検査・治療にともなう看護 ③基本的な看護　④アトピー性皮膚炎	講義	看護職
１２	(2)眼に障害がある人の看護 ①対象の特徴　②検査・治療にともなう看護 ③基本的な看護　④網膜剥離・緑内障	講義	看護職
１３	(3)耳・鼻・咽喉にある人の看護 ①対象の特徴　②検査・治療にともなう看護 ③基本的な看護　④中耳炎・メニエール病	講義	看護職
１４	⑤扁桃腺炎・慢性副鼻腔炎・上顎洞癌・喉頭がん		
１５	試験（2時間）		
テキスト	系統看護学講座　成人看護学７　脳・神経：医学書院 系統看護学講座　成人看護学10　運動器：医学書院 系統看護学講座　成人看護学12　皮膚：医学書院 系統看護学講座　成人看護学13　眼：医学書院 系統看護学講座　成人看護学14　耳鼻咽喉：医学書院		
参考図書	看護学テキスト　ＮｉＣＥ　成人看護学　慢性期看護：南江堂 看護学テキスト　ＮｉＣＥ　成人看護学　成人看護技術：南江堂		
評価方法	筆記試験		
備考			

科目名	機能障害に応じた看護Ⅳ				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	２年次　　前期
担当講師	病院にて実務する看護師が教授する。				
科目目標	１　生命活動の源に関する障害を持つ人の特徴と看護を理解する。 ２　生命現象及び生体防御機能に障害を持つ人の特徴と看護を理解する。 ３　生殖機能に障害を持つ人の特徴と看護を理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	1　恒常性維持機能障害のある人の看護 (1) 腎・泌尿器系に障害がある人の看護 ①対象の特徴	講義	看護職
２	②検査・治療に伴う看護	講義	看護職
３	(2) 血液透析・腹膜透析を受ける人の看護	講義	看護職
４	2　内分泌に障害がある人の看護 (1) 糖尿病①	講義	看護職
５	糖尿病②	講義	看護職
６	糖尿病③	講義	看護職
７	(2) インスリンの使用方法、自己血糖測定（演示）	講義	看護職
８	(3) 甲状腺機能障害患者の看護	講義	看護職
９	3 免疫系に障害がある人の看護 (1) 関節リウマチ　　ステロイドパルス療法	講義	看護職
１０	(2) 全身性エリテマトーデス	講義	看護職
１１	4 生殖機能に障害のある人の看護 (1) 男性生殖器に障害のある人の看護 ① 対象の特徴　② 機能障害に伴う看護	講義	看護職
１２	(2) 女性生殖器に障害のある人の看護 ① 対象の特徴 ② 検査・治療に伴う看護(不妊治療)	講義	看護職
１３	(3) 乳腺・乳房の疾患を持つ人の看護 ① 対象の特徴 ② 検査・治療に伴う看護 （自己診断、マンモグラフィ）	講義	看護職
１４	③機能障害に伴う看護	講義	看護職
１５	試験（2時間）		

テキスト	系統看護学講座　成人看護学６　内分泌・代謝：医学書院 系統看護学講座　成人看護学８　腎・泌尿器：医学書院 系統看護学講座　成人看護学９　女性生殖器：医学書院 系統看護学講座　成人看護学11　アレルギー　膠原病　感染症：医学書院
参考図書	看護学テキスト　ＮｉＣＥ　成人看護学　慢性期看護：南江堂 看護学テキスト　ＮｉＣＥ　成人看護学　成人看護技術：南江堂
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	成人期における看護過程の展開				
単位数	１単位	時間	１６時間	履修学年	２年次　　後期
担当講師	病院などで看護師として実務経験のある教員が教授する。				
科目目標	事例を通し、成人を統合的に捉えるとともに、疾病の経過に応じた看護の方法を理解することができる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	事例説明・薬剤レポート作成	演習・講義	専任教員
2	情報整理（主観的データー・客観的データーの振り分け）	演習・講義	専任教員
3	アセスメント（情報の分析・解釈）	演習・講義	専任教員
4	アセスメント（情報の分析・解釈）	演習・講義	専任教員
5	アセスメント（情報の分析・解釈）	演習・講義	専任教員
6	全体像関連図作成	演習・講義	専任教員
7	看護問題抽出	演習・講義	専任教員
8	看護計画立案	演習・講義	専任教員

テキスト	指示あり
参考図書	基礎看護学の看護過程に準じる
評価方法	課題・課題・参加状況
備考	

老年看護学

1　老年看護学の位置づけ

老年看護学は発達段階において成人看護学と密接に関わる。老年期はライフサイクルの最後のステージとして人間的成熟・統合に向けて成長・発達する最終段階である。

身体面・精神面では成人期後期から衰退が始まり、加齢に伴い顕著になる。そのため疾患による健康障害を受けやすく、症状も否定形的である。よって、成人看護学で学んだ健康障害の看護をもとに、加齢に伴う身体の形態や機能の変化を考慮した関わりが必要となる。

人間関係・社会的役割などの社会的側面は、様々な変化や喪失を体験する時期でもある。しかし一方で、これまで歩んできた人生を振り返り、自己を受け入れる段階である。つまり、人間的に円熟していくという、発達課題における最終段階である。したがって、対象者の人生観や生きることの意味を考え、最後までその人らしい生活をおくれるよう看護できる能力を養う。

また、看護の実践の場も、施設内から地域へと大きく拡大してきているため、家族を含めた看護や高齢者の強みや持てる力に着目し、地域で生活することを意識して考え、在宅看護論と関連して考えることも必要である。

以上、老年看護学は、高齢社会における看護の役割を明らかにするとともに、高齢者を人生の先輩として敬う態度を養う。そして、老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴をとらえ、健康のレベルに応じた援助を行うために必要な知識・技術・態度を学習する。

2　科目の設定理由

教科は、老年看護学概論と老年看護学方法論で構成した。

(1)「老年看護学概論」は、老年看護学の対象である高齢者を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解する。そして、社会構造の変化に伴う高齢問題、高齢者政策、社会資源などから、老年看護学の目的・目標を明らかにする。また、ライフステージにおける老年期の理解を深め、高齢者への尊敬の念を高める。

(2)「老年看護学方法論Ⅰ」は、高齢者への日常生活援助に必要な知識、看護技術を学ぶ。

(3)「老年看護学方法論Ⅱ」は、疾患による健康障害の加齢による影響と特徴を理解し、健康回復と健康レベルに応じた看護の基本を学ぶ。

(4)「老年看護学方法論Ⅲ」は、健康障害を持つ高齢者の退院支援のための知識を学ぶ。高齢者が安心して地域の生活の場に戻れるようにするにはどうすればよいか、高齢者の持てる力や強みを考慮しつつ、生活者として対象を捉え事例を用いて模擬展開していく。

3　目的

人間的成熟・統合に向かって発達する老年期の人々の健康問題を総合的に理解し、加齢による老化や、健康レベルに応じた看護に必要な知識・技術・態度を習得する。

4　目標

(1) 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を知り、生活者としての対象を捉え、発達課題を踏まえて総合的に理解することができる。

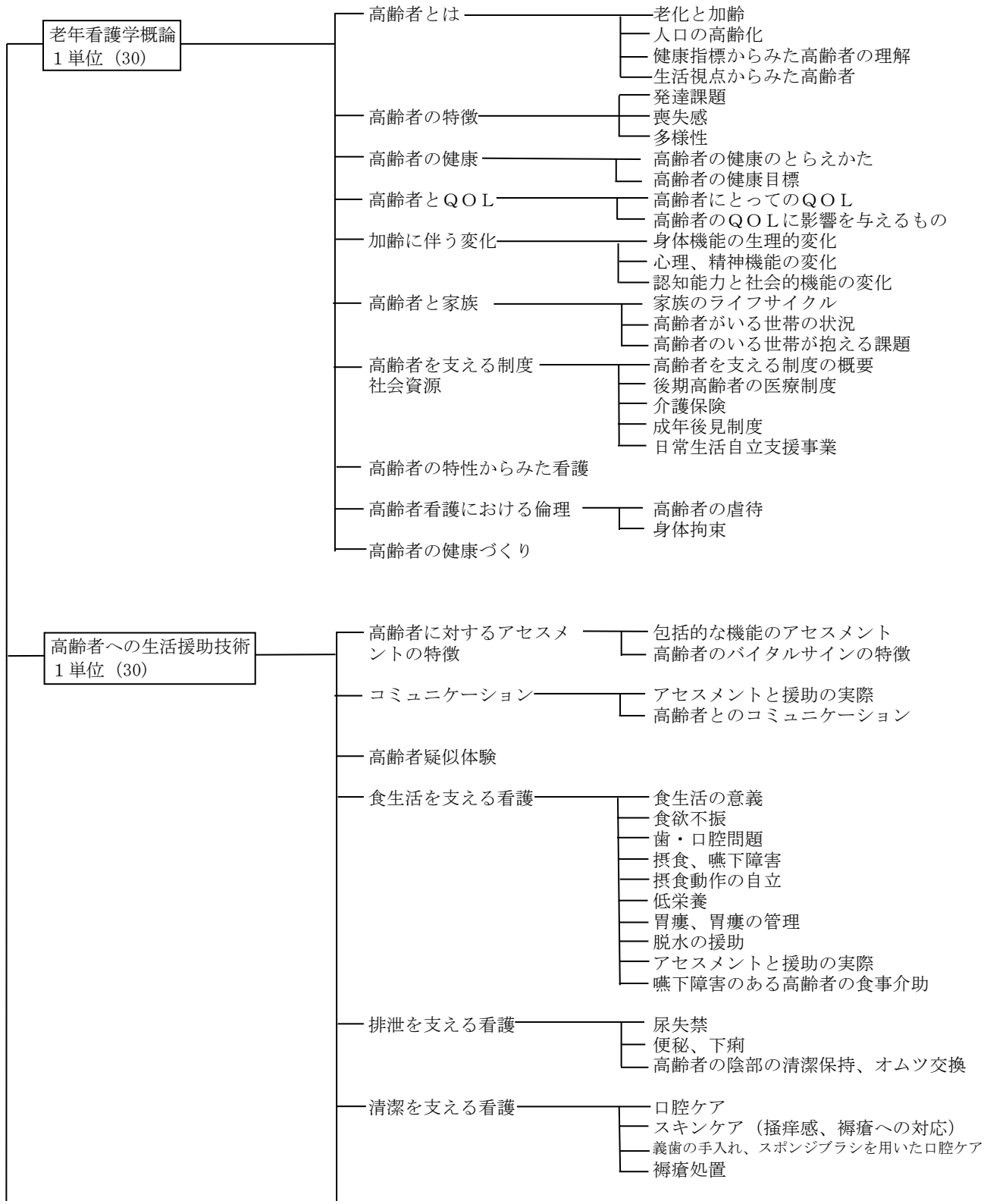
(2) 社会構造の変化や高齢者の保健・医療・福祉の場における様々な課題を理解し、高齢者の生活を支える地域包括ケアシステムとその活用方法が理解できる。

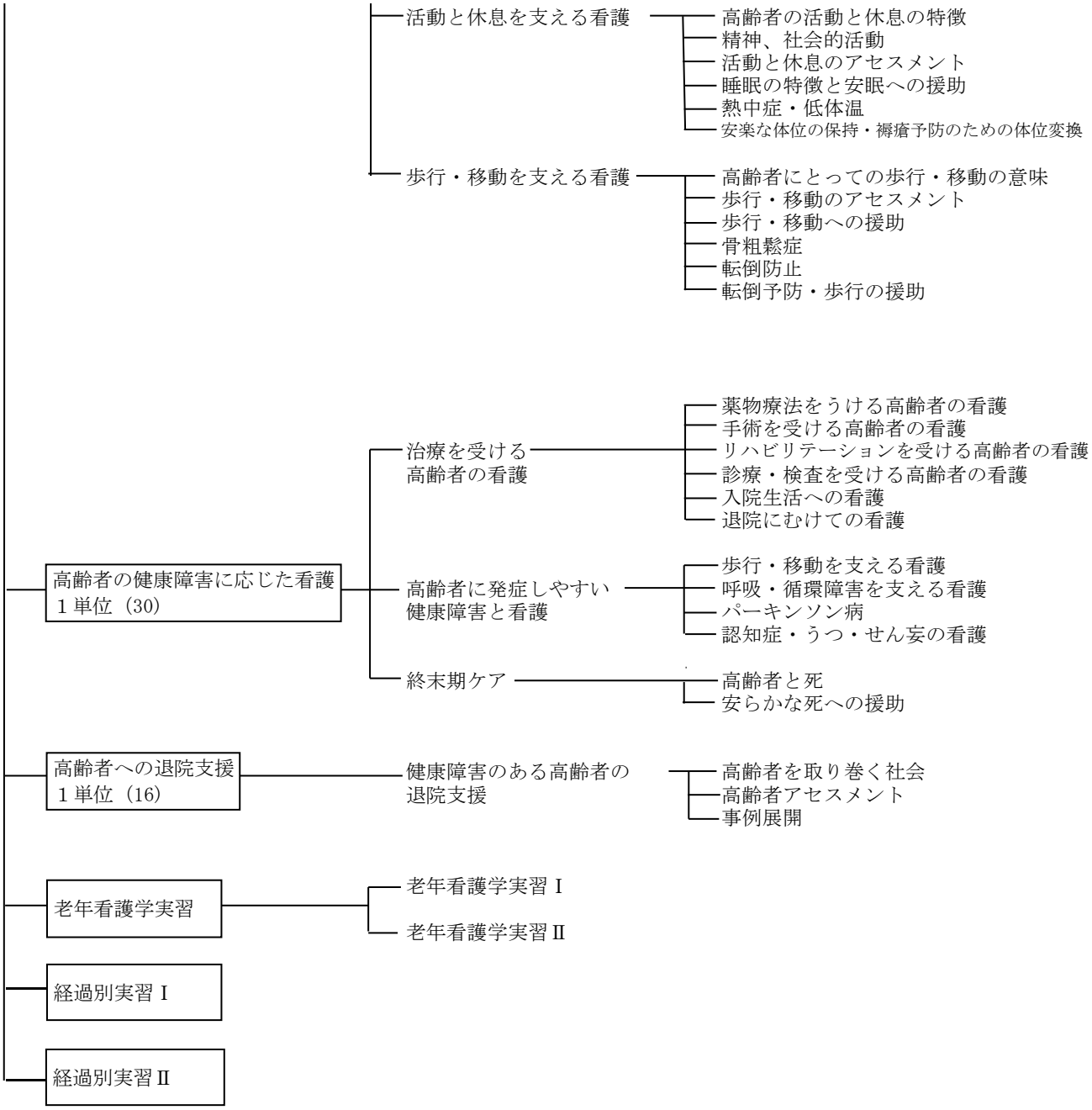
(3) 高齢期にある対象への生活援助技術を習得できる。

(4) 老化や各健康レベルにある高齢者とその家族に対する問題を解決するための看護の方法が理解できる。

(5) 人生の終盤にある高齢者の生命と人格を尊重する態度を養い、高齢者の強みや持てる力に着目し、老年観を深めることができる。

Ⅴ　科目構成


老年看護学概論
１単位（30）
高齢者とは
老化と加齢
人口の高齢化
健康指標からみた高齢者の理解
生活視点からみた高齢者
高齢者の特徴
発達課題
喪失感
多様性
高齢者の健康
高齢者の健康のとらえかた
高齢者の健康目標
高齢者とＱＯＬ
高齢者にとってのＱＯＬ
高齢者のＱＯＬに影響を与えるもの
加齢に伴う変化
身体機能の生理的変化
心理、精神機能の変化
認知能力と社会的機能の変化
高齢者と家族
家族のライフサイクル
高齢者がいる世帯の状況
高齢者のいる世帯が抱える課題
高齢者を支える制度
社会資源
高齢者を支える制度の概要
後期高齢者の医療制度
介護保険
成年後見制度
日常生活自立支援事業
高齢者の特性からみた看護
高齢者看護における倫理
高齢者の虐待
身体拘束
高齢者の健康づくり
高齢者への生活援助技術
１単位（30）
高齢者に対するアセスメントの特徴
包括的な機能のアセスメント
高齢者のバイタルサインの特徴
コミュニケーション
アセスメントと援助の実際
高齢者とのコミュニケーション
高齢者疑似体験
食生活を支える看護
食生活の意義
食欲不振
歯・口腔問題
摂食、嚥下障害
摂食動作の自立
低栄養
胃瘻、胃瘻の管理
脱水の援助
アセスメントと援助の実際
嚥下障害のある高齢者の食事介助
排泄を支える看護
尿失禁
便秘、下痢
高齢者の陰部の清潔保持、オムツ交換
清潔を支える看護
口腔ケア
スキンケア（掻痒感、褥瘡への対応）
義歯の手入れ、スポンジブラシを用いた口腔ケア
褥瘡処置


高齢者の健康障害に応じた看護
１単位（30）
活動と休息を支える看護
高齢者の活動と休息の特徴
精神、社会的活動
活動と休息のアセスメント
睡眠の特徴と安眠への援助
熱中症・低体温
安楽な体位の保持・褥瘡予防のための体位変換
歩行・移動を支える看護
高齢者にとっての歩行・移動の意味
歩行・移動のアセスメント
歩行・移動への援助
骨粗鬆症
転倒防止
転倒予防・歩行の援助
治療を受ける
高齢者の看護
薬物療法をうける高齢者の看護
手術を受ける高齢者の看護
リハビリテーションを受ける高齢者の看護
診療・検査を受ける高齢者の看護
入院生活への看護
退院にむけての看護
高齢者に発症しやすい
健康障害と看護
歩行・移動を支える看護
呼吸・循環障害を支える看護
パーキンソン病
認知症・うつ・せん妄の看護
終末期ケア
高齢者と死
安らかな死への援助
高齢者への退院支援
１単位（16）
健康障害のある高齢者の
退院支援
高齢者を取り巻く社会
高齢者アセスメント
事例展開
老年看護学実習
老年看護学実習Ⅰ
老年看護学実習Ⅱ
経過別実習Ⅰ
経過別実習Ⅱ

科目名	老年看護学概論				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　　後期
担当講師	病院などで看護師として実務経験のある教員が教授する。				
科目目標	１ 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を知り、発達段階を踏まえ総合的に理解することができる。 ２ 社会構造の変化や高齢者の保健・医療・福祉の場における様々な課題を理解し、高齢者の生活を支える社会システムとその活用方法が理解できる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	高齢者とは 1 老化と加齢　2 人口の高齢化 3 健康指標からみた高齢者の理解 4）生活視点からみた高齢者	講義	専任教員
２	高齢者の特徴 1　発達課題　　2　喪失感　　3　多様性	講義	専任教員
３	高齢者の健康 1 高齢者の健康のとらえかた 2 高齢者の健康目標	講義	専任教員
４	高齢者とQOL 1 高齢者にとってのQOL　2 高齢者のQOLに影響を与えるもの	講義	専任教員
５	加齢に伴う変化1 （1）身体機能の生理的変化	講義	専任教員
６	加齢に伴う変化2 （2）心理、精神機能の変化	講義	専任教員
７	加齢に伴う変化3 （3）認知能力と社会的機能の変化	講義	専任教員
８	高齢者と家族 1　家族のライフサイクル　2　高齢者がいる世帯の状況 3　高齢者のいる世帯が抱える課題	講義	専任教員
９	高齢者を支える制度・社会資源1 （1）高齢者を支える制度の概要　（2）後期高齢者の医療制度	講義	専任教員
１０	高齢者を支える制度・社会資源2 （1）介護保険	講義	専任教員
１１	高齢者を支える制度・社会資源3 （1）成年後見制度　　（2）日常生活自立支援事業	講義	専任教員
１２	高齢者の特性からみた看護	講義	専任教員
１３	高齢者看護における倫理 1　高齢者の虐待　2　身体拘束	講義	専任教員
１４	高齢者の健康づくり	講義	専任教員
１５	試験（2時間）		

テキスト	ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害：メディカ出版
参考図書	国民衛生の動向
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	高齢者への生活援助技術				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	２年次　　前期
担当講師	病院などで看護師として経験のある教員が教授する。				
科目目標	老年期にある対象への生活援助技術を習得することができる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	高齢者に対するアセスメントの特徴 ・包括的な機能のアセスメント　・ 高齢者のバイタルサインの特徴	講義	専任教員
２	コミュニケーション ・アセスメントと援助の実際　・高齢者とのコミュニケーション	講義	専任教員
３	高齢者疑似体験	演習	専任教員
４	食生活を支える看護1 （1）食生活の意義　（2）食欲不振　（3）歯・口腔問題 （4）摂食、嚥下障害　（5）摂食動作の自立　（6）低栄養 （7）胃瘻、胃瘻の管理　（8）脱水の援助	講義	専任教員
５	食生活を支える看護2 （1）アセスメントと援助の実際（2）嚥下障害のある高齢者の食事介助	講義	専任教員
６	排泄を支える看護1 （1）尿失禁　（2）便秘、下痢	講義	専任教員
７	排泄を支える看護2 （1）高齢者の陰部の清潔保持　（2）オムツ交換	演習	専任教員
８	清潔を支える看護1 （1）口腔ケア　(2)スキンケア（掻痒感、褥瘡への対応）	講義	専任教員
９	清潔を支える看護2 （1）義歯の手入れ　（2）スポンジブラシを用いた口腔ケア	演習	専任教員
１０	清潔を支える看護3 ・褥瘡処置	演習	専任教員
１１	活動と休息を支える看護　1） （1）高齢者の活動と休息の特徴　（2）精神、社会的活動 （3）活動と休息のアセスメント　（4）睡眠の特徴と安眠への援助 (5)熱中症・低体温	講義	専任教員
１２	活動と休息を支える看護1 （1）安楽な体位の保持　（2）褥瘡予防のための体位変換	演習	専任教員
１３	歩行・移動を支える看護2 （1）高齢者にとっての歩行・移動の意味　（2）歩行・移動のｱｾｽﾒﾝﾄ （3）歩行、移動への支援　(4)骨粗鬆症　5）転倒防止	講義	専任教員
１４	歩行・移動を支える看護3 （1）転倒予防、歩行の援助	演習	専任教員
１５	試験（2時間）		
テキスト	ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害：メディカ出版 ナーシング・グラフィカ　老年看護学②高齢者看護の実践：メディカ出版		
参考図書			
評価方法	筆記試験		
備考			

科目名	高齢者の健康障害に応じた看護				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	２年次　　前期
担当講師	病院において専門的看護に携わっている看護師が教授する。				
科目目標	老化や健康障害のある高齢者とその家族に対する問題を解決するための看護の方法が習得できる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	治療を受ける高齢者の看護1 薬物療法を受ける高齢者の看護、高齢者の服薬管理	講義	看護職
2	治療を受ける高齢者の看護2 手術療法を受ける高齢者への看護	講義	看護職
3	治療を受ける高齢者の看護3 リハビリテーションを受ける高齢者の看護 (1)日常生活動作能力のアセスメント及び注意点 (2)経過別リハビリテーションの特徴	講義	看護職
4	治療を受ける高齢者の看護4 診療・検査をうける高齢者への看護	講義	看護職
5	治療を受ける高齢者の看護5 入院生活への看護 (1)入院にともなう生活変化　　(2) 入院生活の環境	講義	看護職
6	治療を受ける高齢者の看護6 退院に向けての援助	講義	看護職
7	高齢者に発症しやすい健康障害と看護1 歩行、移動を支える看護 (1) 大腿骨頸部骨折　　(2) 廃用症候群	講義	看護職
8	高齢者に発症しやすい健康障害と看護2 呼吸・循環器機能障害を支える看護 (1) 慢性閉塞性肺疾患　　(2) 心不全	講義	看護職
9	高齢者に発症しやすい健康障害と看護3 呼吸・循環器機能障害を支える看護 (1)肺炎　　(2)誤嚥性肺炎	講義	看護職
１０	高齢者に発症しやすい健康障害と看護4 高齢者に特有な症状・疾患を支える看護 (1)電解質代謝異常　　(2) パーキンソン病	講義	看護職
１１	高齢者に発症しやすい健康障害と看護5 認知症・うつ病・せん妄のある高齢者への看護 (1) 認知症	講義	看護職
１２	高齢者に発症しやすい健康障害と看護6 認知症・うつ病・せん妄のある高齢者への看護 (2) うつ・せん妄の看護	講義	看護職
１３	終末期ケア1 高齢者と死	講義	看護職
１４	終末期ケア2 安らかな死への援助	講義	看護職
１５	試験（2時間）		

テキスト	ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害：メディカ出版 ナーシング・グラフィカ　老年看護学②高齢者看護の実践：メディカ出版
参考図書	
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	高齢者への退院支援				
単位数	１単位	時間	１６時間	履修学年	２年次　　後期
担当講師	病院などで看護師として実務経験のある教員が教授する。				
科目目標	事例を通し、高齢者を総合的に捉えるとともに、高齢者の抱えている問題や高齢者の強みに着目し、退院支援・多職種連携について学ぶことができる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	高齢者をとりまく社会 1　高齢者の生活と家族　　2　高齢者が生活する場	講義	専任教員
2	〃 3　地域包括ケア	講義	専任教員
3	高齢者アセスメント 1　生活行動モデルを用いたアセスメント	講義	専任教員
4	事例展開 1　患者情報の提示、情報の分類	演習	専任教員
5	事例展開 2　情報の分類、アセスメント（関連図によるアセスメント）	演習	専任教員
6	事例展開 3　アセスメント、問題の抽出	演習	専任教員
7	事例展開 4　問題の抽出、看護計画の立案	演習	専任教員
8	事例展開 5　看護計画の立案	演習	専任教員

テキスト	ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害：メディカ出版 ナーシング・グラフィカ　老年看護学②高齢者看護の実践：メディカ出版
参考図書	国民衛生の動向
評価方法	参加状況・課題
備考	

小児看護学

1　小児看護の位置づけ

小児期は人間のライフサイクルのうち、最も成長・発達をとげる時期であり、精神的にも身体的にもサポートが必要である。

近年の高度医療は、複雑な健康問題をもつ小児と家族の増加、入院期間の短縮化をもたらしている。在宅で療養生活を送る慢性疾患を持つ小児や重症心身障害児が増加し、医療的ケアを行いながら学校に通う小児も増えてきている。そのため地域・社会での小児医療が重要となっている。

小児看護は、よりよい生活環境の中で、小児期にある子どもとその家族の健やかな成長・発達をサポートすることを目的としている。したがって、小児看護学は、小児各期の特徴をふまえた上で、その子なりの健やかな成長・発達をとげるため様々な方向からサポートすることの必要性を学び、自らその方法を考え工夫・実践する能力を学習と実践により養うことに焦点を当てる。

2　科目の設定理由

教科は、小児看護学概論と、小児看護学方法論で構成した。

（1）小児看護学概論

小児期は成長・発達の著しい時期であり、その過程には各期の特徴があり、疾病に対する理解も違ってくる。多様化する家族や環境の中で、小児と家族の成長・発達をサポートする知識・技術を養う。健康増進のための社会制度、小児を取り巻く環境や対策についての知識を身に付け、成長・発達に必要な日常生活の基本的技術を習得する。

（2）小児看護学方法論Ⅰ

子どもの健康障害の特徴を理解し、経過別看護を理解出来るようにする。小児医療の進歩や体制整備に伴い、医療依存度の高い子どもが地域や家庭で生活するようになった。そのため、健康障害を持って在宅・地域で暮らす子どもと家族を支えるための知識・技術を習得する。

（3）小児看護学方法論Ⅱ

子どもの健康障害の特徴を理解し、症状別看護が理解出来るようにする。また、症状別看護に必要な技術を習得する。

（4）小児看護学方法論Ⅲ

小児に特徴的な疾患を理解し、小児看護学における知識の統合を目指し、看護問題に関心を持ってとり組むことができるように事例を中心に学習展開する。

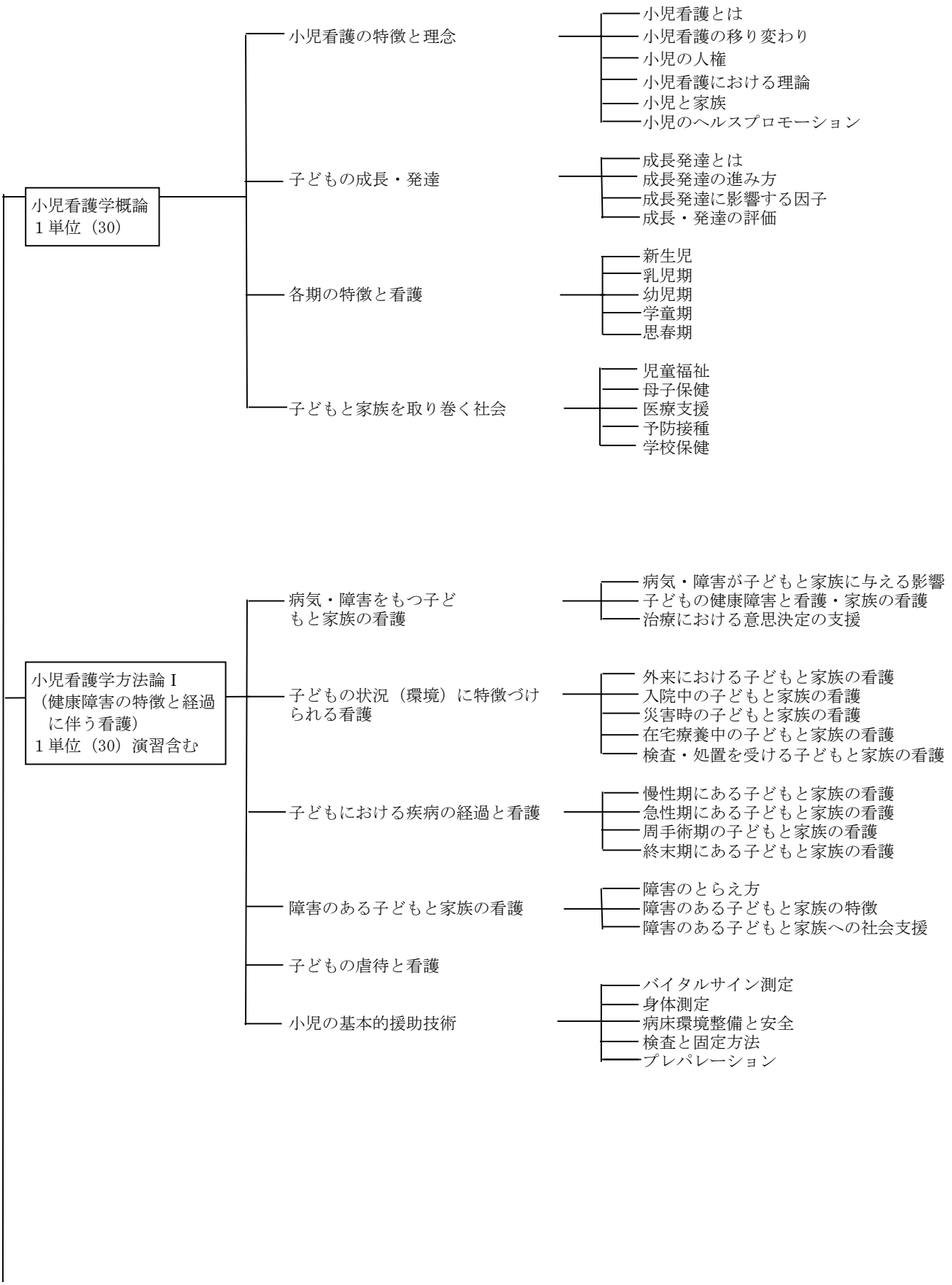
3　目的

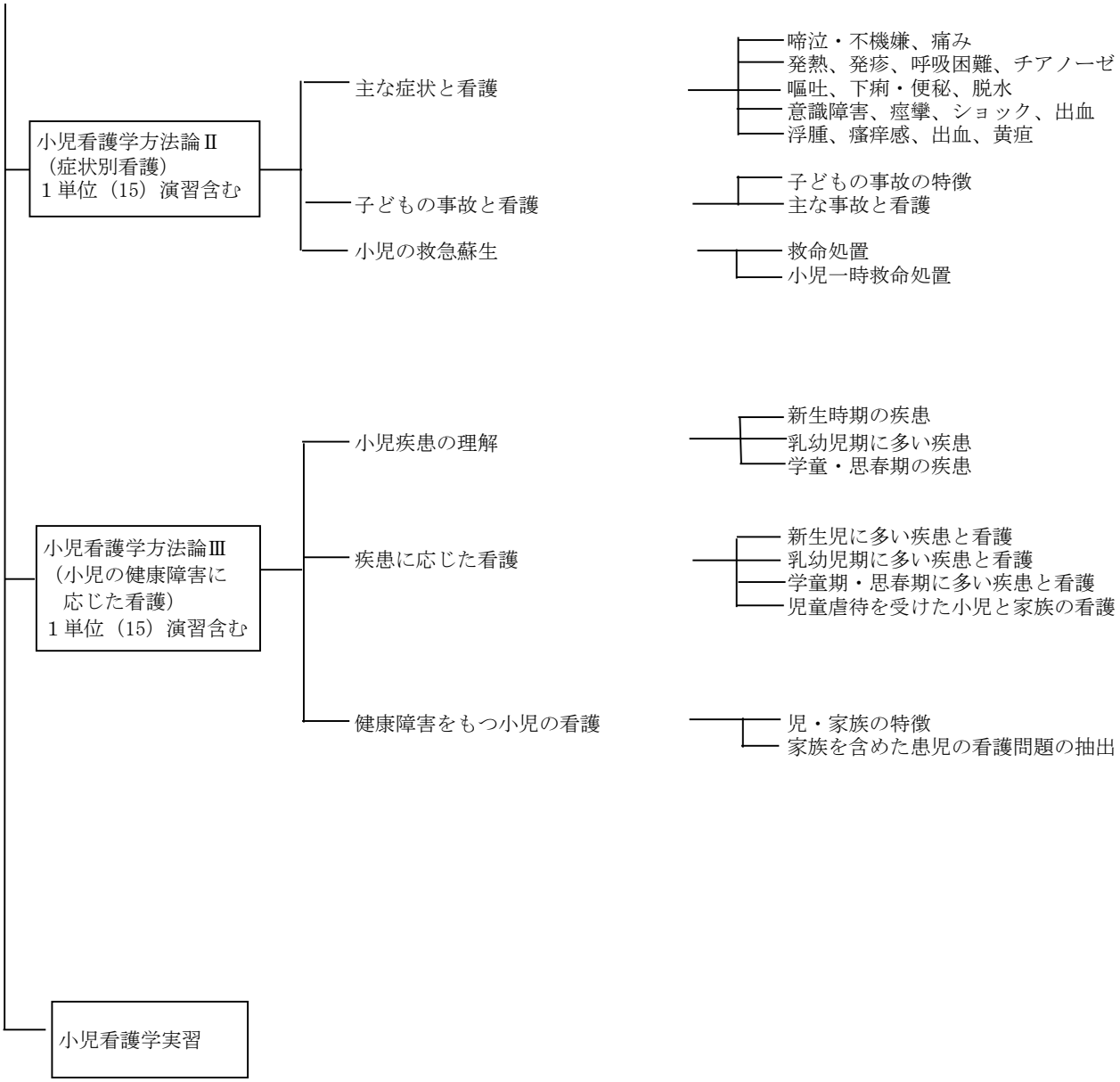
小児の特徴を理解し、成長・発達に応じた看護と育児支援および、あらゆる健康段階の小児とその家族に対する看護援助が実践できる能力を養う。

4　目標

（1）小児期の特徴と小児看護の特徴を理解できる。
（2）小児保健医療・福祉における看護の役割と独自の機能について理解できる。
（3）成長発達に応じた看護と看護技術を習得できる。
（4）小児の健康障害の特徴と成長発達への影響を理解できる。
（5）健康障害を持ち地域・社会で生活する小児と家族への看護が理解できる。
（6）小児に看護を実践し、健康レベルに応じた看護が実践できる能力を養う。

Ⅴ　科目構成


小児看護学概論
１単位（30）
小児看護の特徴と理念
小児看護とは
小児看護の移り変わり
小児の人権
小児看護における理論
小児と家族
小児のヘルスプロモーション
子どもの成長・発達
成長発達とは
成長発達の進み方
成長発達に影響する因子
成長・発達の評価
各期の特徴と看護
新生児
乳児期
幼児期
学童期
思春期
子どもと家族を取り巻く社会
児童福祉
母子保健
医療支援
予防接種
学校保健
小児看護学方法論Ⅰ
（健康障害の特徴と経過
に伴う看護）
１単位（30）演習含む
病気・障害をもつ子ども
もと家族の看護
病気・障害が子どもと家族に与える影響
子どもの健康障害と看護・家族の看護
治療における意思決定の支援
子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護
外来における子どもと家族の看護
入院中の子どもと家族の看護
災害時の子どもと家族の看護
在宅療養中の子どもと家族の看護
検査・処置を受ける子どもと家族の看護
子どもにおける疾病の経過と看護
慢性期にある子どもと家族の看護
急性期にある子どもと家族の看護
周手術期の子どもと家族の看護
終末期にある子どもと家族の看護
障害のある子どもと家族の看護
障害のとらえ方
障害のある子どもと家族の特徴
障害のある子どもと家族への社会支援
子どもの虐待と看護
小児の基本的援助技術
バイタルサイン測定
身体測定
病床環境整備と安全
検査と固定方法
プレパレーション


小児看護学方法論Ⅱ
（症状別看護）
１単位（15）演習含む
主な症状と看護
啼泣・不機嫌、痛み
発熱、発疹、呼吸困難、チアノーゼ
嘔吐、下痢・便秘、脱水
意識障害、痙攣、ショック、出血
浮腫、瘙痒感、出血、黄疸
子どもの事故と看護
子どもの事故の特徴
主な事故と看護
小児の救急蘇生
救命処置
小児一時救命処置
小児看護学方法論Ⅲ
（小児の健康障害に
応じた看護）
１単位（15）演習含む
小児疾患の理解
新生時期の疾患
乳幼児期に多い疾患
学童・思春期の疾患
疾患に応じた看護
新生児に多い疾患と看護
乳幼児期に多い疾患と看護
学童期・思春期に多い疾患と看護
児童虐待を受けた小児と家族の看護
健康障害をもつ小児の看護
児・家族の特徴
家族を含めた患児の看護問題の抽出
小児看護学実習

科目名	小児看護学概論				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　　後期
担当講師	病院などで看護師として実務経験のある教員が教授する。				
科目目標	小児看護学の対象を知り、対象の特徴を理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	小児看護とは 1 小児看護の対象　　2 小児看護の目的と役割	講義	専任教員
2	小児看護の移り変わり　　1 小児医療の変遷 2 小児看護の始まりと変遷　3 小児看護の課題	講義	専任教員
3	小児の人権 1 子どもの権利　2 小児医療と子どもの権利・倫理的配慮	講義	専任教員
4	1 小児看護における理論 ボウルビー・ピアジェ・エリクソン 2 遊びと教育 子どもの権利と遊び	講義	専任教員
5	小児と家族 1 システムとしての家族 2 これからの小児と家族の看護の方向性	講義	専任教員
6	小児の病気・事故の予防と健康増進 1 健康増進に向けた政策	講義	専任教員
7	〃 2 健康増進のための社会制度 (1) 予防接種　　(2) 多様な子育て支援サービス	講義	専任教員
8	〃 3 小児を取り巻く環境と対策	講義	専任教員
9	小児の成長・発達と看護 成長・発達の基礎知識	講義	専任教員
１０	新生児期の看護	講義	専任教員
１１	乳児期の看護	講義	専任教員
１２	幼児期の看護	講義	専任教員
１３	学童期の看護	講義	専任教員
１４	思春期の看護	講義	専任教員
１５	試験（2時間）		

テキスト	系統看護学講座　小児看護学①　小児看護学概論　小児臨床看護総論：医学書院
参考図書	
評価方法	筆記試験・課題・参加状況
備考	

科目名	小児看護学方法論Ⅰ （健康障害の特徴と経過に伴う看護）				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	２年次　　前期
担当講師	病院などで看護師として実務経験のある教員が教授する。また、病院で小児看護に携わる看護師が教授する。				
科目目標	子どもの健康障害の特徴を理解し、経過に応じた看護を理解できる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	病気・障害を持つ子どもと家族の看護 1　病気・障害が子どもと家族に与える影響 2　子どもの健康障害と看護・家族の看護	講義	専任教員
2	外来における小児と家族の看護 1　小児を対象とする外来の特徴と看護の役割 2　外来における小児と家族への看護の実際	講義	看護職
3	入院における小児と家族の看護 1　小児の入院環境 2　入院時の小児と家族への援助	講義	看護職
4	検査・処置を受ける小児と家族の看護 手術を受ける小児と家族の看護	講義	看護職
5	救急における小児と家族の看護	講義	看護職
6	終末期にある子どもと家族の看護	講義	看護職
7	身体障害のある子どもと家族の看護 発達障害のある小児と家族の看護	講義	看護職
8	在宅療養中の子どもと家族への看護	講義	看護職
9	出生直後から集中治療が必要な小児と家族への看護 1　ハイリスク新生児の特徴と看護 2　ハイリスク新生児の環境	講義	看護職
１０	小児の基本援助技術 1　バイタルサイン測定 2　身体計測 3　フィジカルアセスメント	講義	専任教員
１１	4　病床環境整備と安全 5　検査と固定方法・与薬（吸入）	講義	専任教員
１２	6　プレパレーション	講義	専任教員
１３	小児看護技術演習	演習	専任教員
１４	小児看護技術演習	演習	専任教員
１５	試験（2時間）		

テキスト	系統看護学講座　小児看護学①　小児看護学概論　小児臨床看護総論：医学書院
参考図書	
評価方法	筆記試験・課題・参加状況
備考	

科目名	小児看護学方法論Ⅱ （症状別看護）				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	２年次　後期
担当講師	病院などで看護師として実務経験のある教員が教授する。また、病院で小児看護に携わる看護師が教授する。				
科目目標	子どもの健康障害の特徴を理解し、症状別看護を理解できる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	主な症状と看護1 （1）啼泣・不機嫌　（2）痛み	講義	専任教員
2	主な症状と看護2 （3）発熱　（4）発疹　（5）呼吸困難　（6）チアノーゼ	講義	専任教員
3	主な症状と看護3 （7）嘔吐　（8）下痢　（9）脱水　（10）便秘	講義	専任教員
4	主な症状と看護4 （11）意識障害　（12）痙攣　（13）ショック	講義	専任教員
5	主な症状と看護5 （14）出血　（15）浮腫　（16）貧血　（17）黄疸	講義	専任教員
6	事故・外傷と看護 子どもの事故の特徴、主な事故と看護	講義	専任教員
7	小児の救急蘇生 救命処置　小児一時救命処置	演習	医師
8	試験（1時間）		

テキスト	系統看護学講座　小児看護学①　小児看護学概論　小児臨床看護総論：医学書院 系統看護学講座　小児看護学②　小児臨床看護各論：医学書院
参考図書	
評価方法	筆記試験・課題・参加状況
備考	

科目名	小児看護学方法論Ⅲ （小児の健康障害に応じた看護）				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	２年次　　後期
担当講師	医師（小児科専門医）および、病院で小児看護に携わる看護師が教授する。また病院などで看護師として実務経験のある教員が教授する。				
科目目標	小児に特徴的な疾患を理解し、小児の健康障害に応じた看護を理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	疾患の理解 1　新生児に多い疾患	講義	医師
2	2　乳児に多い疾患	講義	医師
3	3　幼児に多い疾患	講義	医師
4	4　学童期に多い疾患	講義	医師
5	疾患に応じた看護 1　先天性障害をもつ小児と家族の看護　(1) ファロー四徴症	講義	看護職
6	(2) 口唇口蓋裂　　(4) ダウン症候群	講義	看護職
7	2　長期療養が必要な小児と家族の看護 (1) ネフローゼ症候群　　(2) 小児糖尿病	講義	看護職
8	(3) 若年性突発性関節症 (4) てんかん	講義	看護職
9	(5) 気管支喘息 (6) アトピー性皮膚炎	講義	看護職
１０	3　がんの小児と家族の看護 (1) 白血病	講義	看護職
１１	4　感染症をもつ小児と家族の看護	講義	看護職
１２	5　児童虐待を受けた小児と家族の看護 6　災害を受けた小児と家族の看護	講義	看護職
１３	7　健康障害をもつ小児の看護 (1) 児・家族の特徴	講義	専任教員
１４	(2) 家族を含めた患児の看護問題の抽出	講義	専任教員
１５	試験（2時間）		

テキスト	系統看護学講座　小児看護学②　小児臨床看護各論：医学書院
参考図書	
評価方法	筆記試験
備考	

母性看護学

1　母性看護学の位置づけ

母性看護学は、看護の対象である人間を母性の側面から捉え、人間の性（セクシュアリティ）・生殖に焦点を当てた対象の理解と看護の方法を理解する領域と位置づける。そのため、性に関する知識と、生殖過程における健康および権利（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）に関する学習を行うことが重要である。

また、母性の対象は、妊娠・分娩・産褥期だけでなく、すべてのライフサイクルにおける女性である。母性機能が健全に発揮できるために、ライフサイクル各期の女性の母性としての特徴を理解し、看護を提供できる能力を養う。

また、生命の創造と誕生を通して、生命誕生の素晴らしさと生命の尊厳を考える。そして、生命の誕生に関して特徴的な妊娠・分娩・産褥期および新生児期の看護が実践できる能力を養う。

実践の場では、看護師の基礎教育における母性看護学では、対象の理解と必要な日常生活におけるセルフケアを促進する援助を行うことに焦点を当てる。

2　科目の設定理由

教科は「母性看護学概論」と周産期の各時期に焦点を当て、「妊娠期の健康を守る」「分娩期の健康を守る」「産褥期・新生児期の健康を守る」、で構成した。

内容は以下の視点で抽出した。

(1)「母性看護学概論」は、人間の性と生殖（リプロダクティブ・ヘルス／ライツ）の特徴と母性の概念について理解し、母性看護の機能と役割を学ばせる。また、母性機能が健全に発揮できるために、ライフサイクル各期の女性の母性としての特徴を理解し、看護を学習する。「妊娠期の健康を守る」「分娩期の健康を守る」「産褥期・新生児期の健康を守る」では、女性のライフサイクルの中でも、性と生殖に焦点を当てて学習する。

(2)「妊娠期の健康を守る」では、正常な経過をたどる妊婦の理解と看護を学ぶ。また、正常からの逸脱としての異常経過を理解する。また、妊娠期で行う看護に必要な技術を演習する。

(3)「分娩期の健康を守る」では、正常な経過をたどる産婦の理解と看護を学ぶ。また、正常からの逸脱としての異常経過を理解する。また、分娩期で行う看護に必要な技術を演習する。

(4)「産褥期・新生児期の健康を守る」では、正常な経過をたどる褥婦と新生児の理解と看護の方法を学ぶ。分娩後の褥婦の身体的・心理的・社会的変化、子宮外に適応していく新生児の過程を理解し、両者が円滑に関係を構築できるように援助していく方法を学んでいく。また、正常からの逸脱としての異常経過を理解する。また、臨地実習では生かせるように、正常な過程をたどる褥婦と新生児の看護過程を展開していく。

3　目的

人間の一生を通して、健全な母性機能を発揮するために必要な看護を提供できる能力を養う。

4　目標

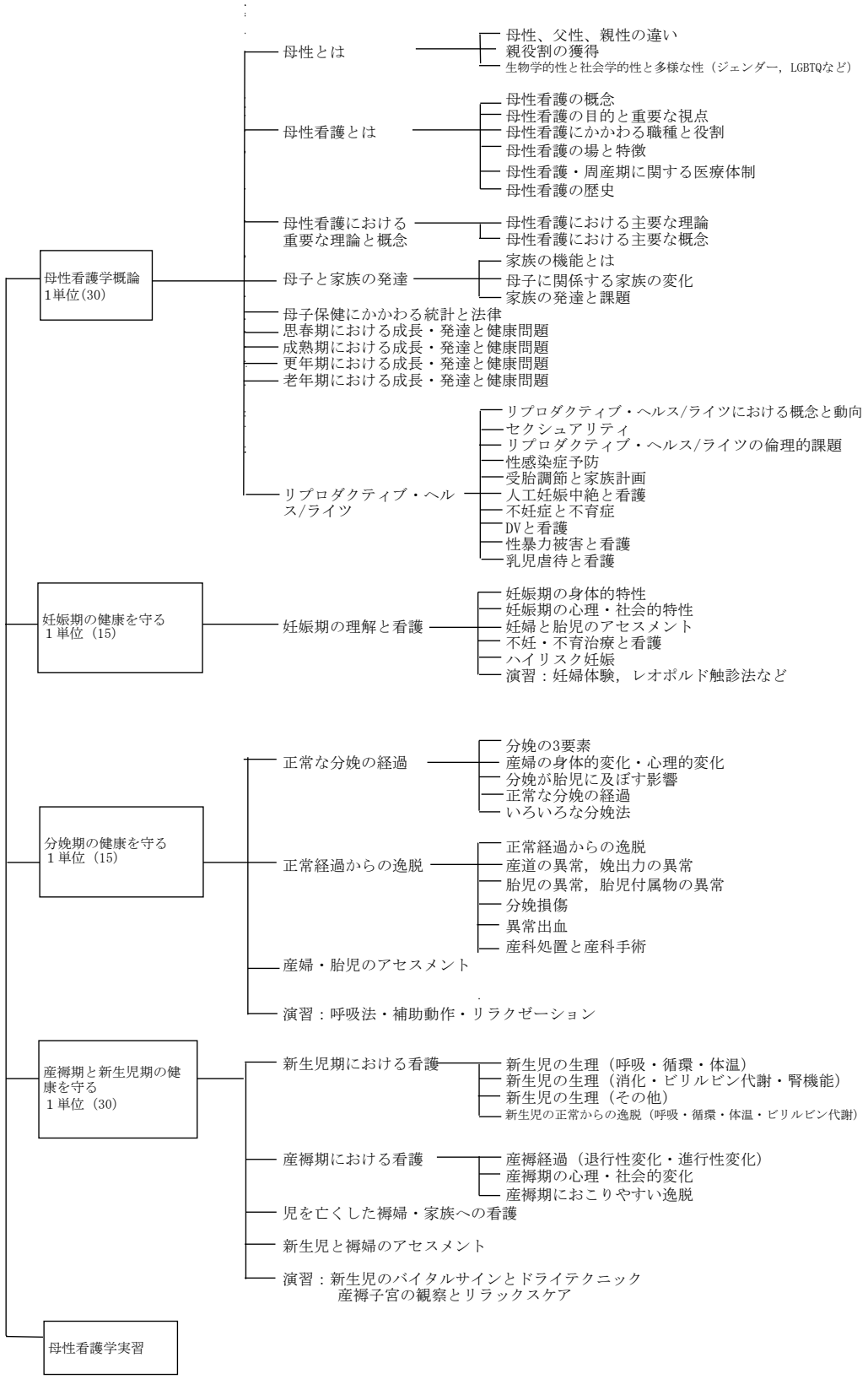
(1) 人間の性と生殖（リプロダクティブ・ヘルス／ライツ）の視点から母性の概念について理解し、母性看護の機能と役割を理解する。

(2) ライフサイクル各期の女性が、健全な母性機能を発揮できるための看護の方法を理解する。

(3) 正常な経過をたどる妊産褥婦と新生児の理解と、正常から逸脱しないための看護の方法を理解する。

(4) 生命の誕生を通して、生命誕生のすばらしさと生命の尊厳について考察することができる。

Ⅴ　科目構成


母性看護学概論
1単位(30)
母性とは
母性、父性、親性の違い
親役割の獲得
生物学的性と社会学的性と多様な性（ジェンダー，LGBTQなど）
母性看護とは
母性看護の概念
母性看護の目的と重要な視点
母性看護にかかわる職種と役割
母性看護の場と特徴
母性看護・周産期に関する医療体制
母性看護の歴史
母性看護における
重要な理論と概念
母性看護における主要な理論
母性看護における主要な概念
母子と家族の発達
家族の機能とは
母子に関係する家族の変化
家族の発達と課題
母子保健にかかわる統計と法律
思春期における成長・発達と健康問題
成熟期における成長・発達と健康問題
更年期における成長・発達と健康問題
老年期における成長・発達と健康問題
リプロダクティブ・ヘル
ス/ライツ
リプロダクティブ・ヘルス/ライツにおける概念と動向
セクシュアリティ
リプロダクティブ・ヘルス/ライツの倫理的課題
性感染症予防
受胎調節と家族計画
人工妊娠中絶と看護
不妊症と不育症
DVと看護
性暴力被害と看護
乳児虐待と看護
妊娠期の健康を守る
１単位（15）
妊娠期の理解と看護
妊娠期の身体的特性
妊娠期の心理・社会的特性
妊婦と胎児のアセスメント
不妊・不育治療と看護
ハイリスク妊娠
演習：妊婦体験，レオポルド触診法など
分娩期の健康を守る
１単位（15）
正常な分娩の経過
分娩の3要素
産婦の身体的変化・心理的変化
分娩が胎児に及ぼす影響
正常な分娩の経過
いろいろな分娩法
正常経過からの逸脱
正常経過からの逸脱
産道の異常，娩出力の異常
胎児の異常，胎児付属物の異常
分娩損傷
異常出血
産科処置と産科手術
産婦・胎児のアセスメント
演習：呼吸法・補助動作・リラクゼーション
産褥期と新生児期の健
康を守る
１単位（30）
新生児期における看護
新生児の生理（呼吸・循環・体温）
新生児の生理（消化・ビリルビン代謝・腎機能）
新生児の生理（その他）
新生児の正常からの逸脱（呼吸・循環・体温・ビリルビン代謝）
産褥期における看護
産褥経過（退行性変化・進行性変化）
産褥期の心理・社会的変化
産褥期におこりやすい逸脱
児を亡くした褥婦・家族への看護
新生児と褥婦のアセスメント
演習：新生児のバイタルサインとドライテクニック
産褥子宮の観察とリラックスケア
母性看護学実習

科目名	母性看護学概論				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	１年次　　前期
担当講師	病院などで看護職員として実務経験のある教員が教授する。				
科目目標	人間の性と生殖の視点から母性の概念を理解し、母性の健康と看護の役割と機能を理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	母性とは 1 母性、父性、親性の違い　　2 親役割の獲得 3 生物学的性と社会的性と多様な性(ジェンダー, LGBTQなど)	講義	専任教員
2	母性看護とは 1 母性看護の概念 2 母性看護の目的と重要な視点 3 母性看護にかかわる職種と役割　　4 母性看護の場と特徴 5 母性看護・周産期に関する医療体制　　6 母性看護の歴史	講義	専任教員
3	母性看護における重要な理論と概念 1 母性看護における主要な理論 2 母性看護における主要な概念 3 世界の母性に関する現状と課題	講義	専任教員
4	母子と家族の発達 1 家族の機能とは　　2 母子関係における家族の変化 3 家族の発達と課題	講義	専任教員
5	母子保健にかかわる統計と法律	講義	専任教員
6	思春期における成長・発達と健康問題	講義	専任教員
7	成熟期における成長・発達と健康問題	講義	専任教員
8	更年期における成長・発達と健康問題	講義	専任教員
9	老年期における成長・発達と健康問題	講義	専任教員
１０	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ 1 リプロダクティブ・ヘルス／ライツにおける概念と動向 2 セクシュアリティ	講義	専任教員
１１	3 リプロダクティブ・ヘルス／ライツの倫理的課題 4 性感染症予防	講義	専任教員
１２	5 受胎調節と家族計画　　6 人工妊娠中絶と看護 7 不妊症と不育症	講義	専任教員
１３	8 DVと看護　　9 性暴力被害と看護 10 乳児虐待と看護	講義	専任教員
１４	母性看護における看護過程	講義	専任教員
１５	試験（2時間）		

テキスト	看護学テキストNICE　母性看護学Ⅰ概論・ライフサイクル（改定第2版）南江堂　2018年
参考図書	国民衛生の動向 新体系看護学全書　母性看護学概論/ウィメンズヘルスと看護　母性看護学①　メヂカルフレンド社　2021年
評価方法	筆記試験・課題・出席
備考	

科目名	妊娠期の健康を守る				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	２年次　　前期
担当講師	病院などで実務経験のある助産師が教授する。 看護過程については専任教員が教授する。				
科目目標	妊娠期の正常な経過と逸脱のサインが理解できる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	妊娠期の身体的特性 1 妊娠の生理　　2 胎児の発育と生理 3 母体の生理的変化	講義	専任教員
2	妊娠期の心理･社会的特性 1 妊婦の心理　　2 妊婦と家族および社会	講義	専任教員
3	不妊・不育治療と看護 1 不妊とその原因・検査　　2 不妊治療 3 不育症とその原因　　4 不妊・不育症の治療	講義	医師
4	ハイリスク妊娠（合併症妊娠） 妊娠期の感染症 妊娠疾患	講義	医師
5	妊婦と胎児のアセスメント（看護過程）	講義	専任教員
6	演習：妊婦体験，レオポルド触診法，妊婦体操，NST着脱	演習	専任教員
7	演習：妊婦体験，レオポルド触診法，妊婦体操，NST着脱	演習	専任教員
8	試験（１時間）		

テキスト	看護学テキストNICE　母性看護学Ⅱマタニティサイクル（改定第2版）南江堂　2018年 写真でわかる母性看護技術アドバンス　インターメディカ
参考図書	系統看護学講座専門分野Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学②　医学書院　2021年
評価方法	筆記試験・課題・出席
備考	

科目名	分娩期の健康を守る				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	２年次　　後期
担当講師	病院などで実務経験のある助産師が教授する。 看護過程については専任教員が教授する。				
科目目標	分娩期の正常な経過と逸脱のサインが理解できる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	分娩の３要素 産婦の身体的変化・心理的変化 分娩の胎児への影響	講義	看護職
2	正常な分娩の経過 いろいろな分娩法	講義	看護職
3	正常経過からの逸脱 産道の異常，娩出力の異常，胎児の異常，胎児付属物の異常 分娩損傷 異常出血	講義	看護職
4	産科処置と産科手術	講義	医師
5	産婦・胎児のアセスメント	講義	専任教員
6	演習；呼吸法，補助動作，リラクゼーション	演習	看護職
7	演習；呼吸法，補助動作，リラクゼーション	演習	看護職
8	試験（１時間）		

テキスト	看護学テキストNICE　母性看護学Ⅱマタニティサイクル（改定第2版）南江堂　2018年 写真でわかる母性看護技術アドバンス　インターメディカ
参考図書	系統看護学講座専門分野Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学②　医学書院　2021年
評価方法	筆記試験・課題・出席
備考	

科目名	産褥期と新生児期の健康を守る				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	２年次　後期
担当講師	実務経験のある助産師が教授する。 看護過程については専任教員が教授する。				
科目目標	褥婦と新生児の正常な経過と逸脱のサインが理解できる。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	新生児における看護 1 新生児の生理（呼吸・循環・体温）	講義	看護職
2	2 新生児の生理（消化・ビリルビン代謝・腎機能）	講義	看護職
3	3 新生児の生理（その他）	講義	看護職
4	新生児の正常からの逸脱 （呼吸・循環・体温・ビリルビン代謝）	講義	看護職
5	産褥期における看護 1 産褥経過（退行性変化･進行性変化）	講義	看護職
6	2 産褥期の心理・社会的変化	講義	看護職
7	3 産褥期におこりやすい逸脱	講義	看護職
8	児を亡くした褥婦・家族への看護	講義	看護職
9	新生児と褥婦のアセスメント	講義	専任教員
１０	新生児と褥婦のアセスメント	講義	専任教員
１１	新生児と褥婦のアセスメント	講義	専任教員
１２	新生児と褥婦のアセスメント	講義	専任教員
１３	演習：新生児のバイタルサインとドライテクニック	演習	看護職
１４	演習：産褥子宮の観察とリラックスケア	演習	看護職
１５	試験（2時間）		

テキスト	看護学テキストNICE　母性看護学Ⅱマタニティサイクル（改定第2版）南江堂　2018年 写真でわかる母性看護技術アドバンス　インターメディカ
参考図書	系統看護学講座専門分野Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学②　医学書院　2021年
評価方法	筆記試験・課題・出席
備考	

看護の統合と実践

1　看護の統合と実践の位置づけ

看護の統合と実践は、基礎分野、専門基礎分野、看護の統合と実践以外の専門分野で学習した内容を、より臨床実践に近い状態で学習し、知識・技術を統合する領域と位置づける。

現代は、看護業務の複雑化・多様化、国民の医療安全に関する意識の向上等の中で、学生の看護技術の実習範囲や機会が制限される傾向にある。その結果、臨床現場からは卒業時の実践能力の低下も指摘されている。教育と臨床現場のギャップを抱えた状況の中で、臨床実践に適応できる問題解決能力や看護実践能力を備えた看護師の育成に向けた教育が求められ、これまで以上に臨床業務に接近した状況での、知識や技術の統合が求められている。

看護の統合と実践では、これまで学習した知識・技術を統合し、より実践に近い環境の中で、看護を実践できる能力を養うことをねらいとしている。具体的には、組織における看護師の役割を理解すること、チーム医療の時代、他職種との連携・協働の中で看護師としてのメンバーシップやリーダーシップを理解し看護がマネジメントできる能力を身につけること、医療現場で重要となる医療安全や災害直後から支援できる看護の基礎的能力を身に付けること、そして、国際社会において、広い視野に基づき看護師として諸外国との協力ができることを学ぶ。また、看護を探求していくための一方法として、看護研究を学び、学び続けることの意義を理解し、継続教育につなげていく。

2　科目の設定理由

科目は、医療安全、看護管理、災害看護・国際看護、看護研究、多重課題演習で、指定規則4単位のところを5科目5単位とした。

以下のとおりである。

(1)「医療安全」では、医療安全の基礎知識を学び、その後演習をとおして、安全な看護を提供するための判断力・実践力を身につけることができるように設定した。

(2)「看護管理」では、看護をマネジメントできる基礎的能力を養い、他職種との協働の中で看護を行う一員としての役割や責任について理解できる内容とした。

(3)「災害看護・国際看護」では、

①災害看護の基礎的知識を学び、災害時の看護の役割を理解する。その中で、災害時の精神的援助について考えさせたい。また、災害時に必要な基礎的援助技術は、演習で習得する。

②国際看護の基礎的知識と看護職の国際協力活動を学び、今後の国際看護活動の展望を考える機会とする。

(4)「看護研究」では、看護を探求していくための一方法を学習し、卒後教育に役立てる。

(5)「多重課題演習」では、臨床実践に近い形で実際の看護業務を疑似体験し、複数課題での総合的な判断・対応を学習できるようグループワーク、演習をとおして学習する。さらに、演習をとおして、自己の臨床実践力の視点から振り返り、課題が見出すことができる内容とした。

3　目的

既習した知識・技術を統合し、医療チームの一員として看護を実践するための能力を養う。

4　目標

(1) 医療従事者として、事故防止に向けての意識を高める。

(2) 医療現場の中の危険要因を知り、安全な看護を提供するための判断力・実践力を身につける。

(3) 看護をマネジメントできる基礎的知識を理解する。

(4) チーム医療及び他職種との協働の中で、看護師としての役割や責任を理解する。

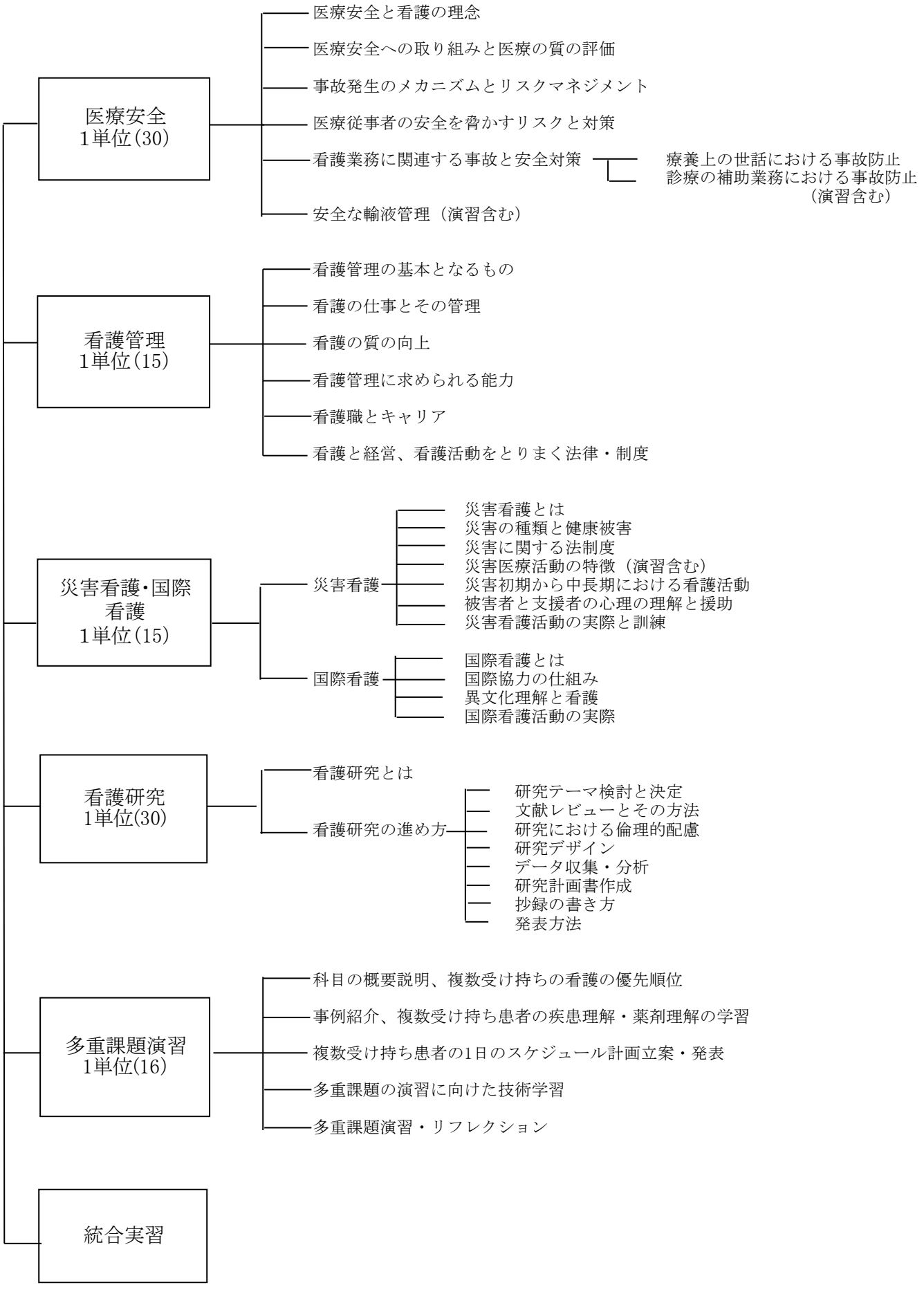
(5) 災害看護の基本的知識と災害時の看護の役割・看護活動が理解できる。

(6) 看護職の国際協力活動を学び、今後の展望を考えることができる。

(7) 看護研究の意義を理解し、研究の基礎を学ぶとともに、研究的態度を養う。

(8) 実践に即した事例の演習を通して、自己の臨床実践力の視点から振り返り、専門職としての責任感を身につける。

Ⅴ　科目構成


医療安全
1単位(30)
医療安全と看護の理念
医療安全への取り組みと医療の質の評価
事故発生のメカニズムとリスクマネジメント
医療従事者の安全を脅かすリスクと対策
看護業務に関連する事故と安全対策
療養上の世話における事故防止
診療の補助業務における事故防止
（演習含む）
安全な輸液管理（演習含む）
看護管理
1単位(15)
看護管理の基本となるもの
看護の仕事とその管理
看護の質の向上
看護管理に求められる能力
看護職とキャリア
看護と経営、看護活動をとりまく法律・制度
災害看護・国際
看護
1単位(15)
災害看護
災害看護とは
災害の種類と健康被害
災害に関する法制度
災害医療活動の特徴（演習含む）
災害初期から中長期における看護活動
被害者と支援者の心理の理解と援助
災害看護活動の実際と訓練
国際看護
国際看護とは
国際協力の仕組み
異文化理解と看護
国際看護活動の実際
看護研究
1単位(30)
看護研究とは
看護研究の進め方
研究テーマ検討と決定
文献レビューとその方法
研究における倫理的配慮
研究デザイン
データ収集・分析
研究計画書作成
抄録の書き方
発表方法
多重課題演習
1単位(16)
科目の概要説明、複数受け持ちの看護の優先順位
事例紹介、複数受け持ち患者の疾患理解・薬剤理解の学習
複数受け持ち患者の1日のスケジュール計画立案・発表
多重課題の演習に向けた技術学習
多重課題演習・リフレクション
統合実習

科目名	医療安全				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	２年次　　後期
担当講師	実際の現場で医療安全・感染対策を行っている看護師がその専門性を活かして教授する。				
科目目標	1　医療従事者として、事故防止に向けての意識を高める。 2　医療現場の中の危険要因を知り、安全な看護を提供するための判断力・実践力を身につける。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	医療安全と看護の理念	講義	看護職
2	医療安全への取り組みと看護の質の評価 1 国の医療安全への取り組み 2 看護職能団体の取り組み	講義	看護職
3	〃 3 医療安全管理者　医療安全の中心的役割 4 医療事故への対応	講義	看護職
4	〃 5 医療事故の被害者・家族の思いに寄り添ったケア 6 医療事故の報告制度　3）医療の質の評価	講義	看護職
5	事故発生のメカニズムとリスクマネジメント 事故発生のメカニズム、事故分析、事故対策	講義	看護職
6	医療従事者の安全を脅かすリスクと対策 1 感染対策	講義	看護職
7	〃 2 看護職の業務上の危険	講義	看護職
８・９	看護業務に関連する事故と安全対策 1 療養上の世話における事故防止 （1）転倒転落：分析と対策　　（2）誤嚥：分析と対策 （3）危険予測（事例をもとにグループワーク）	講義・GW	専任教員
１０	2 診療の補助業務における事故防止 （1）チューブ類のトラブル：分析と対策 演習に向けた援助計画作成	講義・GW	専任教員
１１	チューブ・ドレーンを挿入している患者の安全な車いす移送（演習）	演習 GW・発表	専任教員
１２	（2）誤薬と与薬事故：分析と対策 （3）　〃　　演習のオリエンテーション	講義・演示	専任教員
１３・１４	安全な輸液管理（演習） ・静脈内注射の管理、医療機器（輸液ポンプ）の操作・管理含む	演習	専任教員
１５	試験（2時間）		
テキスト	医療安全　看護の統合と実践②　：　メディカ出版		
参考図書			
評価方法	筆記試験		
備考			

科目名	看護管理				
単位数	１単位	時間	１５時間	履修学年	３年次　　前期
担当講師	病院で、看護のマネジメントに携わっている看護師が教授する。				
科目目標	1　看護をマネジメントできる基礎的知識を理解する。 2　チーム医療及び他職種との協働の中で、看護師としての役割や責任を理解する。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	看護管理の基本となるもの 1 看護管理とは　　2 看護管理の基盤となる知識 3 看護管理のプロセス　　4 専門職とは	講義	看護職
2	〃 5 市民・多職種との連携・協働 (1) 専門職間での連携・協働 (2) ヘルスケア現場で働く専門職と連携・協働の実際	講義	看護職
3	看護師の仕事とその管理 1 看護管理で重要なこと 2 人を育て生かす 3 モノの管理　　4 情報の管理　　5 コストの管理	講義	看護職
4	看護の質向上 1 看護管理と倫理 2 医療・看護の質と評価	講義	看護職
5	看護管理に求められる能力 1 セルフマネジメントのスキル 2 人と関わるためのスキル 3 集団に働きかけるスキル	講義	看護職
6	看護職とキャリア 1 社会人になる 2 看護の教育体系 3 看護職としてのキャリア	講義	看護職
7	看護と経営、看護活動をとりまく法律・制度 1 看護と経営 2 看護活動をとりまく法律・制度	講義	看護職
8	試験（1時間）		

テキスト	看護管理　看護の統合と実践①　：　メディカ出版
参考図書	
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	災害看護・国際看護				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	３年次　後期
担当講師	病院で、災害看護に携わっている看護師が教授する。また、救急救命活動に携わっている消防士（救急担当）が演習指導にあたる。また、国際看護では、海外で看護活動を経験した看護師が教授する。				
科目目標	1　災害看護の基本的知識と災害時の看護の役割・看護活動が理解する。 2　応急処置に必要な基本的援助技術が習得する。 3　看護職の国際協力活動を学び、今後の展望を考える。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	1　災害看護 (1) 災害看護とは (2) 災害の種類と健康被害	講義	看護職
2	(3) 災害に関する法制度 ①災害医療に関する国の政策　②災害医療に関する法律	講義	看護職
3	(4) 災害時の支援体制 ①災害時の情報収集と伝達　②災害医療体制 ③災害時における連携と協働	講義	看護職
4	(5) 災害医療活動の特徴 ①災害サイクル　②系統的対応の基本原則 ③ﾄﾘｱｰｼﾞ　④応急処置・治療　⑤移送・搬送　⑥感染対策	講義	看護職
5	〃 ⑦応急処置法（止血法、骨折の固定法）	講義 演習	看護職
6	〃　一時救命処置（救急救命講習）	演習	外部講師
7	〃	演習	外部講師
8	(6) 災害初期から中長期における看護活動	講義	看護職
9	(7) 被害者と支援者の心理の理解と援助	講義	看護職
１０	(8) 災害看護活動の実際と訓練	講義 DVD視聴	看護職
１１	2　国際看護 (1) 国際看護とは	講義	看護職
１２	(2) 国際協力の仕組み	講義	看護職
１３	(3) 異文化理解と看護	講義	看護職
１４	(4) 国際看護活動の実際	講義	看護職
１５	試験（2時間）		

テキスト	災害看護　看護の統合と実践③　：メディカ出版
参考図書	災害看護学学習テキスト　概論編・実践編　：日本看護協会出版会
評価方法	筆記試験
備考	

科目名	看護研究				
単位数	１単位	時間	３０時間	履修学年	３年次　　後期
担当講師	看護研究の専門家として、多くの研究論文の実績のある大学講師・教授等が教授する。				
科目目標	看護研究の意義を理解し、研究の基礎を学ぶとともに、研究的態度を養う。				

回数	授業計画	学習方法	講師
１	看護研究とは　　看護研究の意義	講義	看護職
２	看護研究の進め方　１ 研究テーマの検討と決定	講義	看護職
３	〃　　２ 文献レビューとその方法	講義	看護職
４	〃	講義	看護職
５	〃　　３ 研究における倫理的配慮	講義	看護職
６	〃	講義	看護職
７	〃　　４ 研究デザインー研究の設計と方法の選択	演習	看護職
８	〃	講義	看護職
９	〃　　５ データ収集・分析	講義	看護職
１０	〃	講義	看護職
１１	〃　　６ 研究計画書作成	演習	看護職
１２	〃	演習	看護職
１３	〃　　７ 抄録の書き方	講義	看護職
１４	〃　　８ 発表方法	講義	看護職
１５	看護研究における今後の課題	講義	看護職

テキスト	なし
参考図書	系統看護学講座　看護研究　　：　医学書院
評価方法	課題
備考	

科目名	多重課題演習				
単位数	１単位	時間	１６時間	履修学年	３年次　　後期
担当講師	病院などで看護師として実務経験のある教員が教授する。				
科目目標	１　事例の中で複数の患者を受け持ち、優先順位を考えて援助を考える。 ２　実践に即した技術演習を通して、自己の臨床実践力の視点から振り返り、専門職としての責任感を身につける。				

回数	授業計画	学習方法	講師
1	科目の概要説明、複数受け持ちの看護の優先順位	講義	専任教員
2	事例紹介、複数受け持ち患者の疾患理解・薬剤理解の学習	個人ワーク	専任教員
3	複数受け持ち患者の1日のスケジュール計画立案	GW	専任教員
4	〃	GW	専任教員
5	スケジュール計画発表	発表	専任教員
6	多重課題の演習に向けた技術学習	演習OR 練習	専任教員
7	多重課題演習（2名の受け持ち患者）	演習	専任教員
8	多重課題及びリフレクション	演習・GW	専任教員

テキスト	なし
参考図書	看護管理　看護の統合と実践①　：　メディカ出版 新体系　看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ：メヂカルフレンド社
評価方法	課題・リフレクション・参加状況
備考	